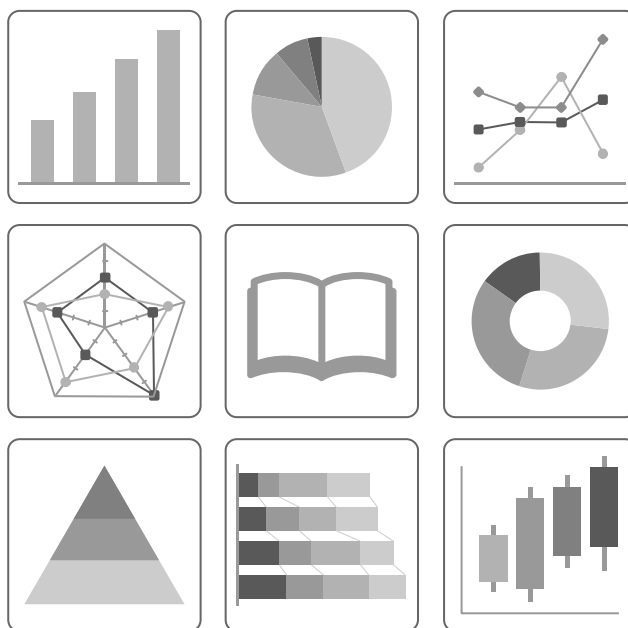


私らしく暮らせるみはらへ
市民意識調査
調査結果報告書



令和3年10月

三 原 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	居住地域	3
(4)	結婚の状況	3
(5)	家族構成	3
(6)	回答者本人とその配偶者の就労形態（既婚者のみ）	4
2	家庭における男女共同参画について	6
(1)	結婚，家庭，離婚について	6
(2)	「夫は外で働き，妻は家庭を守る」という考え方について	7
(3)	子どもの世話の担当者	9
(4)	結婚生活における家事の役割分担の理想と現実	14
(5)	新型コロナウイルス感染症についての不安	23

3	仕事について	25
(1)	回答者の就労状況	25
(2)	最初の仕事を続けていない理由	26
(3)	女性が職業を持つことについて	28
(4)	現在は女性が働きやすい状況か	30
(5)	出産後離職せず働き続けるために必要なこと	32
4	男女平等に関する教育について	34
(1)	男女平等の推進のために行うとよい学校教育	34
5	社会生活における男女共同参画について	36
(1)	地域活動や地域行事への参加経験	36
(2)	参加したことのある地域活動や地域行事	37
(3)	地域活動に参加したことがない理由	39
(4)	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するために必要なこと	41
6	男女の人権に対する問題について	43
(1)	セクシュアル・ハラスメントに該当する行為	43
(2)	配偶者・パートナー間の暴力の経験	47
(3)	暴力について打ち明けたり相談したこと	49
(4)	どこにも相談しなかった理由	51
(5)	配偶者の暴力をなくすために必要なこと	53
7	多様な性についての意識	55
(1)	身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験	55
(2)	性的少数者にとって生活しづらい社会か	56
(3)	性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策	57
8	男女共同参画の実現について	59
(1)	政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由	59
(2)	防災や災害復興について女性の視点を特に取り入れて取り組むべきこと	61
(3)	分野ごとの男女平等度	64
(4)	男女共同参画社会実現に向け力を入れていくべきこと	73
Ⅲ	自由意見	75
Ⅳ	調査票	82

I 調査の概要

1 調査の目的

「第4次三原市男女共同参画プラン」の策定にあたり、市民の男女共同参画社会に対する考えや意見などを聞き、計画策定の基礎資料とするため、調査を実施しました。

2 調査対象

市内に居住する満18歳以上の方から、男女各1,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和3年6月21日から令和3年7月9日

4 調査方法

郵送による配布・回収（インターネットでの回答を併用）

5 回収状況

配布数	2,000票
回収数・率	826票 41.3% 〔 書面回答：549票 66.5% Web 回答：277票 33.5%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

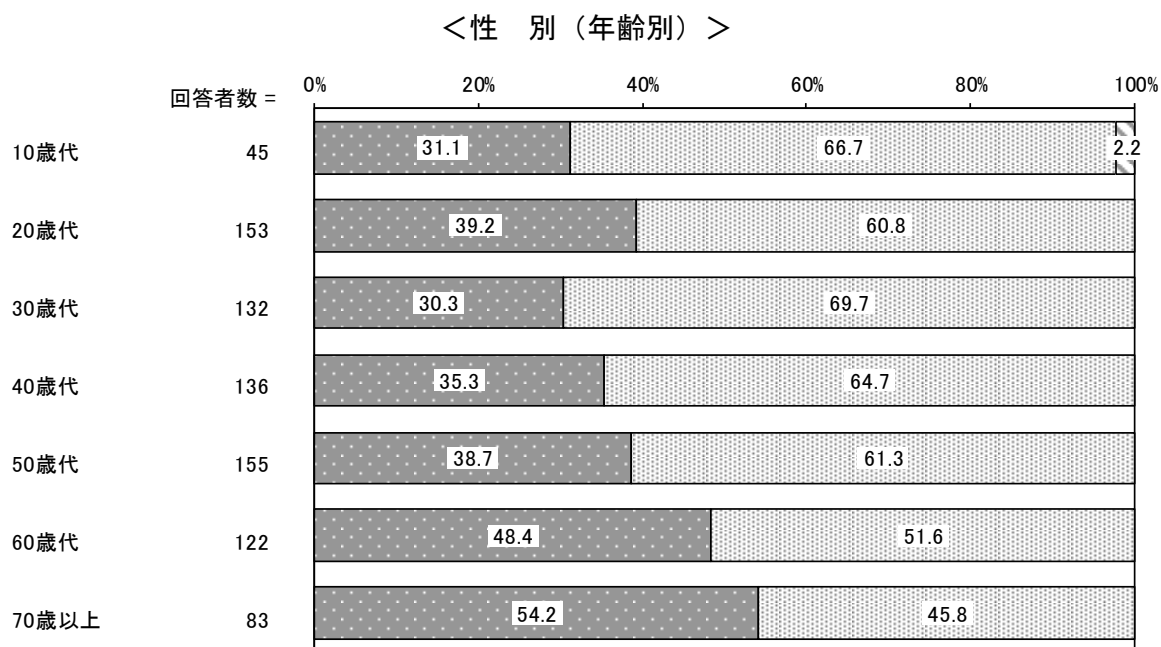
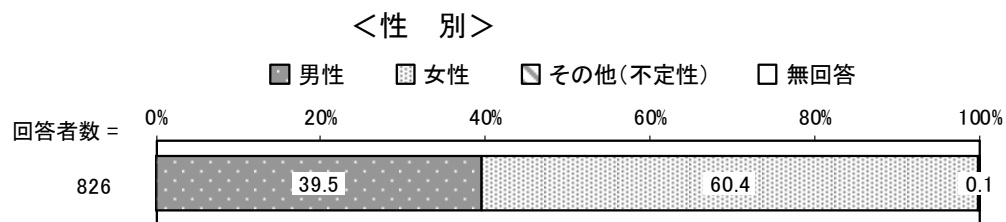
Ⅱ 調査結果

1 回答者属性

(1) 性別

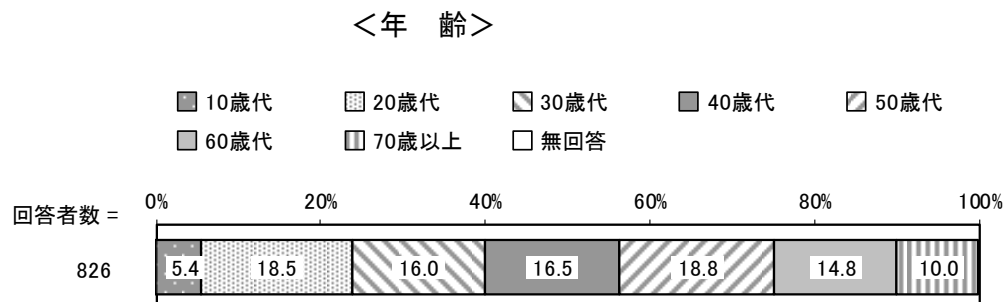
回答者の性別については、「男性」の割合が 39.5%、「女性」の割合が 60.4%と、女性が多くなっています。

年齢別では、30 歳代以上で年齢が高くなるにつれ「男性」の割合が高くなる傾向がみられ、70 歳以上で半数以上が「男性」となっています。



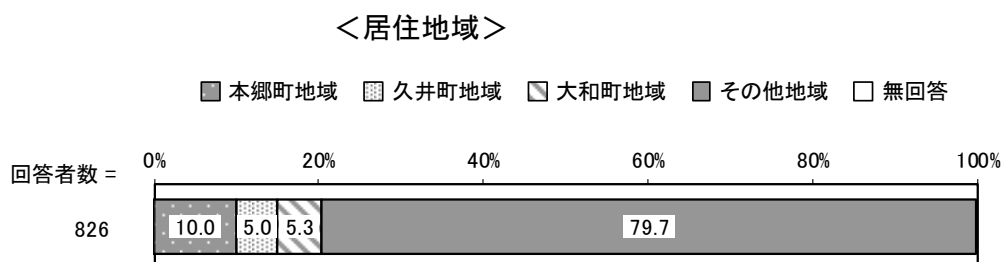
(2) 年齢

回答者の年齢構成については、「50 歳代」の割合が 18.8%と最も高く、次いで「20 歳代」の割合が 18.5%、「40 歳代」の割合が 16.5%となっています。



（３）居住地域

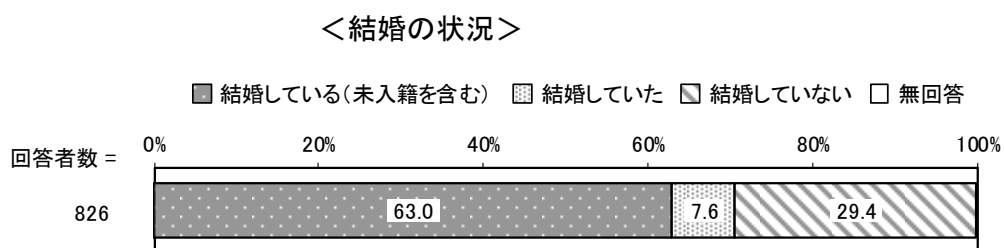
回答者の居住地域については、「その他地域」の割合が 79.7%と最も高く、次いで「本郷町地域」の割合が 10.0%となっています。



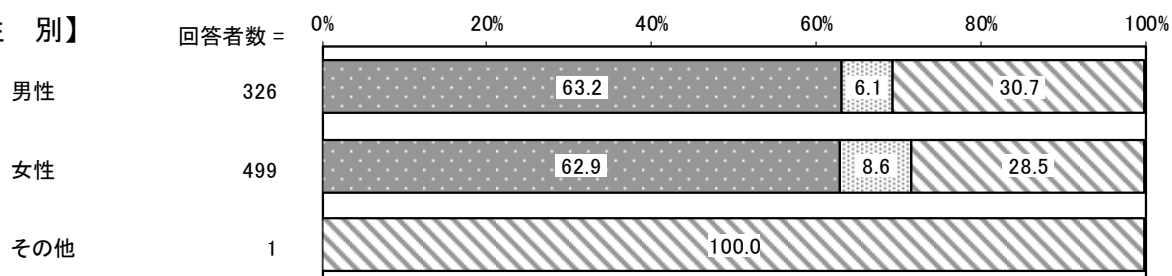
（４）結婚の状況

回答者の結婚の状況については、「結婚している（未入籍を含む）」の割合が 63.0%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が 29.4%となっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

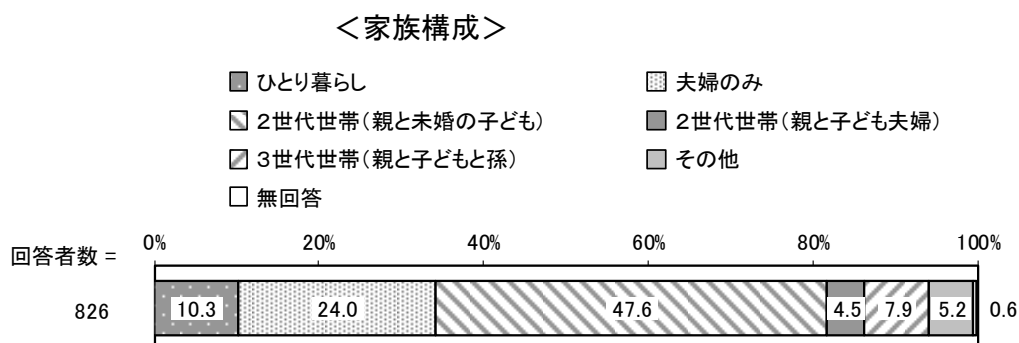


【性 別】



（５）家族構成

回答者の家族構成については、「２世代世帯（親と未婚の子ども）」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「夫婦のみ」の割合が 24.0%、「ひとり暮らし」の割合が 10.3%となっています。



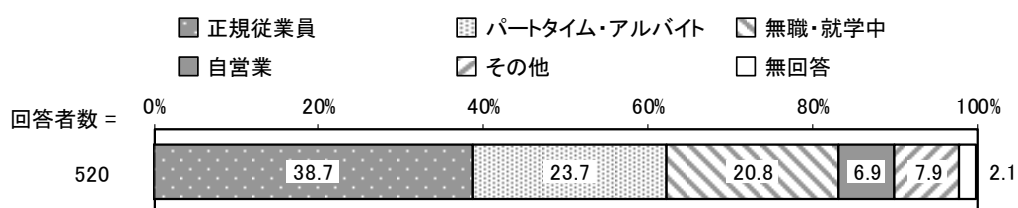
（６）回答者本人とその配偶者の就労形態（既婚者のみ）

１．回答者本人の就労状況

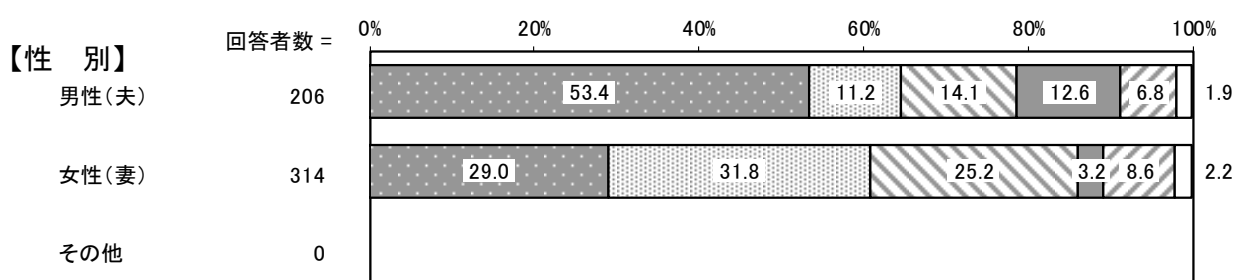
既婚の回答者の就労状況については「正規従業員」の割合が38.7%と最も高く、次いで「パートタイム・アルバイト」の割合が23.7%、「無職・就学中」の割合が20.8%となっています。ただし、回答者の性別構成が男性よりも女性が多いため、性別構成の影響があることに留意が必要です。

性別でみると、女性（妻）に比べ、男性（夫）で「正規従業員」の割合が高くなっています。また、男性（夫）に比べ、女性（妻）で「パートタイム・アルバイト」「無職・在学中」の割合が高くなっています。

<回答者本人の就労状況>



<回答者本人の就労状況（性別）>

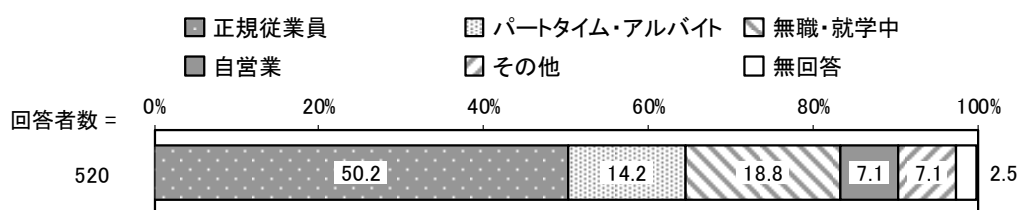


2. 配偶者の就労状況

回答者の配偶者の就労状況については、「正規従業員」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「無職・就学中」の割合が 18.8%、「パートタイム・アルバイト」の割合が 14.2%となっています。もっとも、本間についても、回答者の就労状況と同様、回答者の性別構成に偏りがあることに留意する必要があります。

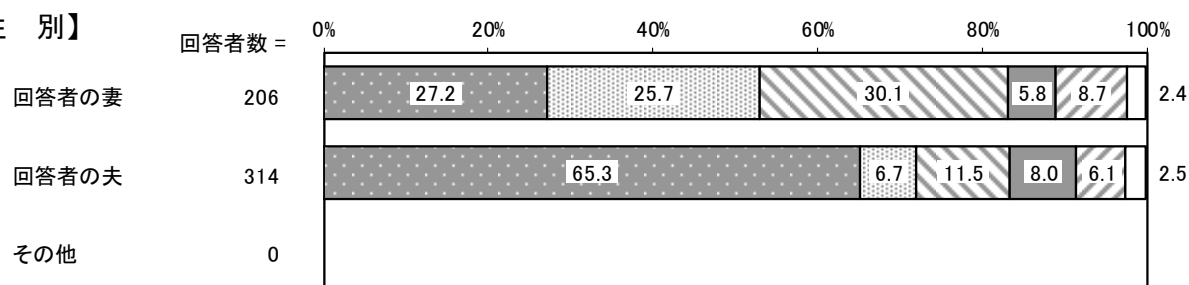
性別でみると、回答者の妻に比べ、回答者の夫で「正規従業員」の割合が高くなっています。また、回答者の夫に比べ、回答者の妻で「パートタイム・アルバイト」「無職・在学中」の割合が高くなっています。

<配偶者の就労状況>



<配偶者の就労状況（性別）>

【性別】



2 家庭における男女共同参画について

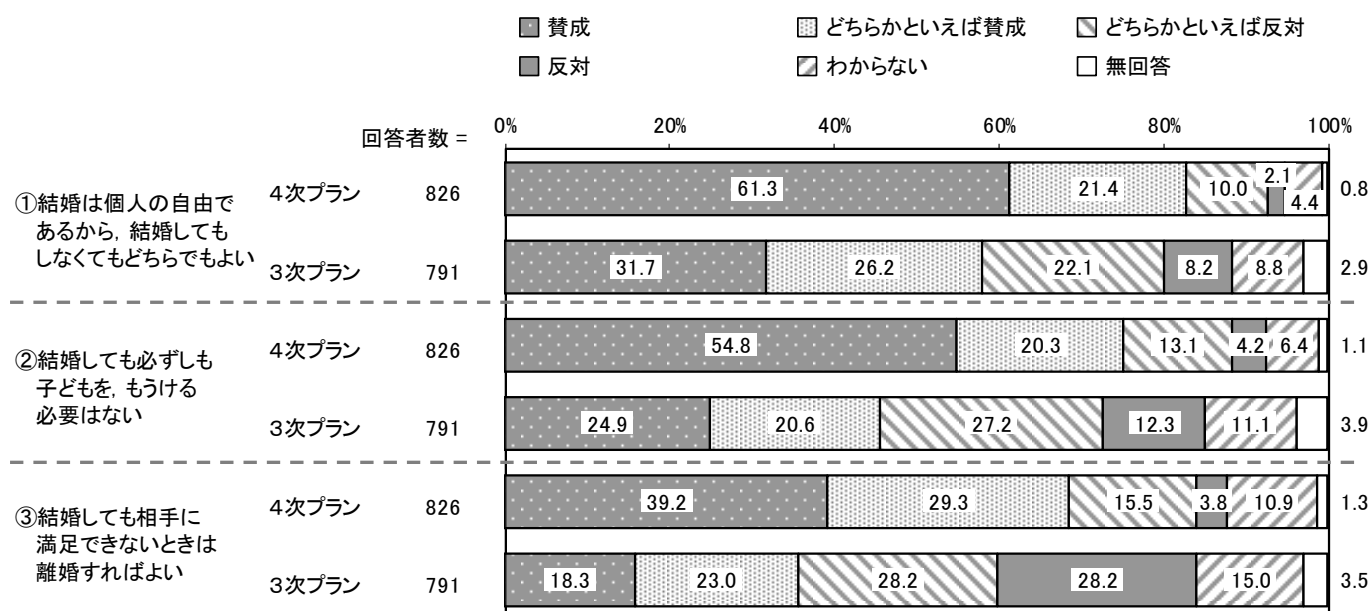
(1) 結婚、家庭、離婚について

問7 結婚、家庭、離婚に関する次のような意見についてどのように思いますか。
(○は①～③それぞれ1つだけ)

結婚、家庭、離婚については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合は、『①結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい』で82.7%、『②結婚しても必ずしも子どもを、もうける必要はない』では75.1%、『③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』では68.5%となっています。

3次プランと比較すると、いずれの項目でも“賛成”の割合が、いずれも20ポイント以上増加しており、中でも『②結婚しても必ずしも子どもを、もうける必要はない』では29.6ポイント増加しています。

<結婚、家庭、離婚について>



（２）「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について

問８ あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどのようにお考えですか。（１つに○）

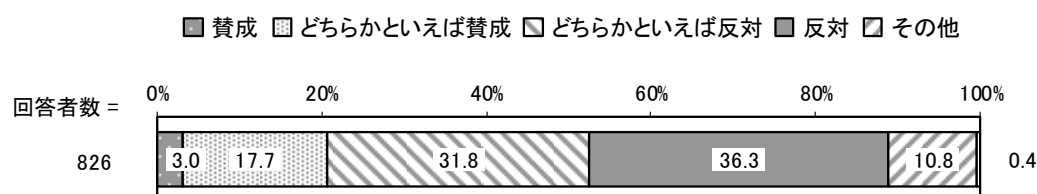
「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方については、「賛成」と「どちらかといえば賛成」をあわせた“賛成”の割合が 20.7%、「どちらかといえば反対」と「反対」をあわせた“反対”の割合が 68.1%となっており，“反対”が“賛成”より 47.4 ポイント高くなっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高く、27.7%となっています。一方、女性では“反対”の割合が高く、79.4%となっています。

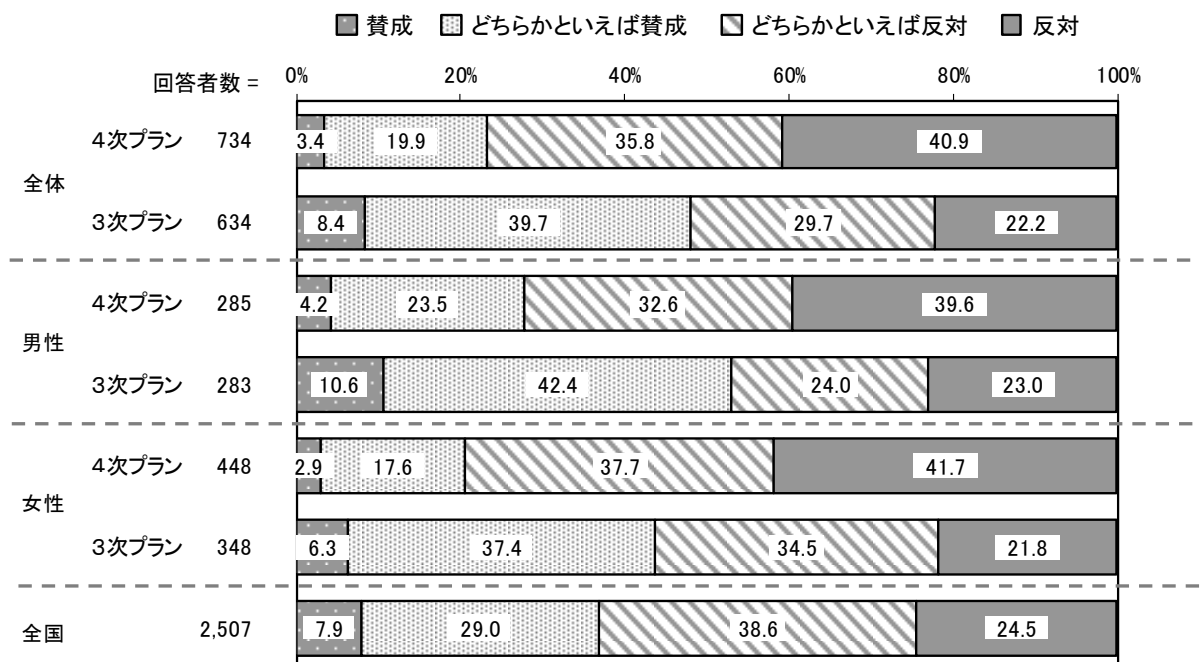
全国調査と比較すると、全国に比べ、三原市では“反対”の割合が 13.6 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全年齢で“賛成”より“反対”の割合が高くなっています。また、年齢が下がるにつれ“反対”の割合が高くなる傾向がみられ、10 歳代では約 8 割となっています。

＜「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について（全体）＞



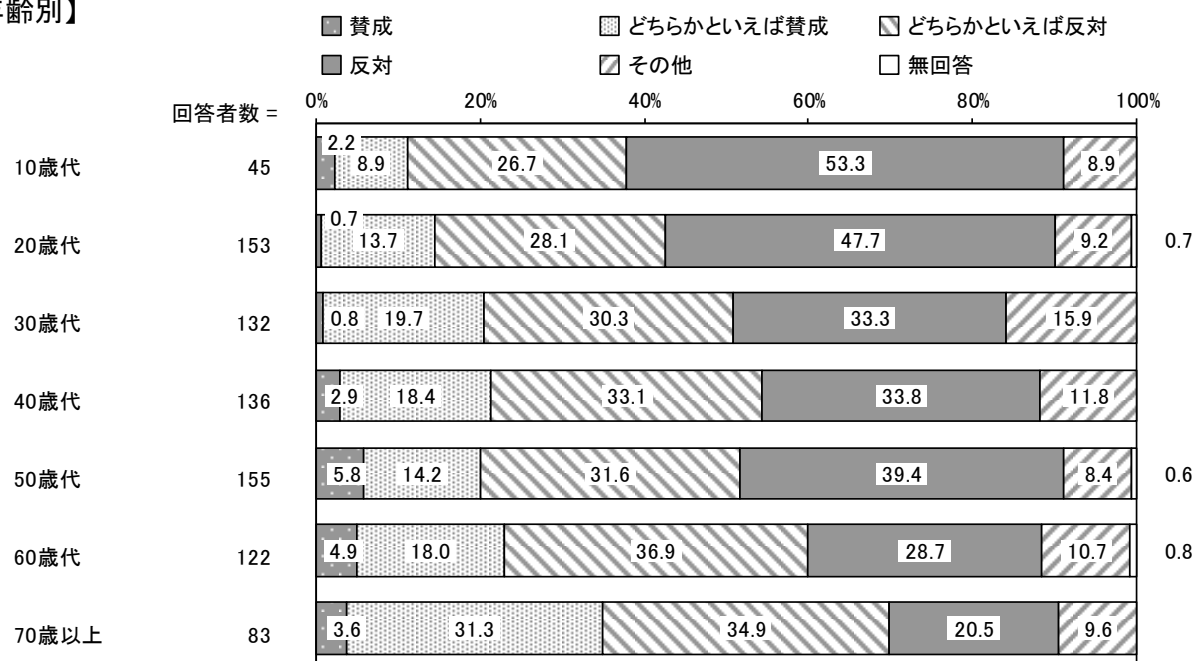
「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について（全体、性別、全国）



※全国調査：「令和元年度の男女共同参画社会に関する世論調査」（令和元年 9 月）と比較するために、「その他」「無回答」の人を除いて集計しています。また、4 次プランと比較するため、3 次プランの「わからない」の人を除いて集計しています。

<「夫は外で働き、妻は家庭を守る」という考え方について（年齢別）>

【年齢別】



(3) 子どもの世話の担当者

問4で、「結婚している」と回答した方のうち、お子さんのいらっしゃる方にお聞きします。

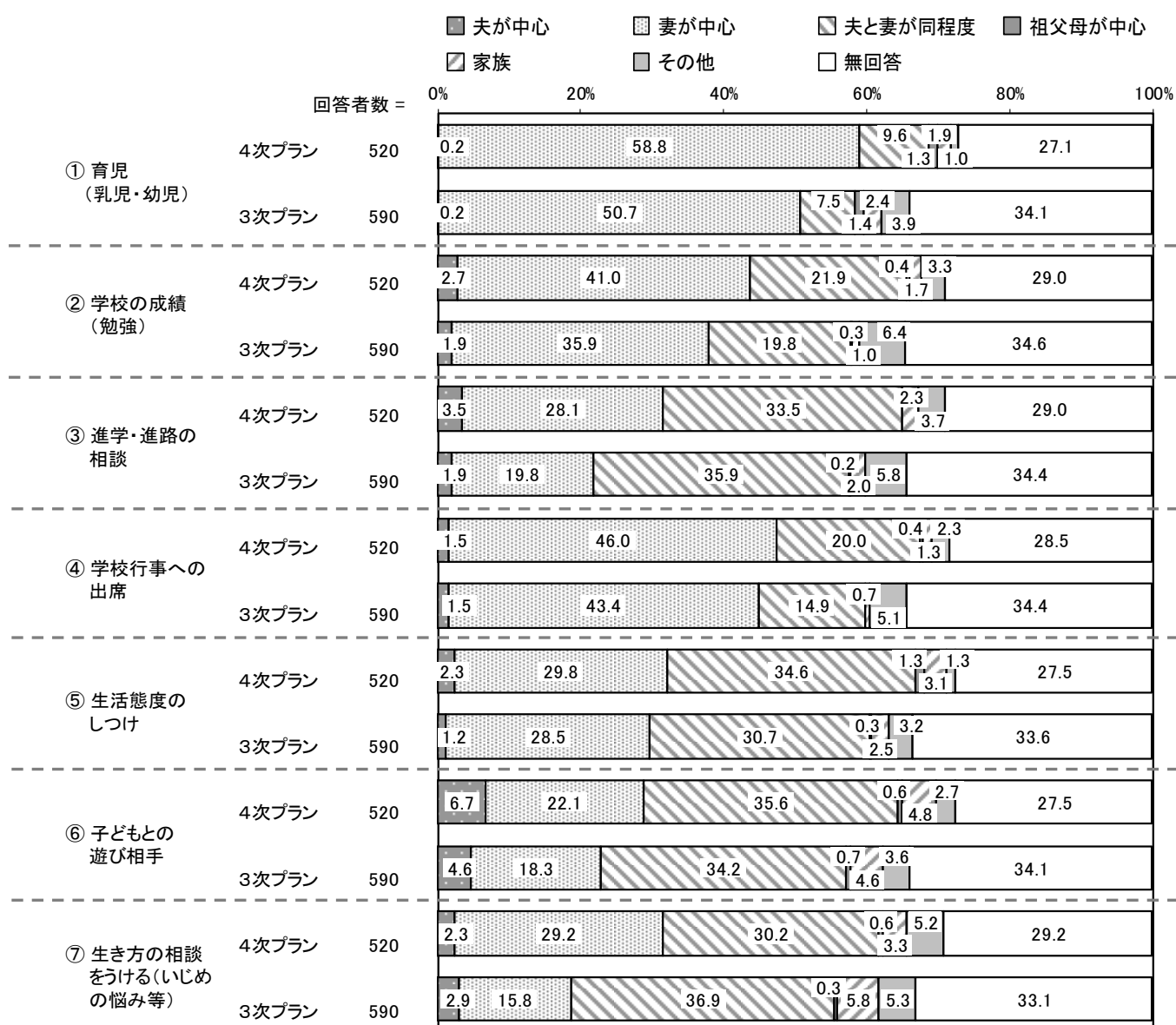
問9 あなたのご家庭では、次のような子どもの世話は、主にどなたがしていますか。
(〇は①～⑦それぞれ1つだけ)

子どもの世話の担当者については、『①育児（乳児・幼児）』『②学校の成績（勉強）』『④学校行事への出席』で「妻が中心」の割合が最も高くなっており、特に『①育児（乳児・幼児）』では58.8%と高くなっています。

一方、『③進学・進路の相談』『⑤生活態度のしつけ』『⑥子どもとの遊び相手』『⑦生き方の相談をうける（いじめの悩み等）』では「夫と妻が同程度」の割合が最も高く、それぞれ3割台となっています。

3次プランと比較すると、すべての項目で「妻が中心」の割合が増加しており、特に『⑦ 生き方の相談をうける（いじめの悩み等）』では13.4ポイント増加しています。また、「夫と妻が同程度」の割合は、『④ 学校行事への出席』では増加している一方、『⑦ 生き方の相談をうける（いじめの悩み等）』では減少しています。

<子どもの世話の担当者>



①育児について性別でみると、大きな差異はみられません。年齢別でみると、30 歳代から 50 歳代で「妻が中心」の割合が高く、約 7 割から 6 割半ばとなっています。

②学校の成績について性別でみると、女性で「妻が中心」の割合が高く、4 割半ばとなっています。年齢別でみると、①育児と同様に 30 歳代から 50 歳代で「妻が中心」の割合が高く、この年代では妻が育児、学校の成績を担っていると思われます。

<①育児（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	0.5	59.2	7.8	1.5	1.9	1.0	28.2
	女性	314	—	58.6	10.8	1.3	1.9	1.0	26.4
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20 歳代	37	2.7	37.8	8.1	—	5.4	—	45.9
	30 歳代	95	—	72.6	16.8	—	1.1	—	9.5
	40 歳代	103	—	67.0	13.6	1.0	1.9	1.0	15.5
	50 歳代	118	—	64.4	6.8	0.8	0.8	1.7	25.4
	60 歳代	98	—	49.0	6.1	4.1	—	2.0	38.8
	70 歳以上	69	—	43.5	4.3	1.4	5.8	—	44.9

<②学校の成績（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	5.3	34.5	24.8	—	2.4	4.9	28.2
	女性	314	1.0	45.2	20.1	0.6	1.3	2.2	29.6
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20 歳代	37	—	13.5	13.5	—	5.4	10.8	56.8
	30 歳代	95	5.3	50.5	25.3	—	1.1	4.2	13.7
	40 歳代	103	1.9	55.3	20.4	1.0	1.0	2.9	17.5
	50 歳代	118	—	45.8	23.7	—	2.5	2.5	25.4
	60 歳代	98	4.1	34.7	18.4	1.0	—	3.1	38.8
	70 歳以上	69	4.3	21.7	26.1	—	2.9	—	44.9

③進学・進路の相談について性別でみると、女性で「妻が中心」の割合が約3割と高くなっています。年齢別でみると、40歳代で「妻が中心」の割合が約4割と高くなっています。

④学校行事への出席について性別でみると、女性で「妻が中心」の割合が高く、5割となっています。年齢別でみると、30歳代から50歳代で「妻が中心」の割合が5割を超えており、特に40歳代で約6割となっています。

<③進学・進路の相談（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	4.9	20.4	38.8	—	2.4	5.3	28.2
	女性	314	2.5	33.1	29.9	—	2.2	2.5	29.6
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	37	—	8.1	18.9	—	8.1	8.1	56.8
	30歳代	95	2.1	35.8	40.0	—	1.1	5.3	15.8
	40歳代	103	1.9	43.7	33.0	—	1.0	3.9	16.5
	50歳代	118	2.5	33.9	33.1	—	2.5	2.5	25.4
	60歳代	98	7.1	17.3	31.6	—	2.0	4.1	37.8
	70歳以上	69	5.8	10.1	36.2	—	2.9	—	44.9

<④学校行事への出席（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	2.9	39.8	22.8	0.5	1.9	3.4	28.6
	女性	314	0.6	50.0	18.2	0.3	1.0	1.6	28.3
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	37	—	21.6	10.8	—	5.4	10.8	51.4
	30歳代	95	—	53.7	30.5	—	1.1	2.1	12.6
	40歳代	103	2.9	59.2	18.4	—	1.0	1.0	17.5
	50歳代	118	0.8	54.2	16.1	—	0.8	2.5	25.4
	60歳代	98	4.1	34.7	19.4	1.0	—	2.0	38.8
	70歳以上	69	—	30.4	20.3	1.4	2.9	—	44.9

⑤生活態度のしつけについて性別でみると、性別で大きな差異はみられません。年齢別でみると、30歳代で「夫と妻が同程度」の割合が高く、約5割となっています。一方、50歳代で「妻が中心」の割合が高く、約4割となっています。

⑥子どもとの遊び相手について性別でみると、女性で「妻が中心」の割合が高くなっています。年齢別でみると、30歳代、40歳代で「夫と妻が同程度」の割合が高く、4割半ばとなっています。また、30歳代で「妻が中心」の割合が約3割となっています。

<⑤生活態度のしつけ（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	2.9	27.2	36.9	1.0	2.9	1.5	27.7
	女性	314	1.9	31.5	33.1	1.6	3.2	1.3	27.4
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	37	2.7	13.5	21.6	—	8.1	5.4	48.6
	30歳代	95	3.2	32.6	49.5	1.1	3.2	—	10.5
	40歳代	103	1.9	35.0	41.7	—	3.9	1.0	16.5
	50歳代	118	0.8	38.1	31.4	0.8	1.7	1.7	25.4
	60歳代	98	3.1	26.5	26.5	4.1	—	2.0	37.8
	70歳以上	69	2.9	17.4	27.5	1.4	5.8	—	44.9

<⑥子どもとの遊び相手（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	6.8	18.0	37.9	1.0	5.3	3.4	27.7
	女性	314	6.7	24.8	34.1	0.3	4.5	2.2	27.4
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	37	5.4	16.2	24.3	—	5.4	2.7	45.9
	30歳代	95	7.4	31.6	44.2	—	4.2	1.1	11.6
	40歳代	103	9.7	23.3	44.7	—	3.9	1.9	16.5
	50歳代	118	5.1	24.6	37.3	—	5.1	2.5	25.4
	60歳代	98	6.1	18.4	25.5	2.0	4.1	6.1	37.8
	70歳以上	69	5.8	11.6	27.5	1.4	7.2	1.4	44.9

⑦生き方の相談をうけるについて性別でみると、女性で「妻が中心」の割合が高く、約3割となっています。また、30歳代で「夫と妻が同程度」の割合が、40歳代、50歳代で「妻が中心」の割合が高く、それぞれ約4割となっています。

①～⑦でみると、すべての項目で、女性で「妻が中心」の割合が高くなっています。また、30～40歳代では「妻が中心」の割合が高くなる傾向がみられます。

＜⑦生き方の相談をうける（性別、年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他	無回答
性別	男性	206	0.5	26.2	33.0	1.0	3.9	7.3	28.2
	女性	314	3.5	31.2	28.3	0.3	2.9	3.8	29.9
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	—	—	—	—	—	—	—	—
	20歳代	37	—	8.1	18.9	—	5.4	10.8	56.8
	30歳代	95	2.1	31.6	41.1	—	2.1	8.4	14.7
	40歳代	103	1.9	39.8	35.0	—	1.9	4.9	16.5
	50歳代	118	2.5	41.5	23.7	—	3.4	3.4	25.4
	60歳代	98	4.1	20.4	26.5	2.0	4.1	3.1	39.8
	70歳以上	69	1.4	13.0	30.4	1.4	4.3	4.3	44.9

(4) 結婚生活における家事の役割分担の理想と現実

問10 次のことがらについて、主に誰が担当するのが「理想」だと思いますか。
(○は①～⑤それぞれ1つだけ)

＜問5で、「① ひとり暮らし」と回答した方以外にお聞きします。＞

問11 次のことがらについて、現実にはどなたが分担していますか。
(○は①～⑤それぞれ1つだけ)

結婚生活において、誰が担当するのが『理想』だと思うかと同じ項目について、同居家族がいる人に『現実』に家事を担当している人をうかがい、比較しました。

①家事全般

『理想』では、「夫と妻が同程度」の割合が 56.4%と最も高く、次いで「妻が中心」の割合が 23.5%、「家族」の割合が 16.3%となっています。

『現実』では、「妻が中心」の割合が 62.5%と、『理想』よりも大幅に高く、次いで「夫と妻が同程度」の割合が 18.9%、「家族」の割合が 11.5%となっています。

②家計のやりくり

『理想』では、「夫と妻が同程度」の割合が 50.4%と最も高く、次いで「妻が中心」の割合が 38.5%となっています。

『現実』では、「妻が中心」の割合が 58.6%と、『理想』よりも大幅に高く、次いで「夫と妻が同程度」の割合が 19.1%となっています。

③子どもの教育方針

『理想』では、「夫と妻が同程度」の割合が 83.9%と最も高くなっています。

『現実』では、「夫と妻が同程度」の割合が 44.8%と最も高いものの、『理想』に比べ大幅に低くなっています。また、「妻が中心」の割合が 29.7%となっています。

④高齢者や病人の介護

『理想』では、「夫と妻が同程度」の割合が 62.6%と最も高く、次いで「家族」の割合が 23.4%となっています。

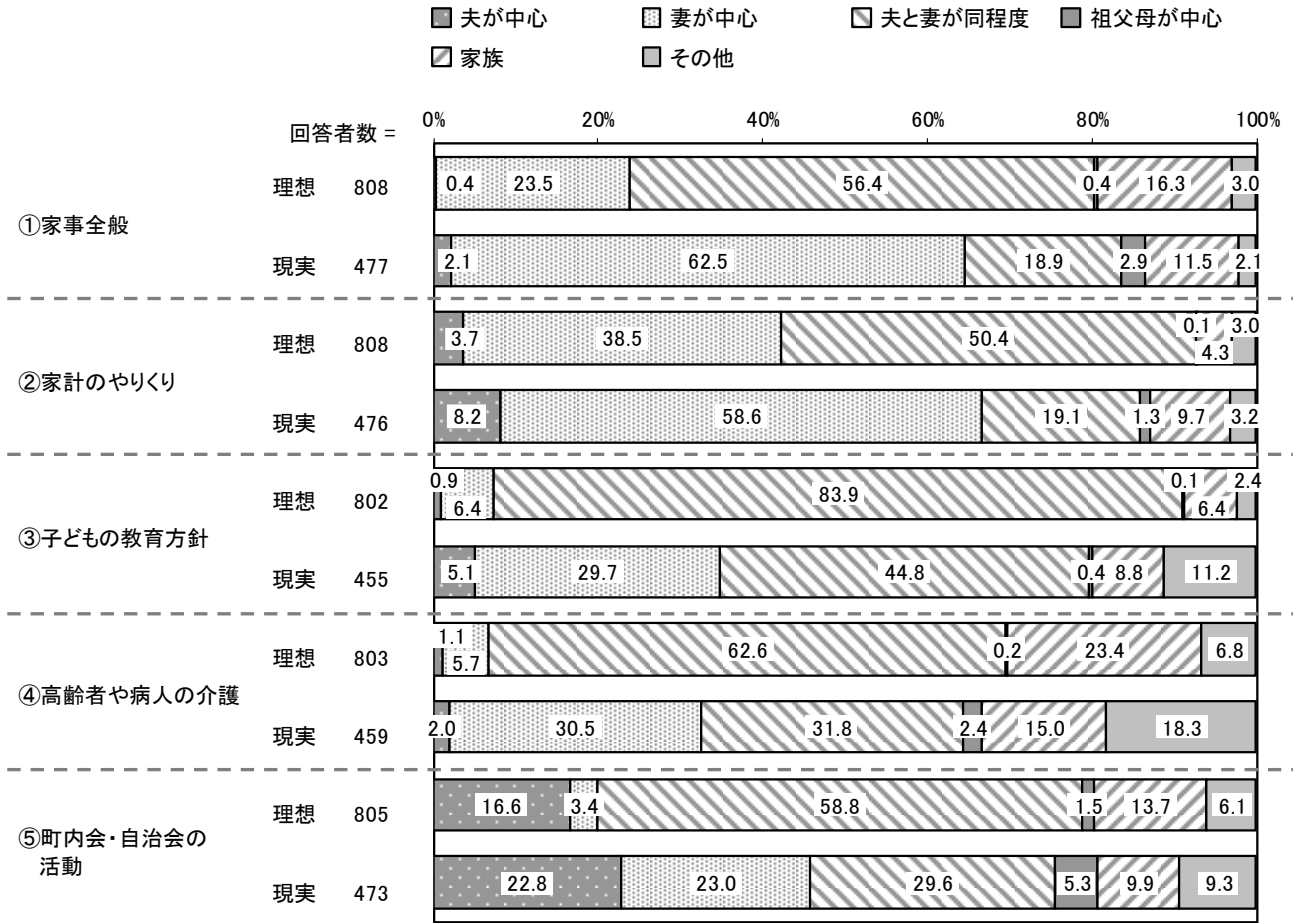
『現実』では、「夫と妻が同程度」の割合が 31.8%と最も高いものの、『理想』に比べて大幅に低くなっています。また、「妻が中心」の割合が 30.5%、「家族」の割合が 15.0%となっています。

⑤町内会・自治会の活動

『理想』では、「夫と妻が同程度」の割合が 58.8%と最も高く、次いで「夫が中心」の割合が 16.6%、「家族」の割合が 13.7%となっています。

『現実』では、「夫と妻が同程度」の割合が 29.6%と最も高いものの、『理想』に比べ、大幅に低くなっています。また、「妻が中心」の割合が 23.0%、「夫が中心」の割合が 22.8%となっています。

<結婚生活における家事の役割分担の理想と現実>



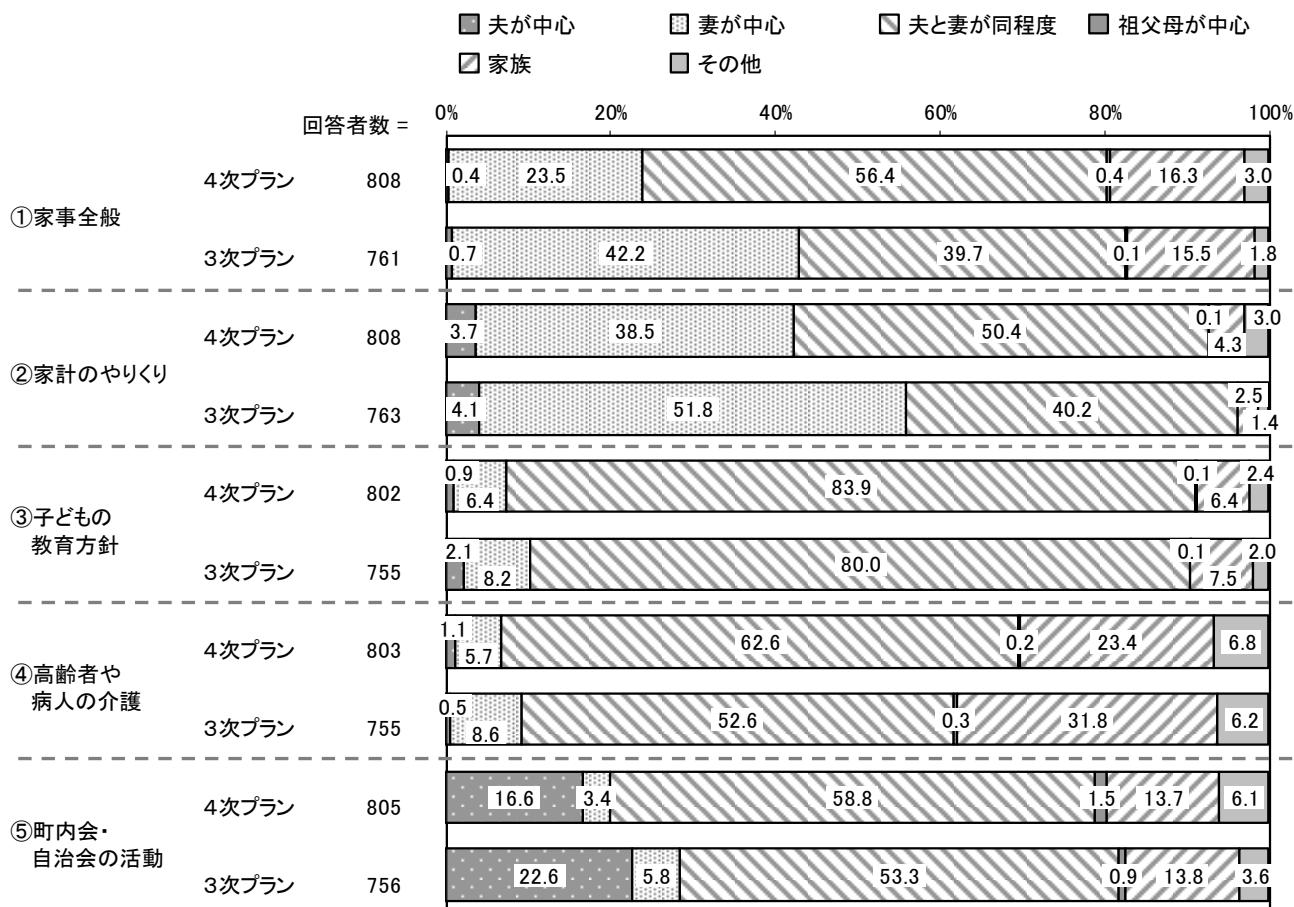
※『現実』については、無回答が多いため、無回答を除いて集計しています。

◆ 3 次プランとの比較

<理 想>

すべての項目で「妻が中心」の割合が減少し、「夫と妻が同程度」の割合が増加しています。特に、『①家事全般』では「妻が中心」の割合が 18.7 ポイント減少しています。一方、「夫と妻が同程度」の割合が 16.7 ポイント増加しており、変化が大きくなっています。

<結婚生活における家事等の役割分担〔理想〕（4 次プラン，3 次プラン）>

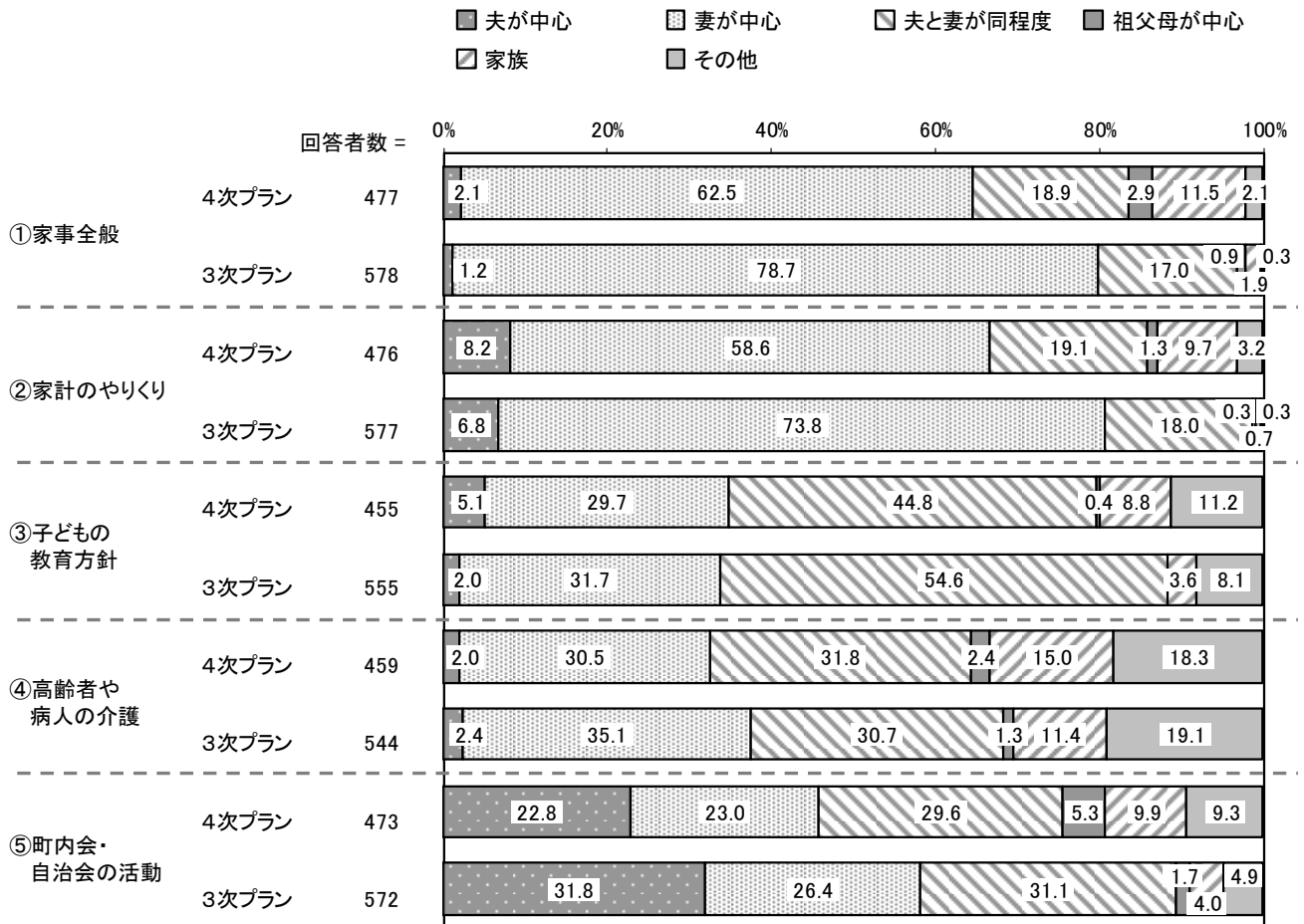


※無回答を除いて集計しています。

<現 実>

すべての項目で「妻が中心」の割合が減少しており、特に『①家事全般』『②家計のやりくり』では10ポイント以上減少しています。

<結婚生活における家事等の役割分担〔現実〕（4次プラン，3次プラン）>



※無回答を除いて集計しています。

①家事全般について性別でみると、男女ともに、『理想』では「夫と妻が同程度」の割合が最も高いのに対し、『現実』では「妻が中心」の割合が最も高く、特に女性で6割半ばとなっています

年齢別でみると、『理想』、『現実』ともに年齢が高くなるにつれ「妻が中心」の割合が高くなる傾向がみられます。

＜①家事全般（性別，年齢別）＞

単位：％

区分			回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他
理想	性別	男性	321	0.3	30.2	52.0	0.6	12.8	4.0
		女性	486	0.4	19.1	59.3	0.2	18.7	2.3
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10歳代	44	2.3	6.8	65.9	0.0	18.2	6.8
		20歳代	149	0.7	7.4	63.8	1.3	24.2	2.7
		30歳代	131	0.0	24.4	62.6	0.0	10.7	2.3
		40歳代	133	0.0	21.1	61.7	0.0	12.8	4.5
		50歳代	151	0.7	27.2	53.0	0.7	16.6	2.0
		60歳代	119	0.0	31.9	48.7	0.0	15.1	4.2
		70歳以上	81	0.0	45.7	37.0	0.0	17.3	－
現実	性別	男性	187	3.2	59.4	20.9	2.7	12.3	1.6
		女性	289	1.0	64.7	17.6	3.1	11.1	2.4
		その他	1	100.0	－	0.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10歳代	37	2.7	51.4	16.2	2.7	24.3	2.7
		20歳代	90	2.2	48.9	15.6	6.7	25.6	1.1
		30歳代	85	3.5	62.4	17.6	2.4	9.4	4.7
		40歳代	80	1.3	65.0	23.8	1.3	7.5	1.3
		50歳代	87	1.1	67.8	18.4	3.4	8.0	1.1
		60歳代	56	3.6	67.9	23.2	1.8	－	3.6
		70歳以上	42	0.0	78.6	16.7	0.0	4.8	0.0

※無回答を除いて集計しています。

②家計のやりくりについて性別でみると、男女とも『理想』では「夫と妻が同程度」の割合が最も高く、『現実』では「妻が中心」の割合が最も高くなっています。また、『現実』では女性で「妻が中心」の割合が高く、男性より 10 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、60 歳代以下のすべての年代で『理想』では「夫と妻が同程度」の割合が最も高く、『現実』では「妻が中心」の割合が最も高くなっています。

＜②家計のやりくり（性別、年齢別）＞

単位：％

区分			回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他
理想	性別	男性	322	5.6	39.4	46.3	0.3	5.3	3.1
		女性	485	2.5	37.9	53.0	0.0	3.7	2.9
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10 歳代	44	4.5	36.4	50.0	0.0	6.8	2.3
		20 歳代	149	2.7	24.8	58.4	0.7	9.4	4.0
		30 歳代	131	4.6	35.9	52.7	0.0	3.8	3.1
		40 歳代	133	3.0	41.4	45.1	0.0	4.5	6.0
		50 歳代	151	4.6	41.1	51.7	0.0	2.0	0.7
		60 歳代	120	2.5	40.0	53.3	0.0	1.7	2.5
		70 歳以上	80	5.0	57.5	33.8	0.0	2.5	1.3
現実	性別	男性	185	11.4	52.4	21.1	1.1	11.9	2.2
		女性	290	6.2	62.4	17.9	1.4	8.3	3.8
		その他	1	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10 歳代	37	-	56.8	16.2	0.0	18.9	8.1
		20 歳代	90	6.7	52.2	12.2	2.2	25.6	1.1
		30 歳代	85	5.9	58.8	22.4	1.2	7.1	4.7
		40 歳代	79	7.6	65.8	19.0	1.3	3.8	2.5
		50 歳代	86	12.8	58.1	17.4	2.3	5.8	3.5
		60 歳代	56	12.5	60.7	23.2	0.0	-	3.6
		70 歳以上	43	9.3	58.1	27.9	0.0	4.7	0.0

※無回答を除いて集計しています。

③子どもの教育方針について性別でみると、男女とも、『現実』『理想』ともに「夫と妻が同程度」の割合が最も高くなっています。

年齢別でみると、『理想』ではすべての年代で「夫と妻が同程度」の割合が最も高く、『現実』では、40歳代で「妻が中心」の割合も最も高くなっています。

<③子どもの教育方針（性別，年齢別）>

単位：％

区分			回答者数 (件)	夫が 中心	妻が 中心	夫と妻が 同程度	祖 父母 が 中心	家 族	そ の 他
理 想	性 別	男性	320	1.3	8.8	79.1	0.3	7.2	3.4
		女性	481	0.6	4.8	87.1	0.0	5.8	1.7
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	年 齢 別	10歳代	44	0.0	2.3	84.1	0.0	11.4	2.3
		20歳代	149	0.7	2.7	83.2	0.7	9.4	3.4
		30歳代	131	1.5	5.3	87.0	0.0	3.1	3.1
		40歳代	132	0.0	7.6	84.8	0.0	5.3	2.3
		50歳代	149	0.0	8.7	84.6	0.0	6.0	0.7
		60歳代	119	0.8	7.6	83.2	0.0	5.0	3.4
		70歳以上	78	3.8	9.0	78.2	0.0	7.7	1.3
現 実	性 別	男性	179	7.3	20.1	50.3	0.6	11.2	10.6
		女性	275	3.3	36.0	41.5	0.4	7.3	11.6
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	年 齢 別	10歳代	455	5.1	29.7	44.8	0.4	8.8	11.2
		20歳代	37	16.2	18.9	37.8	0.0	21.6	5.4
		30歳代	89	3.4	21.3	40.4	1.1	19.1	14.6
		40歳代	82	3.7	29.3	52.4	0.0	3.7	11.0
		50歳代	75	5.3	40.0	40.0	0.0	4.0	10.7
		60歳代	83	2.4	31.3	43.4	1.2	3.6	18.1
		70歳以上	52	7.7	28.8	53.8	0.0	5.8	3.8

※無回答を除いて集計しています。

④高齢者や病人の介護について性別でみると、『理想』では男女とも「夫と妻が同程度」の割合が最も高くなっている一方、『現実』では女性で「妻が中心」の割合が最も高く、また男性より 15 ポイント程度高くなっています。

年齢別でみると、『理想』では、すべての年代で「夫と妻が同程度」の割合が最も高くなっている一方、『現実』では 30 歳代から 50 歳代で「妻が中心」の割合が最も高く、現実との乖離がみられます。

＜④高齢者や病人の介護（性別、年齢別）＞

単位：％

区分			回答者数 (件)	夫が 中心	妻が 中心	夫と妻が 同程度	祖 父母が 中心	家 族	そ の 他
理 想	性 別	男性	321	1.9	6.5	65.7	0.3	18.4	7.2
		女性	481	0.6	5.2	60.5	0.2	26.8	6.7
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	年 齢 別	10 歳代	44	2.3	4.5	63.6	0.0	25.0	4.5
		20 歳代	149	2.0	3.4	55.7	0.7	30.2	8.1
		30 歳代	130	0.8	6.2	63.8	0.8	18.5	10.0
		40 歳代	130	0.0	3.8	70.8	0.0	16.2	9.2
		50 歳代	151	1.3	6.6	68.2	0.0	19.2	4.6
		60 歳代	120	0.8	7.5	60.8	0.0	26.7	4.2
		70 歳以上	79	1.3	8.9	51.9	0.0	32.9	5.1
現 実	性 別	男性	182	3.3	21.4	35.7	2.2	18.7	18.7
		女性	276	0.7	36.6	29.3	2.5	12.7	18.1
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	年 齢 別	10 歳代	37	2.7	27.0	32.4	0.0	16.2	21.6
		20 歳代	89	－	19.1	28.1	2.2	31.5	19.1
		30 歳代	83	1.2	32.5	22.9	4.8	10.8	27.7
		40 歳代	74	1.4	32.4	29.7	5.4	9.5	21.6
		50 歳代	85	3.5	36.5	31.8	1.2	12.9	14.1
		60 歳代	52	3.8	34.6	50.0	0.0	－	11.5
		70 歳以上	39	2.6	33.3	38.5	0.0	20.5	5.1

※無回答を除いて集計しています。

⑤町内会・自治会の活動について性別でみると、男女とも『理想』『現実』ともに「夫と妻が同程度」の割合が最も高くなっており、その割合も男女で大きな差異はみられません。

年齢別でみると、『理想』ではすべての年代で「夫と妻が同程度」の割合が最も高くなっている一方、『現実』では、10歳代、30歳代、40歳代で「妻が中心」の割合が、60歳代で「夫が中心」の割合が最も高くなっており、現実との乖離がみられます。

<⑤町内会・自治会の活動について（性別、年齢別）>

単位：％

区分			回答者数 (件)	夫が中心	妻が中心	夫と妻が同程度	祖父母が中心	家族	その他
理想	性別	男性	319	21.3	4.4	56.1	1.9	10.3	6.0
		女性	485	13.6	2.7	60.4	1.2	15.9	6.2
		その他	1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10歳代	44	9.1	2.3	65.9	0.0	18.2	4.5
		20歳代	148	9.5	2.7	53.4	2.7	24.3	7.4
		30歳代	131	20.6	3.8	58.0	2.3	6.9	8.4
		40歳代	132	15.2	6.1	57.6	1.5	12.9	6.8
		50歳代	150	13.3	3.3	66.0	1.3	12.0	4.0
		60歳代	120	22.5	1.7	57.5	－	11.7	6.7
		70歳以上	80	27.5	2.5	56.3	1.3	10.0	2.5
現実	性別	男性	185	30.8	16.2	30.8	3.2	11.9	7.0
		女性	287	17.4	27.5	28.9	6.6	8.7	10.8
		その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	年齢別	10歳代	37	10.8	29.7	27.0	2.7	16.2	13.5
		20歳代	89	21.3	12.4	24.7	11.2	23.6	6.7
		30歳代	84	17.9	29.8	26.2	7.1	3.6	15.5
		40歳代	78	19.2	28.2	26.9	5.1	7.7	12.8
		50歳代	86	17.4	31.4	33.7	2.3	8.1	7.0
		60歳代	56	44.6	16.1	32.1	1.8	－	5.4
		70歳以上	43	34.9	9.3	41.9	2.3	9.3	2.3

※無回答を除いて集計しています。

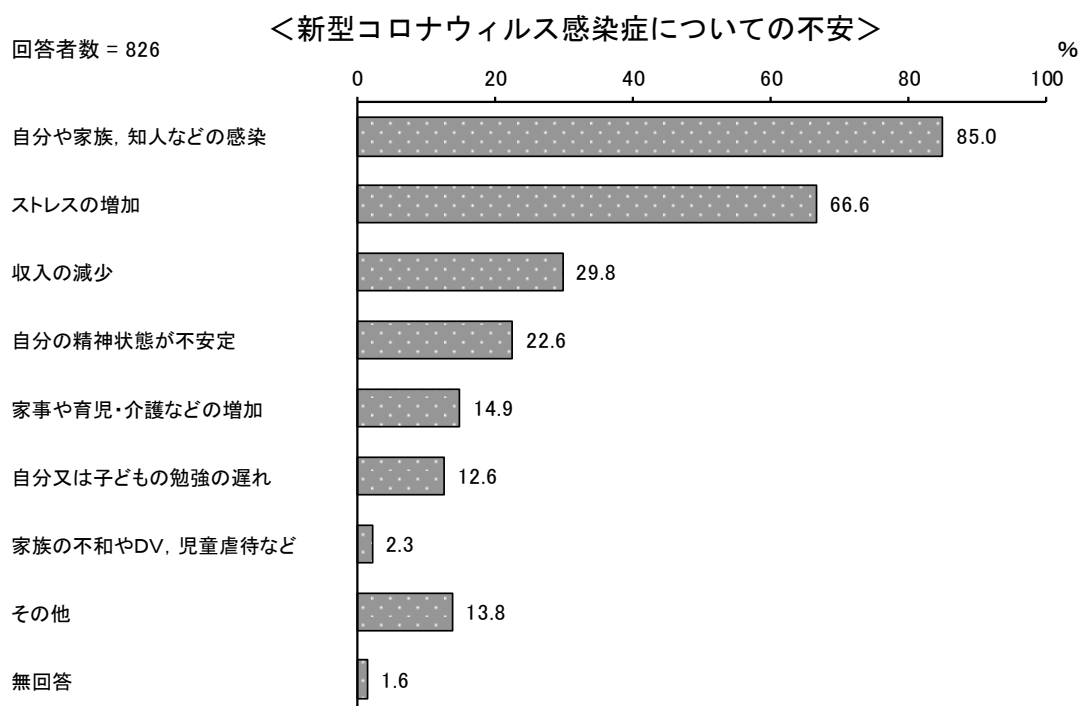
（５）新型コロナウイルス感染症についての不安

問 1 2 新型コロナウイルス感染症について、現在どのような不安がありますか。 （３つに○）

新型コロナウイルス感染症についての不安については、「自分や家族、知人などの感染」の割合が 85.0%と最も高く、次いで「ストレスの増加」の割合が 66.6%、「収入の減少」の割合が 29.8%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「収入の減少」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10 歳代で「自分や家族、知人などの感染」の割合が低くなっています。



＜新型コロナウイルス感染症についての不安（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数 (件)	自分や家族， 知人 などの感染	自分の精神状態が 不安定	収入の減少	自分又は子どもの 勉強の遅れ	家族の不和やDV， 児童虐待など	家事や育児・介護 などの増加	ストレスの増加	その他	無回答
性別	男性	326	85.6	20.9	34.4	10.1	2.1	13.2	66.3	14.7	1.2
	女性	499	84.6	23.6	26.9	14.2	2.4	16.0	66.7	13.2	1.8
	その他	1	100.0	100.0	—	—	—	—	100.0	—	—
年齢別	10歳代	45	68.9	28.9	31.1	31.1	6.7	6.7	53.3	11.1	4.4
	20歳代	153	83.0	27.5	35.9	5.9	2.0	12.4	66.7	15.0	—
	30歳代	132	81.8	15.2	36.4	19.7	4.5	17.4	60.6	13.6	1.5
	40歳代	136	83.8	17.6	37.5	21.3	1.5	14.7	68.4	11.8	2.2
	50歳代	155	89.0	18.1	29.7	5.8	1.9	14.8	68.4	12.9	1.9
	60歳代	122	91.0	27.9	18.9	8.2	1.6	22.1	69.7	14.8	—
	70歳以上	83	88.0	31.3	10.8	8.4	—	9.6	72.3	16.9	3.6

3 仕事について

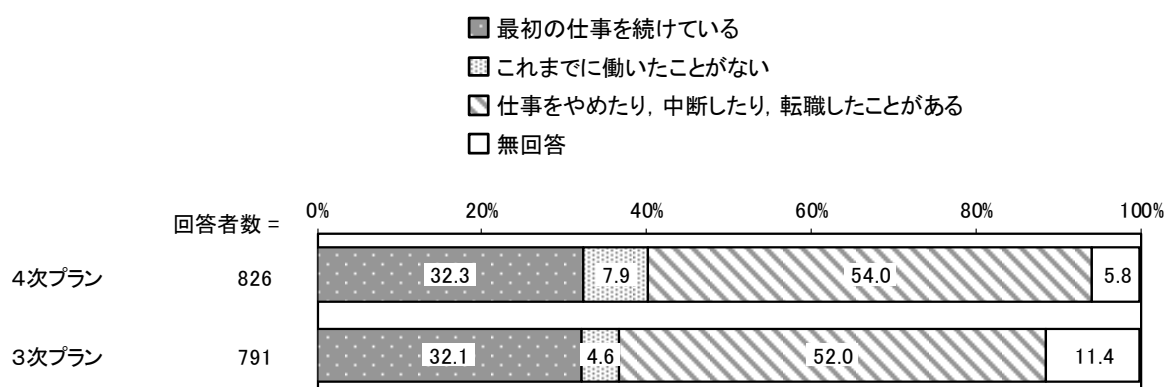
(1) 回答者の就労状況

問 1 3 あなたの就労状況は次のどれですか。(1つに○)

回答者の就労状況については、「仕事をやめたり、中断したり、転職したことがある」の割合が54.0%と最も高く、次いで「最初の仕事を続けている」の割合が32.3%、「これまでに働いたことがない」の割合が7.9%となっています。

3次プランと比較すると、大きな変化はなく、「最初の仕事を続けている」の割合が3割台で推移しています。

<回答者の就労状況（4次プラン，3次プラン）>



3次プラン以前と比較すると、大きな変動はみられず、「最初の仕事を続けている」人の割合が約3割、「仕事をやめたり、中断したり、転職したことがある」の割合が5割台で推移しています。

設 問	1次プラン	2次プラン	3次プラン	4次プラン
1. 最初の仕事を続けている	32.1%	33.3%	32.1%	32.3%
2. これまでに働いたことがない	3.2%	2.6%	4.6%	7.9%
3. 仕事をやめたり、中断したり、転職したことがある	56.5%	55.3%	52.0%	54.0%

（２）最初の仕事を続けていない理由

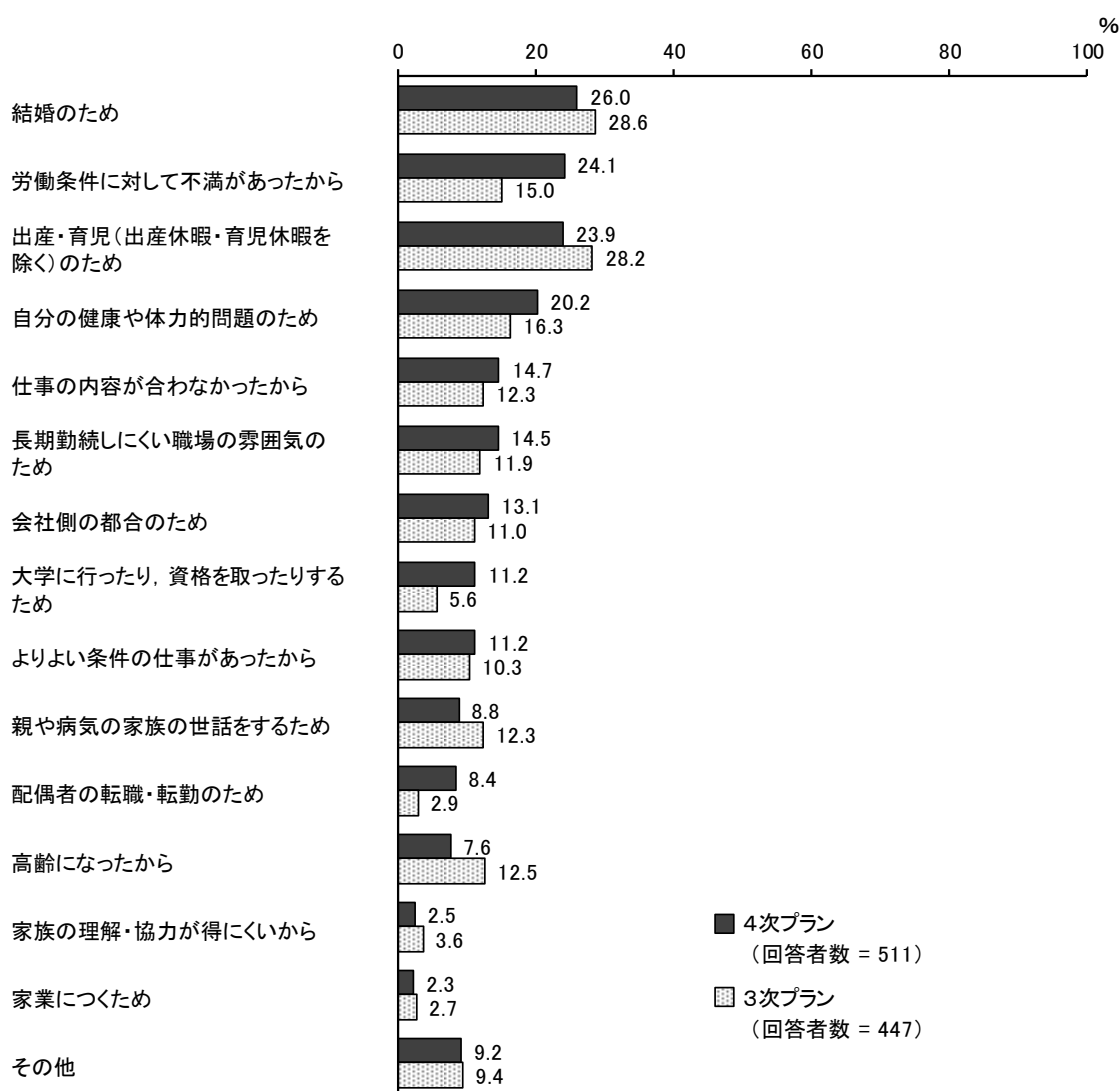
問１３で「これまでに働いたことがない」または「仕事をやめたり，中断したり，転職したことがある」と回答した方にお聞きします。

問１３－１ それはどのような理由からですか。（○はいくつでも）

最初の仕事を続けていない理由については、「結婚のため」の割合が 26.0%と最も高く，次いで「労働条件に対して不満があったから」の割合が 24.1%，「出産・育児（出産休暇・育児休暇を除く）のため」の割合が 23.9%，「自分の健康や体力的問題のため」の割合が 20.2%と，２割を超えています。以下，「仕事の内容が合わなかったから」の割合が 14.7%，「長期勤務しにくい職場の雰囲気のため」の割合が 14.5%となっています。

３次プランと比較すると，「配偶者の転職・転勤のため」「労働条件に対して不満があったから」「大学に行ったり，資格を取ったりするため」の割合が増加しています。

＜最初の仕事を続けていない理由（４次プラン，３次プラン）＞



最初の仕事を続けていない理由を3次プラン以前と比較すると、4次プランは3次プランまでと同様に、1位は「結婚のため」となっています。

2位は、3次プランまでは「出産・育児のため」であったのが、「労働条件に対して不満があったから」となっています。

また、3次プランまでは5位以内に入っていなかった「仕事の内容が合わなかったから」が5位となっています。

◆最初の仕事を続けていない理由（1・2・3・4次プラン 上位5位までの回答）

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン	4次プラン
1	結婚のため(33.4%)	結婚のため(31.8%)	結婚のため(28.6%)	結婚のため(26.0%)
2	出産・育児のため (26.7%)	出産・育児のため (28.5%)	出産・育児のため (28.2%)	労働条件に対して 不満があったから (24.1%)
3	労働条件に対して 不満があったから (18.6%)	会社側の都合のため (16.5%)	自分の健康や体力的 問題のため(16.3%)	出産・育児のため (23.9%)
4	自分の健康や体力的 問題のため(17.8%)	自分の健康や体力的 問題のため(16.1%)	労働条件に対して 不満があったから (15.0%)	自分の健康や体力的 問題のため(20.2%)
5	会社側の都合のため (13.0%)	親や病気の家族の 世話をするため (13.8%)	高齢になったから (12.5%)	仕事の内容が 合わなかったから (14.7%)

（３）女性が職業を持つことについて

問 1 4 あなたは、一般的に女性が働くことについてどのようにお考えですか。
（１つに○）

女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合が 37.9%と最も高く、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が 34.7%となっています。

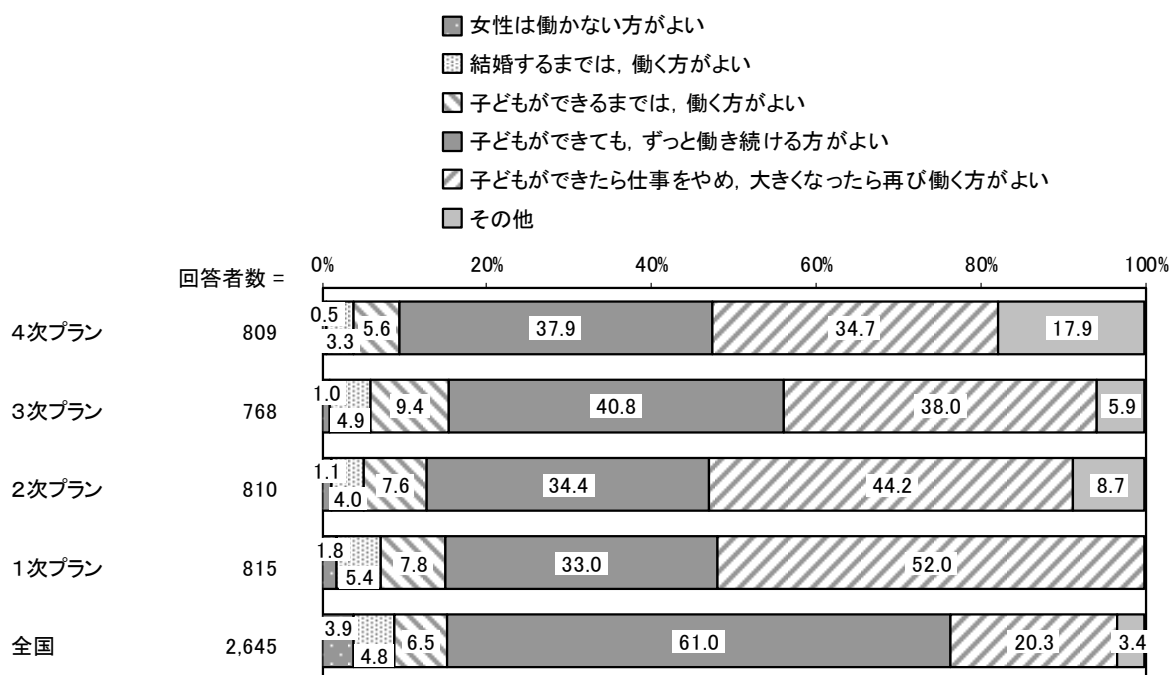
3次プラン以前と比較すると、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が減少する傾向がみられます。また、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合が、3次プランと同様に最も高く、約4割となっています。

全国調査と比較すると、「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合が 23.1 ポイント低く、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が 14.4 ポイント高くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

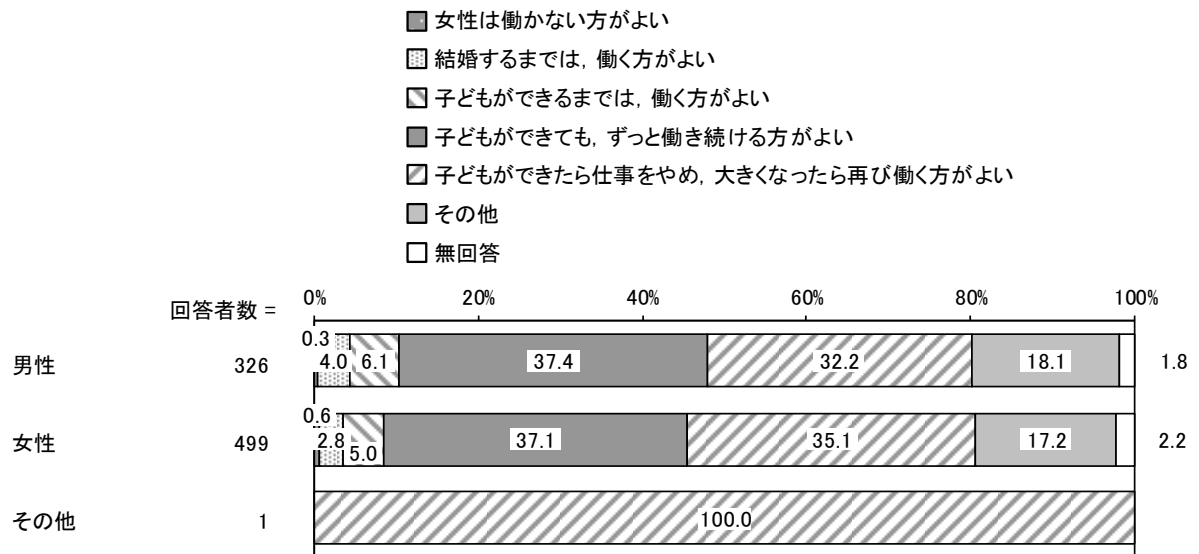
年齢別でみると、他に比べ、50歳代で「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」の割合が、70歳以上で「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の割合が高くなっています。

＜女性が職業を持つことについて（１・２・３・４次プラン、全国）＞

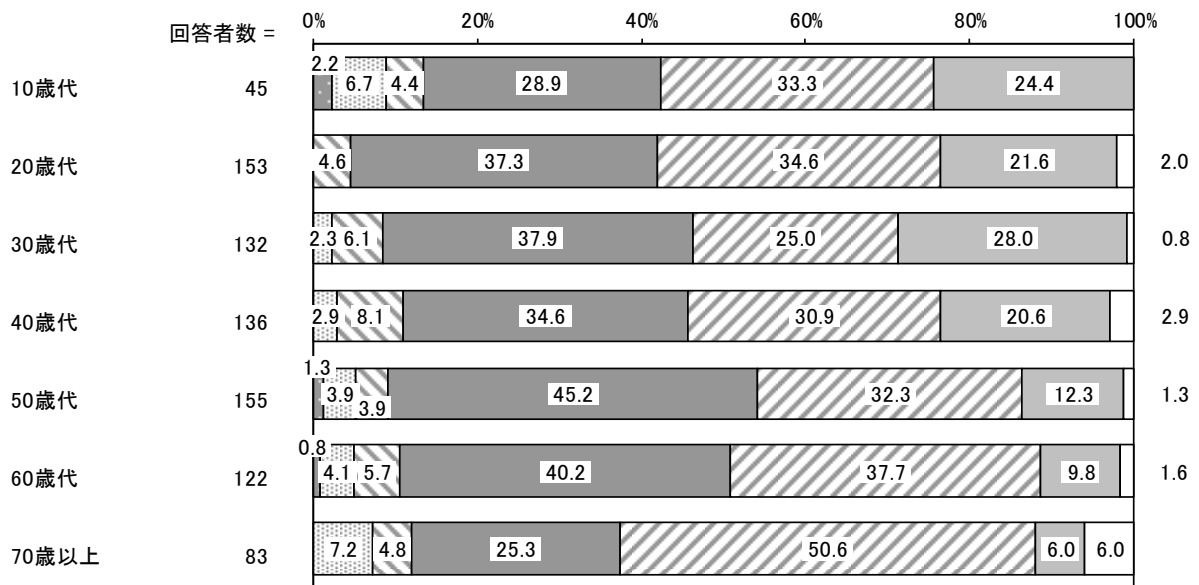


※無回答を除いて集計しています。

<女性が職業を持つことについて（性別）>



<女性が職業を持つことについて（年齢別）>



（４）現在は女性が働きやすい状況か

問 15 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。
（１つに○）

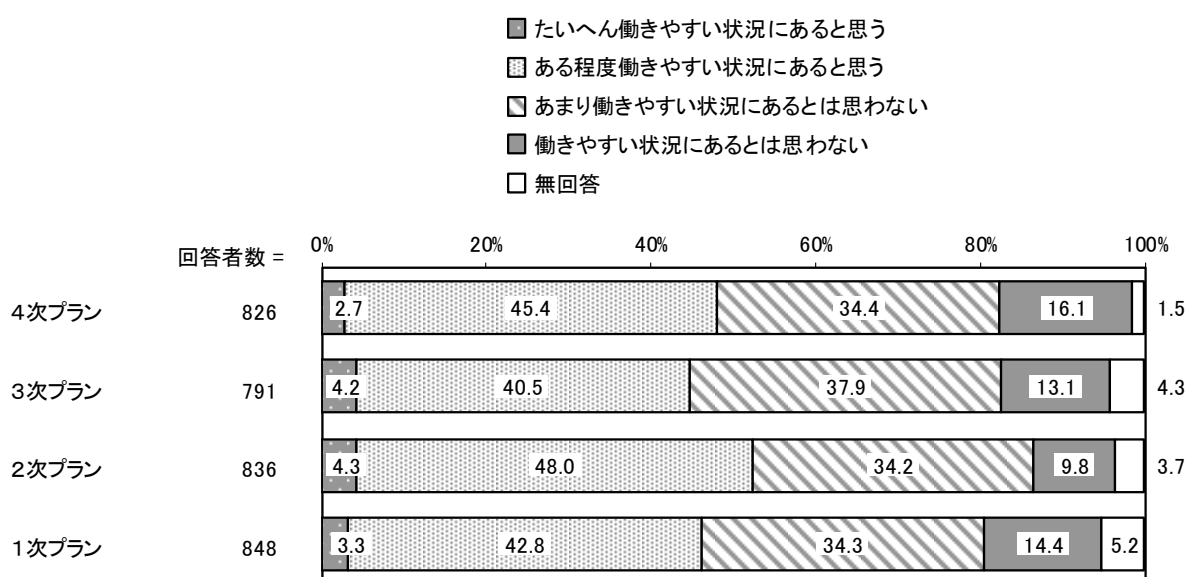
現在は女性が働きやすい状況かについては、「たいへん働きやすい状況にあると思う」と「ある程度働きやすい状況にあると思う」をあわせた“働きやすい状況にあると思う”の割合が 48.1%、「あまり働きやすい状況にあるとは思わない」と「働きやすい状況にあるとは思わない」をあわせた“働きやすい状況にあるとは思わない”の割合が 50.5%となっています。

3次プラン以前と比較すると、3次プランから4次プランにかけて“働きやすい状況にあると思う”の割合が増加しています。

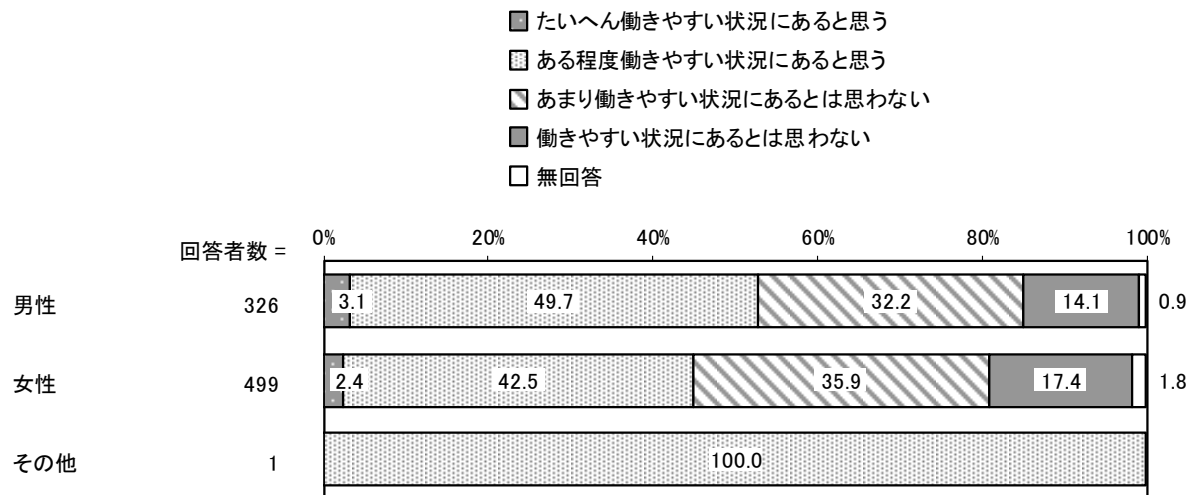
性別でみると、女性で“働きやすい状況にあるとは思わない”の割合が高く、53.3%となっています。

年齢別でみると、他に比べ、10歳代で“働きやすい状況にあるとは思わない”の割合が高く、62.3%となっています。また、70歳以上で“働きやすい状況にあると思う”の割合が高く、約6割となっています。

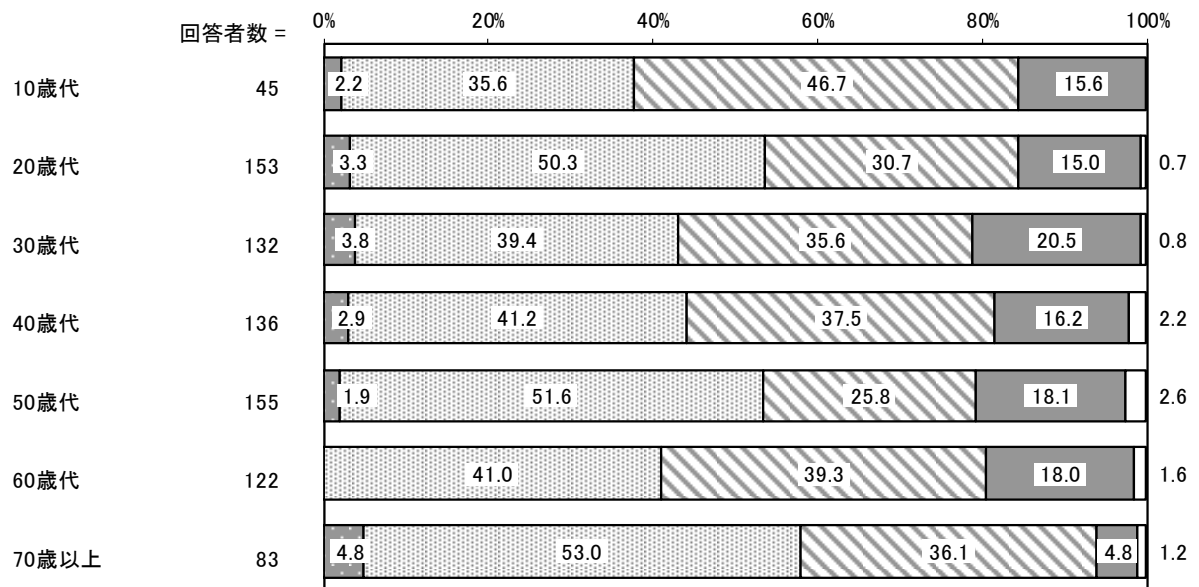
＜現在は女性が働きやすい状況か（１・２・３・４次プラン）＞



<現在は女性が働きやすい状況か（性別）>



<現在は女性が働きやすい状況か（年齢別）>



（５）出産後離職せず働き続けるために必要なこと

問１６ あなたは、女性が出産後離職せずに同じ職場で働き続けにくいのは、家庭、社会、職場において何が足りないからだと思いますか。（３つに○）

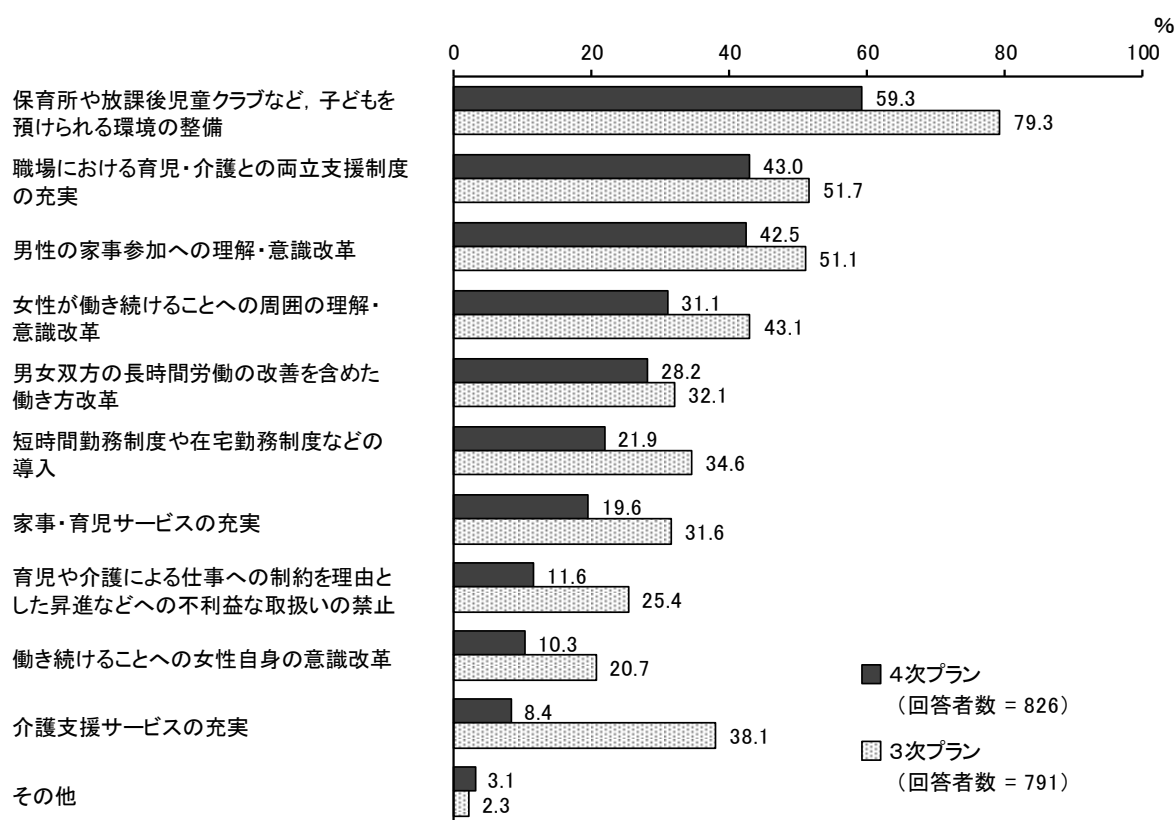
出産後離職せず働き続けるために必要なことについては、「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が 59.3%と最も高く、次いで「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」の割合が 43.0%,「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が 42.5%となっています。

３次プランとの比較は、選択可能な数が異なるため単純に比較はできませんが、上位３つに変動はありません。

性別でみると、他に比べ、男性で「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」の割合が高くなっています。一方、他に比べ、女性で「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」の割合が、10歳代で「男性の家事参加への理解・意識改革」の割合が高くなっています。

＜出産後離職せず働き続けるために必要なこと（３次・４次プラン）＞



※ ３次プランでは、選択可能な数に制限はありませんでした。

＜出産後離職せず働き続けるために必要なこと（性別、年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	預けられる環境の整備 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを	介護支援サービスの充実	家事・育児サービスの充実	男性の家事参加への理解・意識改革	女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革	働き続けることへの女性自身の意識改革	働き方改革 男女双方の長時間労働の改善を含めた	職場における育児・介護との両立支援制度の充実	短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入	育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止	その他
性別	男性	322	63.0	10.2	19.9	35.4	34.8	12.7	27.6	42.9	22.7	11.8	3.4
	女性	490	58.4	7.3	20.0	48.2	29.6	9.0	29.4	44.3	22.0	11.8	3.1
年齢別	その他	1	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
	10歳代	44	43.2	2.3	27.3	52.3	40.9	9.1	22.7	36.4	18.2	22.7	2.3
	20歳代	152	59.9	2.6	23.7	40.1	27.6	9.9	37.5	32.9	27.0	14.5	4.6
	30歳代	132	59.8	5.3	24.2	38.6	30.3	5.3	29.5	45.5	26.5	18.9	3.0
	40歳代	132	53.0	6.8	22.7	47.7	27.3	15.9	28.8	47.0	22.0	8.3	4.5
	50歳代	152	61.2	11.2	17.8	44.7	34.2	12.5	26.3	44.7	18.4	8.6	3.3
	60歳代	120	67.5	17.5	13.3	46.7	33.3	9.2	22.5	50.8	16.7	5.8	1.7
	70歳以上	81	70.4	12.3	11.1	35.8	35.8	9.9	27.2	46.9	24.7	9.9	1.2

4 男女平等に関する教育について

(1) 男女平等の推進のために行うとよい学校教育

問17 男女平等を推進していくために、将来を担う子どもたちが、どのようなことを学べばよいと思いますか。(3つに○)

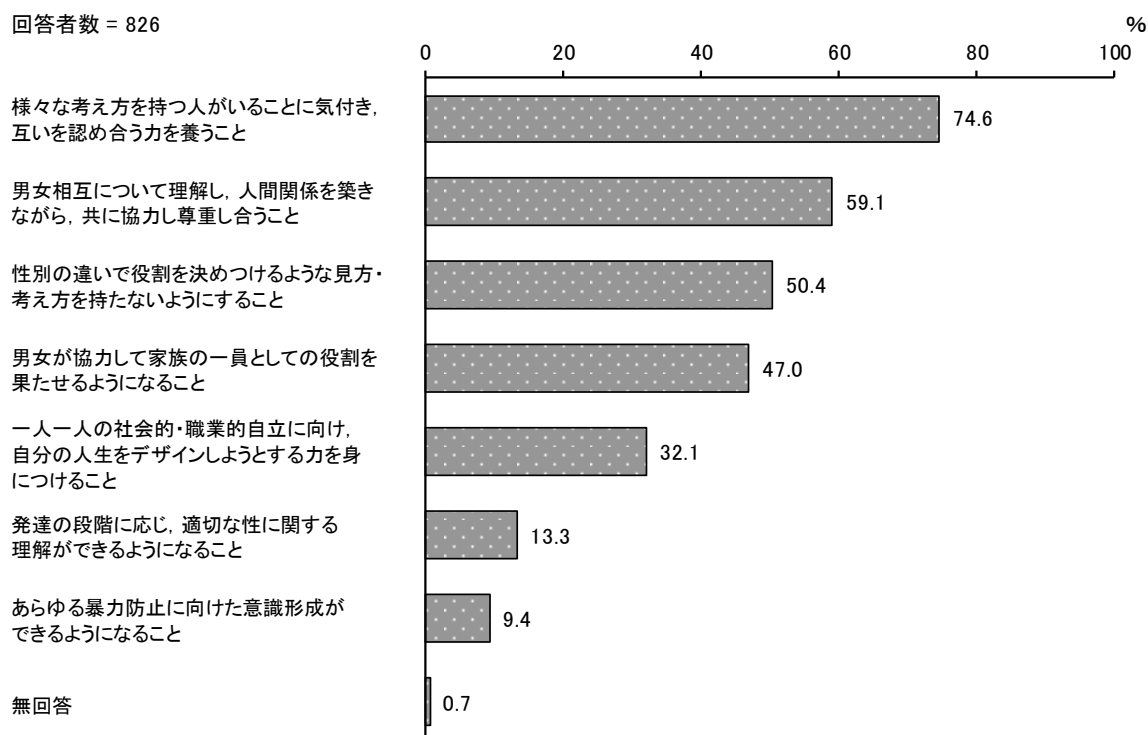
男女平等の推進のために行うとよい学校教育については、「様々な考え方を持つ人がいることに気づき、互いを認め合う力を養うこと」の割合が74.6%と最も高く、次いで「男女相互について理解し、人間関係を築きながら、共に協力し尊重し合うこと」の割合が59.1%、「性別の違いで役割を決めつけるような見方・考え方を持たないようにすること」の割合が50.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「発達の段階に応じ、適切な性に関する理解ができるようになること」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「性別の違いで役割を決めつけるような見方・考え方を持たないようにすること」の割合が高くなっています。

<男女平等の推進のために行うとよい学校教育>

回答者数 = 826



＜男女平等の推進のために行うとよい学校教育（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	養うこと	様々な考え方を 持つ人がいるこ とに気付き、互 いを認め合う力 を	男女相互について 理解し、人間関 係を築きながら、 共に協力し 尊重し合うこと	一人一人の社会的・ 職業的自立に 向け、自分の人生 をデザインしよ うとする力を身 につけること	男女が協力して家 族の一員とし ての役割を果た せるようになる こと	性別の違いで役 割を決めつけ るような見方・ 考え方を持た ないようにす ること	発達の段階に 応じ、適切な 性に関する理 解ができるよ うになること	あらゆる暴力 防止に向けた 意識形成がで きるようになる こと	無回答
性別	男性	326	73.0	56.4	34.0	47.2	47.5	16.9	10.4	0.6	
	女性	499	75.6	60.7	30.9	46.9	52.1	11.0	8.8	0.8	
	その他	1	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	
年齢別	10 歳代	45	73.3	55.6	33.3	28.9	75.6	17.8	11.1	—	
	20 歳代	153	77.1	49.7	32.7	35.9	58.2	25.5	7.8	0.7	
	30 歳代	132	80.3	55.3	32.6	44.7	50.0	15.2	8.3	—	
	40 歳代	136	80.1	55.9	36.0	49.3	47.8	11.0	8.1	0.7	
	50 歳代	155	64.5	67.1	24.5	58.1	46.5	5.8	10.3	1.9	
	60 歳代	122	73.8	66.4	37.7	46.7	42.6	11.5	13.1	—	
	70 歳以上	83	72.3	63.9	28.9	56.6	45.8	6.0	8.4	1.2	

5 社会生活における男女共同参画について

(1) 地域活動や地域行事への参加経験

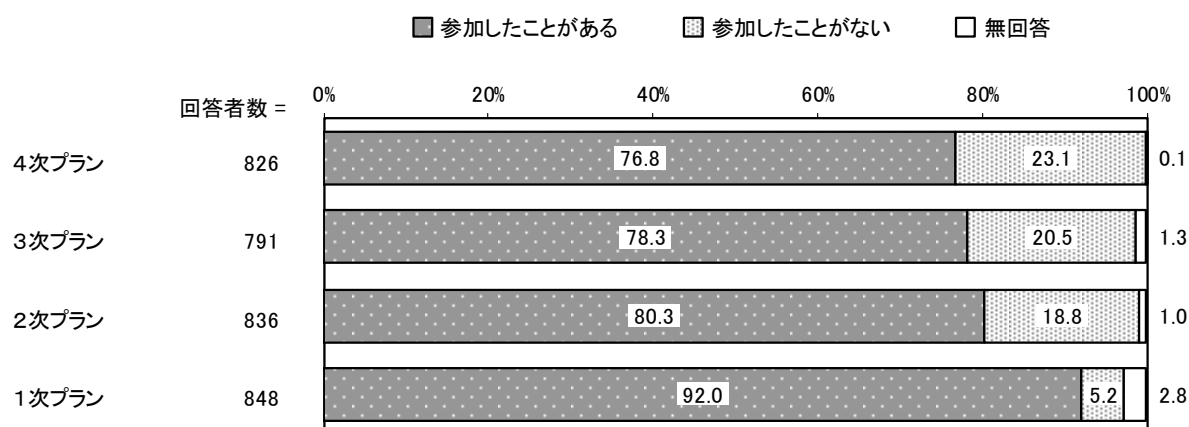
問 18 あなたは今までに、地域活動や地域行事に参加したことがありますか。
(1つに○)

「参加したことがある」の割合が76.8%、「参加したことがない」の割合が23.1%と、地域活動や地域行事に参加したことがある人が多数となっています。

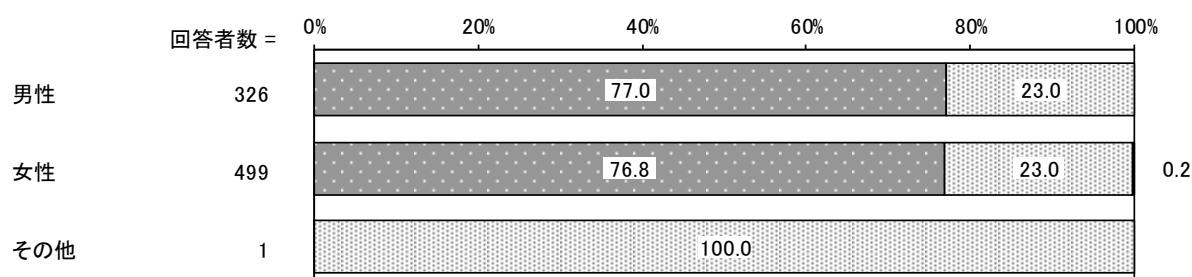
もっとも、3次プラン以前と比較すると、「参加したことがある」の割合が減少する傾向がみられ、1次プランから4次プランで15.2ポイント減少しています。

性別でみると、大きな差異はみられず、男女とも「参加したことがある」人が7割半ばとなっています。

<地域活動や地域行事への参加経験（1・2・3・4次プラン）>



<地域活動や地域行事への参加経験（性別）>



（２）参加したことがある地域活動や地域行事

問１８で「参加したことがある」と回答した方にお聞きします。

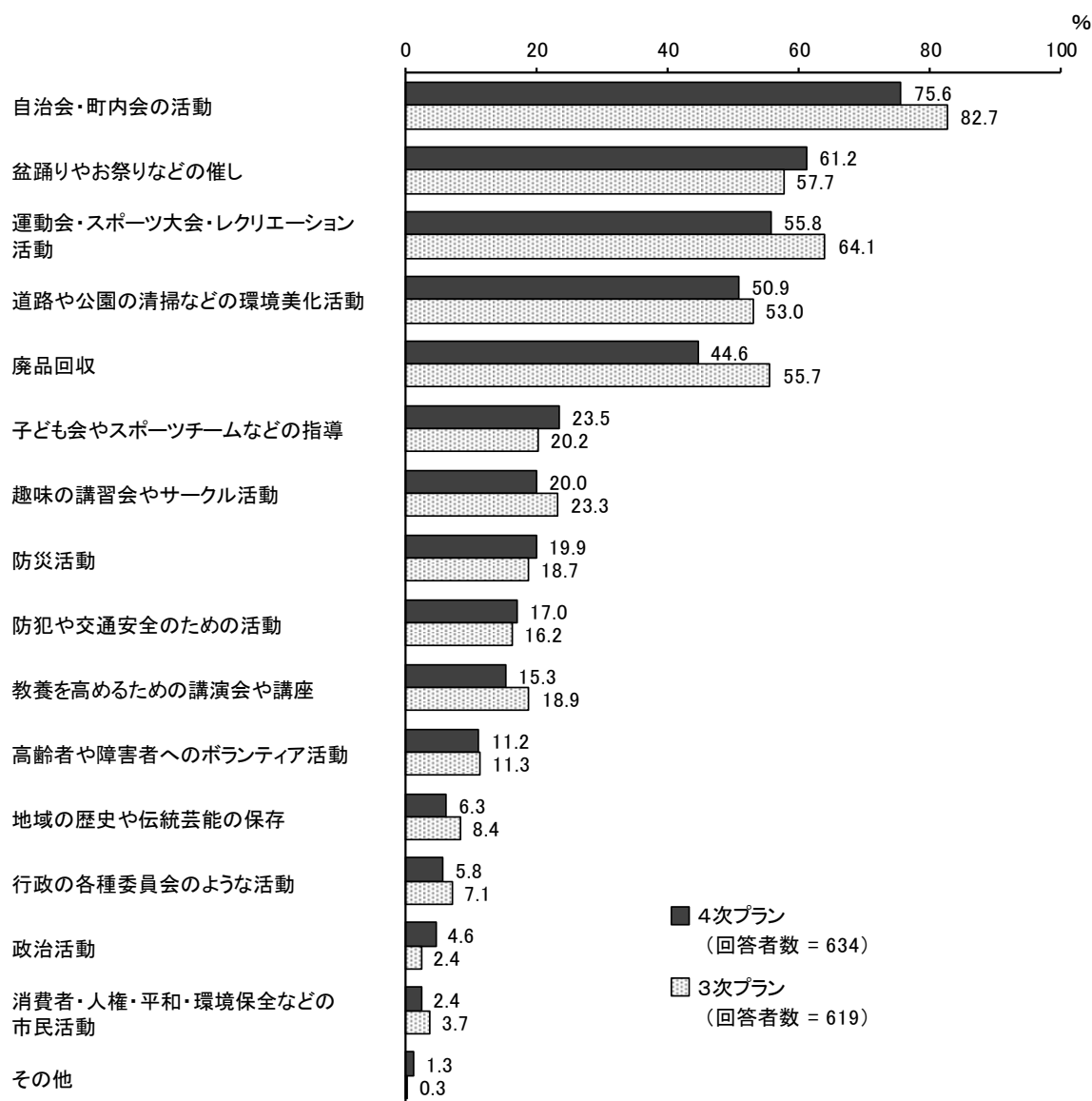
問１８－１ それは、どんな地域活動や地域行事ですか。（○はいくつでも）

参加したことがある地域活動や地域行事については、「自治会・町内会の活動」の割合が 75.6%と最も高く、次いで「盆踊りやお祭りなどの催し」の割合が 61.2%、「運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動」の割合が 55.8%、「道路や公園の清掃などの環境美化活動」の割合が 50.9%と 5 割を超えています。続いて、「廃品回収」の割合が 44.6%、「子ども会やスポーツチームなどの指導」の割合が 23.5%となっており、その他の項目は 2 割以下となっています。

3 次プランと比較すると、「自治会・町内会の活動」「運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動」「廃品回収」の割合が減少していますが、コロナウィルス感染症の影響に留意する必要があります。

性別でみると、男性で「自治会・町内会の活動」「防災活動」の割合が高くなっています。また、女性で「盆踊りやお祭りなどの催し」「廃品回収」「趣味の講習会やサークル活動」の割合が高くなっています。

＜参加したことがある地域活動や地域行事（３次プラン・４次プラン）＞



<参加したことがある地域活動や地域行事（性別）>

単位：％

区分	回答者数（件）	自治会・町内会の活動	盆踊りやお祭りなどの催し	防犯や交通安全のための活動	防災活動	廃品回収	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動	道路や公園の清掃などの環境美化活動	子ども会やスポーツチームなどの指導	高齢者や障害者へのボランティア活動	消費者・人権・平和・環境保全などの市民活動	行政の各種委員会のような活動	政治活動	趣味の講習会やサークル活動	教養を高めるための講演会や講座	地域の歴史や伝統芸能の保存	その他	無回答
男性	251	84.5	54.6	16.7	26.3	39.0	55.8	54.2	22.3	9.6	3.2	9.6	8.0	12.7	12.0	8.0	2.0	—
女性	383	69.7	65.5	17.2	15.7	48.3	55.9	48.8	24.3	12.3	1.8	3.4	2.3	24.8	17.5	5.2	0.8	0.3

■参加したことがある地域活動や地域行事（１・２・３次プラン，上位５位までの回答）

３次プラン以前と比較すると，順位の変動はあるものの，上位５位の項目に変化はありません。もともと，２次プラン以降「廃品回収」は順位が下がる傾向がみられます。

順位	１次プラン	２次プラン	３次プラン	４次プラン
１	自治会・町内会の活動(72.3%)	自治会・町内会の活動(84.2%)	自治会・町内会の活動(82.7%)	自治会・町内会の活動(75.6%)
２	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動(63.1%)	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動(63.9%)	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動(64.1%)	盆踊りやお祭りなどの催し(61.2%)
３	盆踊りやお祭りなどの催し(57.8%)	廃品回収(58.3%)	盆踊りやお祭りなどの催し(57.7%)	運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動(55.8%)
４	廃品回収(55.5%)	盆踊りやお祭りなどの催し(58.0%)	廃品回収(55.7%)	道路や公園の清掃などの環境美化活動(50.9%)
５	道路や公園の清掃などの環境美化活動(43.5%)	道路や公園の清掃などの環境美化活動(53.8%)	道路や公園の清掃などの環境美化活動(53.0%)	廃品回収(44.6%)

(3) 地域活動に参加したことがない理由

問18で「参加したことがない」と回答した方にお聞きします。

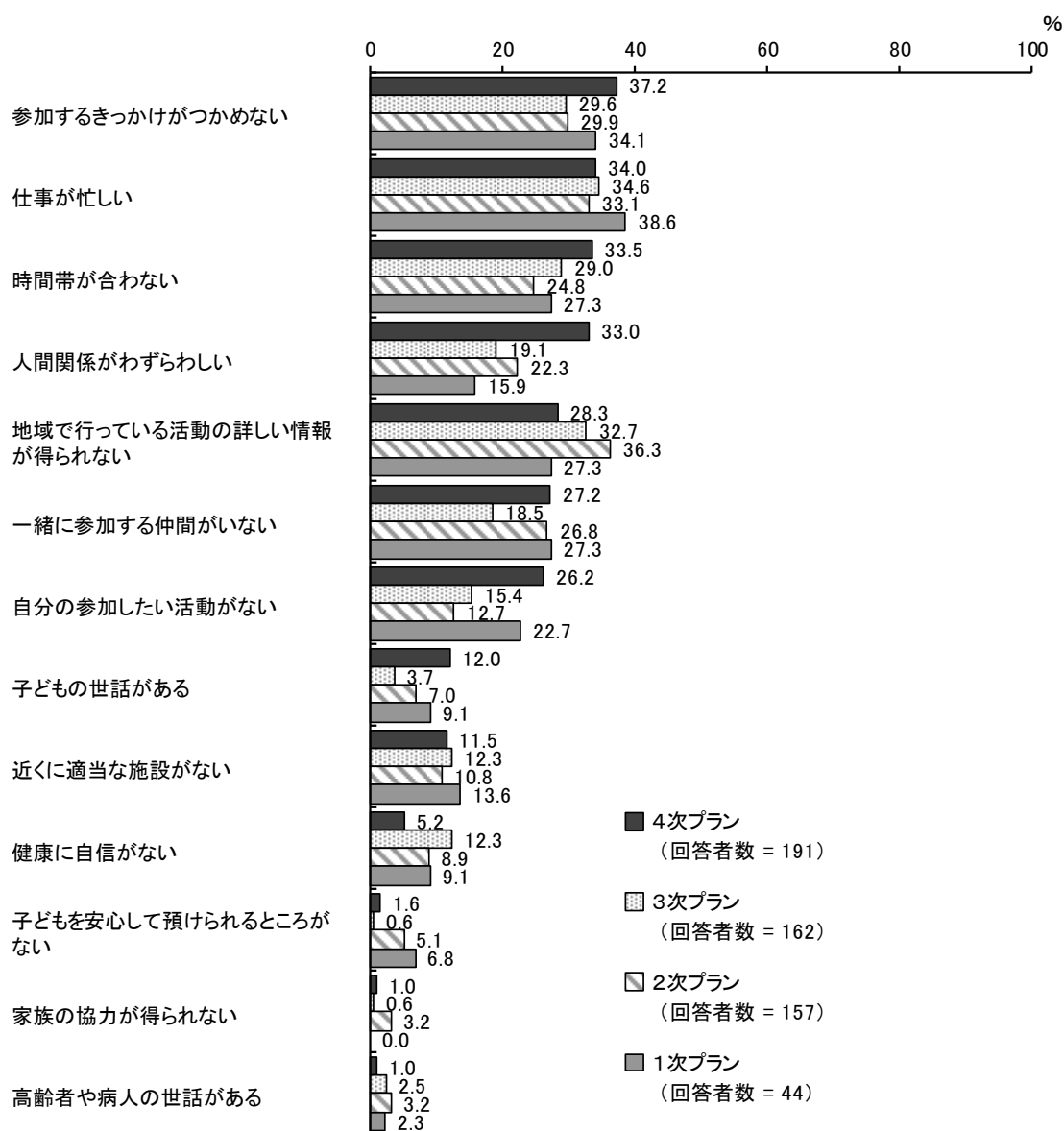
問18-2 これまで、地域活動に参加したことがない理由は何ですか。(3つに○)

地域活動に参加したことがない理由については、「参加するきっかけがつかめない」の割合が37.2%と最も高く、次いで「仕事が忙しい」の割合が34.0%、「時間帯が合わない」の割合が33.5%となっています。また、続いて「人間関係がわずらわしい」「地域で行っている活動の詳しい情報が得られない」「一緒に参加する仲間がいない」の割合が約3割となっています。

3次プラン以前と比較すると、「参加するきっかけがつかめない」「人間関係がわずらわしい」「一緒に参加する仲間がいない」「自分の参加したい活動がない」「子どもの世話がある」の割合が増加しており、中でも「人間関係がわずらわしい」「自分の参加したい活動がない」は10ポイント以上増加しています。

性別でみると、男性で「参加するきっかけがつかめない」「仕事が忙しい」「人間関係がわずらわしい」の割合が高く、特に「仕事が忙しい」は男女で22.8ポイントの差がみられます。また、女性で「子どもの世話がある」の割合が高く、男女で15.6ポイントの差がみられます。

<地域活動に参加したことがない理由(1・2・3・4次プラン)>



＜地域活動に参加したことがない理由（性別）＞

単位：％

区分	回答者数（件）	一緒に参加する仲間がいない	近くに適当な施設がない	自分の参加したい活動がない	地域で行っている活動の詳しい情報が得られない	時間帯が合わない	参加するきっかけがつかめない	仕事忙しい	子どもの世話がある	子どもを安心して預けられるところがない	家族の協力が得られない	高齢者や病人の世話がある	健康に自信がない	人間関係がわずらわしい	その他	無回答
男性	75	22.7	6.7	28.0	29.3	36.0	41.3	48.0	2.7	—	—	—	5.3	38.7	10.7	1.3
女性	115	30.4	14.8	25.2	27.8	31.3	34.8	25.2	18.3	2.6	1.7	1.7	5.2	29.6	14.8	0.9
その他	1	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

（４）男性が家事，子育て，介護，地域活動に参加するために必要なこと

問１９ 今後，男性が女性とともに家事，子育て，介護，地域活動に積極的に参加していくためには，どのようなことが必要だと思いますか。（３つに○）

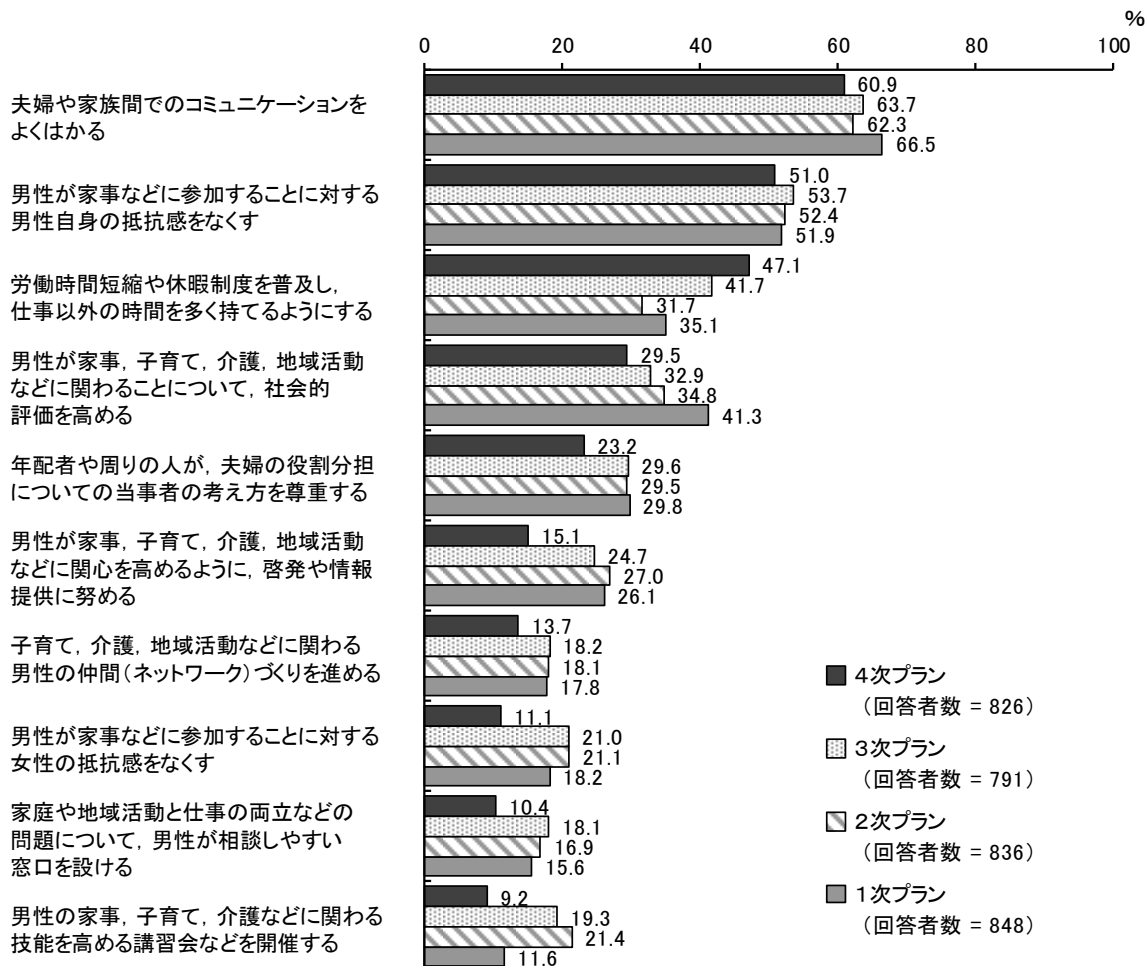
男性が家事，子育て，介護，地域活動に参加するために必要なことについては，「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が 60.9%と最も高く，次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が 51.0%，「労働時間短縮や休暇制度を普及し，仕事以外の時間を多く持てるようにする」の割合が 47.1%となっています。

３次プラン以前と比較すると，「男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす」「男性が家事，子育て，介護，地域活動などに関心を高めるように，啓発や情報提供に努める」「男性の家事，子育て，介護などに関わる技能を高める講習会などを開催する」「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について，男性が相談しやすい窓口を設ける」の割合が減少しています。また，「労働時間短縮や休暇制度を普及し，仕事以外の時間を多く持てるようにする」は増加傾向がみられ，「男性が家事，子育て，介護，地域活動などに関わることについて，社会的評価を高める」は減少傾向がみられます。

性別でみると，他に比べ，男性で「労働時間短縮や休暇制度を普及し，仕事以外の時間を多く持てるようにする」の割合が高くなっています。一方，他に比べ，女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」「年配者や周りの人が，夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する」の割合が高くなっています。

年齢別でみると，他に比べ，70 歳以上で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」の割合が，また，すべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」の割合が高くなっています。

＜男性が家事，子育て，介護，地域活動に参加するために必要なこと（１・２・３・４次プラン）＞



＜男性が家事，子育て，介護，地域活動に参加するために必要なこと（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	男性が家事などに参加することに 男性自身の抵抗感をなくす	男性が家事などに参加することに 女性の抵抗感をなくす	夫婦や家族間でのコミュニケーションを よくはかる	年配者や周りの人が、夫婦の役割分担に ついての当事者の考え方を尊重する	男性が家事，子育て，介護，地域活動などに 関わることで、社会的評価を高める	労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外 の時間を多く持てるようにする	男性が家事，子育て，介護，地域活動などに 関心をもてるように、啓発や情報提供に努める	男性が家事，子育て，介護などに 関わる技能を 高める講習会などを開催する	子育て，介護，地域活動などに関わる 仲間（ネットワーク）づくりを進める	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題に ついて、男性が相談しやすい窓口を設ける	その他
性別	男性	318	47.5	12.6	58.8	19.5	28.3	51.9	17.3	10.7	17.0	13.5	4.1
	女性	487	55.2	10.7	64.9	26.7	31.6	46.0	14.4	8.6	12.1	8.8	3.5
	その他	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10歳代	45	51.1	4.4	66.7	13.3	35.6	48.9	13.3	15.6	20.0	13.3	6.7
	20歳代	152	48.0	9.9	59.9	28.3	29.6	58.6	14.5	3.9	14.5	16.4	3.3
	30歳代	131	45.8	13.7	61.8	26.7	31.3	55.7	13.7	4.6	17.6	4.6	3.1
	40歳代	133	49.6	13.5	66.2	26.3	32.3	48.9	13.5	10.5	7.5	10.5	5.3
	50歳代	148	59.5	10.8	60.1	25.0	29.7	41.9	12.8	9.5	10.8	10.8	4.7
	60歳代	116	52.6	12.1	62.9	19.0	25.9	42.2	19.8	15.5	19.0	7.8	3.4
	70歳以上	81	61.7	11.1	63.0	17.3	30.9	35.8	23.5	13.6	13.6	12.3	—

6 男女の人権に対する問題について

(1) セクシュアル・ハラスメントに該当する行為

問20 次の項目のうち職場において、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思う・経験したことがあることはどれですか。(○はいくつでも)

1. セクハラだと思うもの

セクシュアル・ハラスメントに該当する行為だと思うものについては、「地位や権限を利用して、性的な関係を迫る」の割合が83.5%と最も高く、次いで「さわる、抱きつくなど肉体的接触をする」の割合が82.0%、「ポルノ画像、性的ジェスチャーなどを見せる」の割合が76.3%となっています。

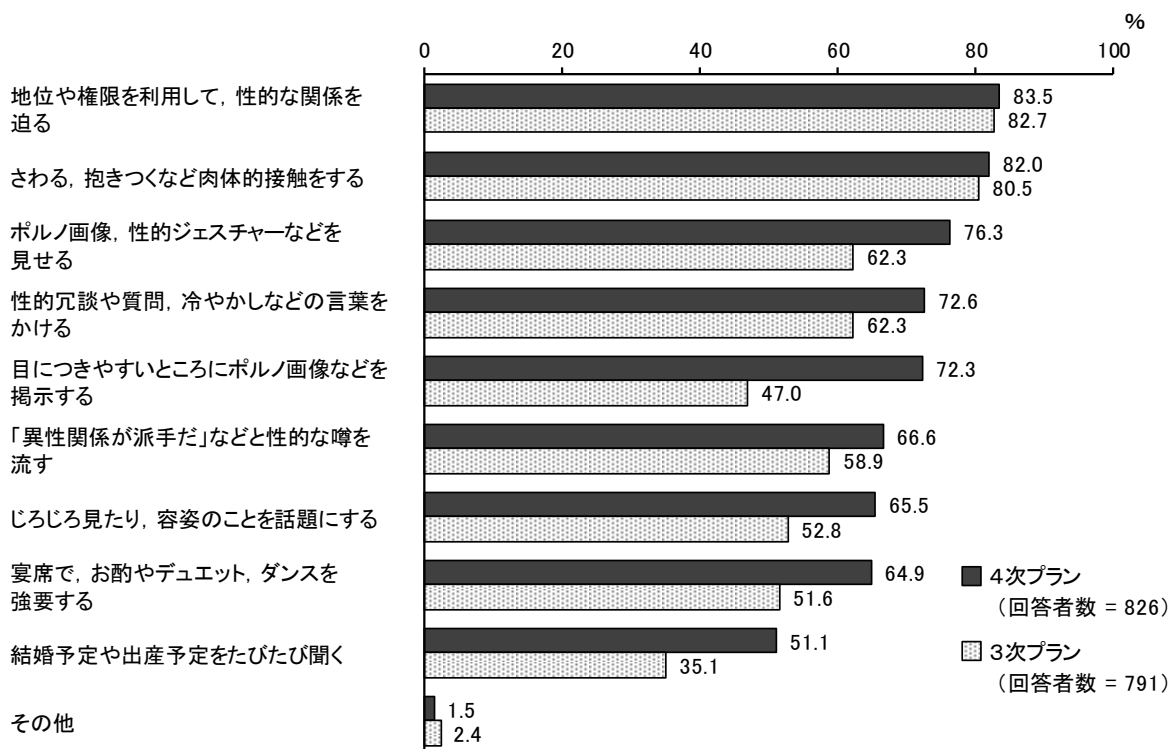
また、続いて「性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかける」「目につきやすいところにポルノ画像などを掲示する」の割合が約7割となっています。

3次プランと比較すると、すべての項目の割合が増加しており、特に「目につきやすいところにポルノ画像などを掲示する」では25.3ポイント、「結婚予定や出産予定をたびたび聞く」では16.0ポイント増加しています。

性別でみると、大きな差異はみられません。

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「地位や権限を利用して、性的な関係を迫る」「さわる、抱きつくなど肉体的接触をする」「性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかける」「ポルノ画像、性的ジェスチャーなどを見せる」「目につきやすいところにポルノ画像などを掲示する」の割合が高くなる傾向がみられます。

<セクシュアル・ハラスメントに該当する行為だと思うもの（3次プラン・4次プラン）>



＜セクシュアル・ハラスメントに該当する行為だと思うもの（性別、年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	地位や権限を利用して、性的な関係を迫る	さわる、抱きつくなど肉体的接触をする	性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかける	ポルノ画像、性的ジェスチャーなどを見せる	「異性関係が派手だ」など、性的な噂を流す	じろじろ見たり、容姿のことを話題にする	宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要する	ポルノ画像などを掲示する	目につきやすいところにポルノ画像などを掲示する	結婚予定や出産予定をたびたび聞く	その他	無回答
性別	男性	326	82.2	81.0	74.5	77.3	66.3	65.6	67.5	71.8	54.0	1.5	12.3	
	女性	499	84.4	82.6	71.5	75.6	66.9	65.5	63.3	72.5	49.3	1.4	10.8	
	その他	1	100.0	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	
年齢別	10 歳代	45	88.9	91.1	80.0	84.4	68.9	73.3	75.6	77.8	68.9	2.2	—	
	20 歳代	153	88.2	88.9	75.8	85.0	73.2	67.3	69.3	81.7	49.7	1.3	4.6	
	30 歳代	132	94.7	89.4	82.6	85.6	75.8	77.3	67.4	83.3	53.0	2.3	3.8	
	40 歳代	136	91.9	86.0	72.8	77.2	64.0	64.0	67.6	76.5	47.8	2.9	6.6	
	50 歳代	155	82.6	82.6	77.4	77.4	72.9	67.7	65.8	72.9	55.5	—	11.0	
	60 歳代	122	73.8	73.8	64.8	68.0	60.7	64.8	59.8	64.8	53.3	1.6	21.3	
	70 歳以上	83	56.6	56.6	49.4	49.4	39.8	38.6	48.2	37.3	34.9	—	36.1	

2. 経験したことがある

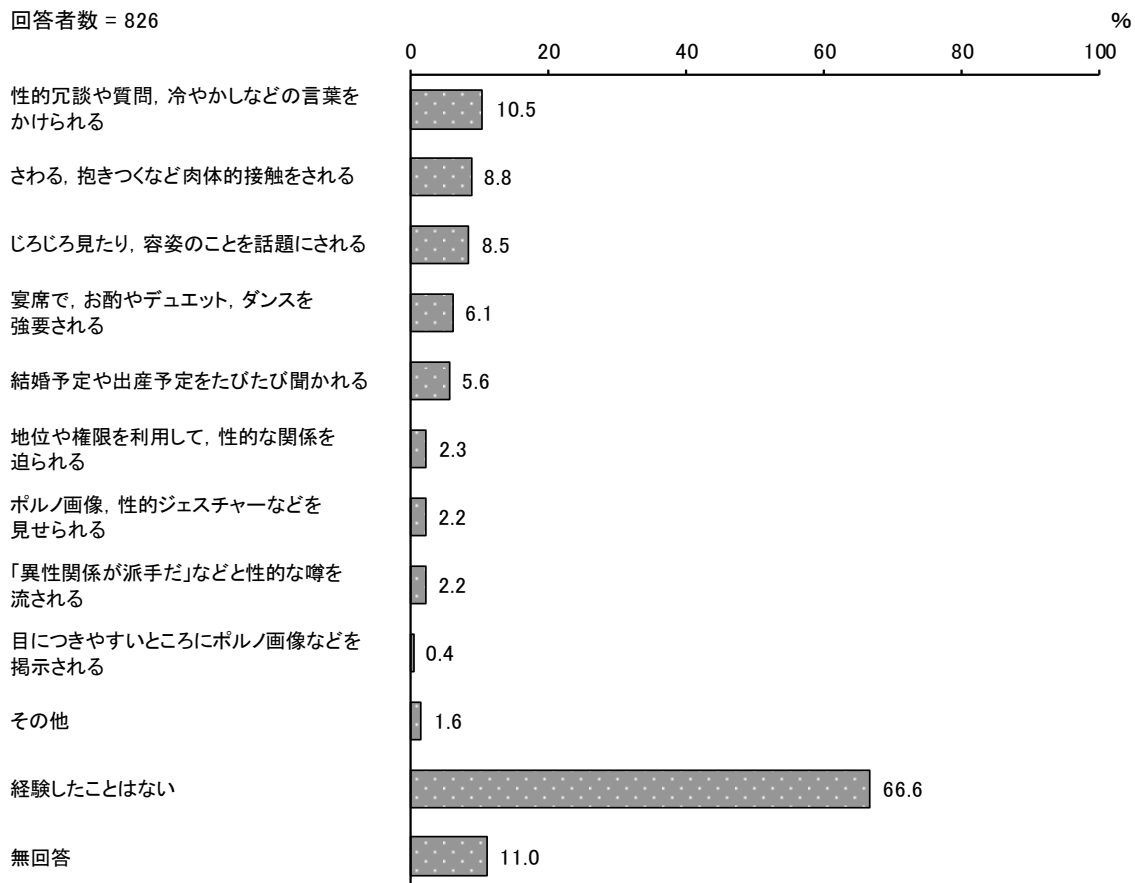
経験したことがあるセクシュアル・ハラスメントに該当する行為については、「経験したことはない」の割合が66.6%と最も高く、次いで「性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかけられる」の割合が10.5%となっています。また、全体（100%）から無回答と「経験したことはない」を差し引いた“経験したことがある人”の割合は22.4%となっています。

性別でみると、女性に比べ、男性で「経験したことはない」の割合が高くなっています。また、女性では“経験したことがある人”の割合が30.1%と、男性より19.4ポイント高くなっています。

年齢別でみると、30歳代で“経験したことがある人”の割合が高く、約3割となっています。30歳代での経験したことの中では「結婚予定や出産予定をたびたび聞かれる」の割合が高く、約1割となっています。

＜経験したことがあるセクシュアル・ハラスメントに該当する行為＞

回答者数 = 826



＜経験したことがあるセクシュアル・ハラスメントに該当する行為（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	経験したことはない	その他	結婚予定や出産予定を たびたび聞かれる	目につきやすいところに ポルノ画像などを掲示される	宴席で、お酌やデュエット、 ダンスを強要される	じろじろ見たり、容姿のことを 話題にされる	「異性関係が派手だ」などと 性的な噂を流される	ポルノ画像、性的ジェスチャー などを見せられる	性的冗談や質問、冷やかしなど の言葉をかけられる	さわる、抱きつくなど肉体的 接触をされる	地位や権限を利用して、性的な 関係を迫られる		無回答
性別	男性	326	77.6	1.2	2.8	0.6	3.4	3.4	1.5	1.2	5.5	1.5	0.9	326	11.7
	女性	499	59.3	1.8	7.4	0.2	7.8	11.8	2.6	2.8	13.8	13.6	3.2	499	10.6
	その他	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—
年齢別	10 歳代	45	80.0	6.7	—	—	4.4	4.4	2.2	—	4.4	11.1	2.2	45	—
	20 歳代	153	71.2	0.7	5.9	—	3.9	10.5	3.9	2.0	11.1	7.2	1.3	153	4.6
	30 歳代	132	64.4	3.8	12.9	0.8	6.8	9.8	3.8	2.3	14.4	10.6	3.0	132	3.0
	40 歳代	136	67.6	0.7	5.9	—	10.3	11.0	3.7	4.4	13.2	13.2	4.4	136	6.6
	50 歳代	155	67.7	0.6	4.5	0.6	7.7	10.3	—	3.9	13.5	11.0	3.2	155	9.7
	60 歳代	122	61.5	1.6	3.3	0.8	4.1	5.7	0.8	—	6.6	4.9	0.8	122	21.3
	70 歳以上	83	57.8	—	1.2	—	2.4	1.2	—	—	2.4	2.4	—	83	36.1

（２）配偶者・パートナー間の暴力の経験

問２１ 最近、配偶者・パートナー間での暴力が問題となっていますが、身近で経験したことがありますか。（○はいくつでも）

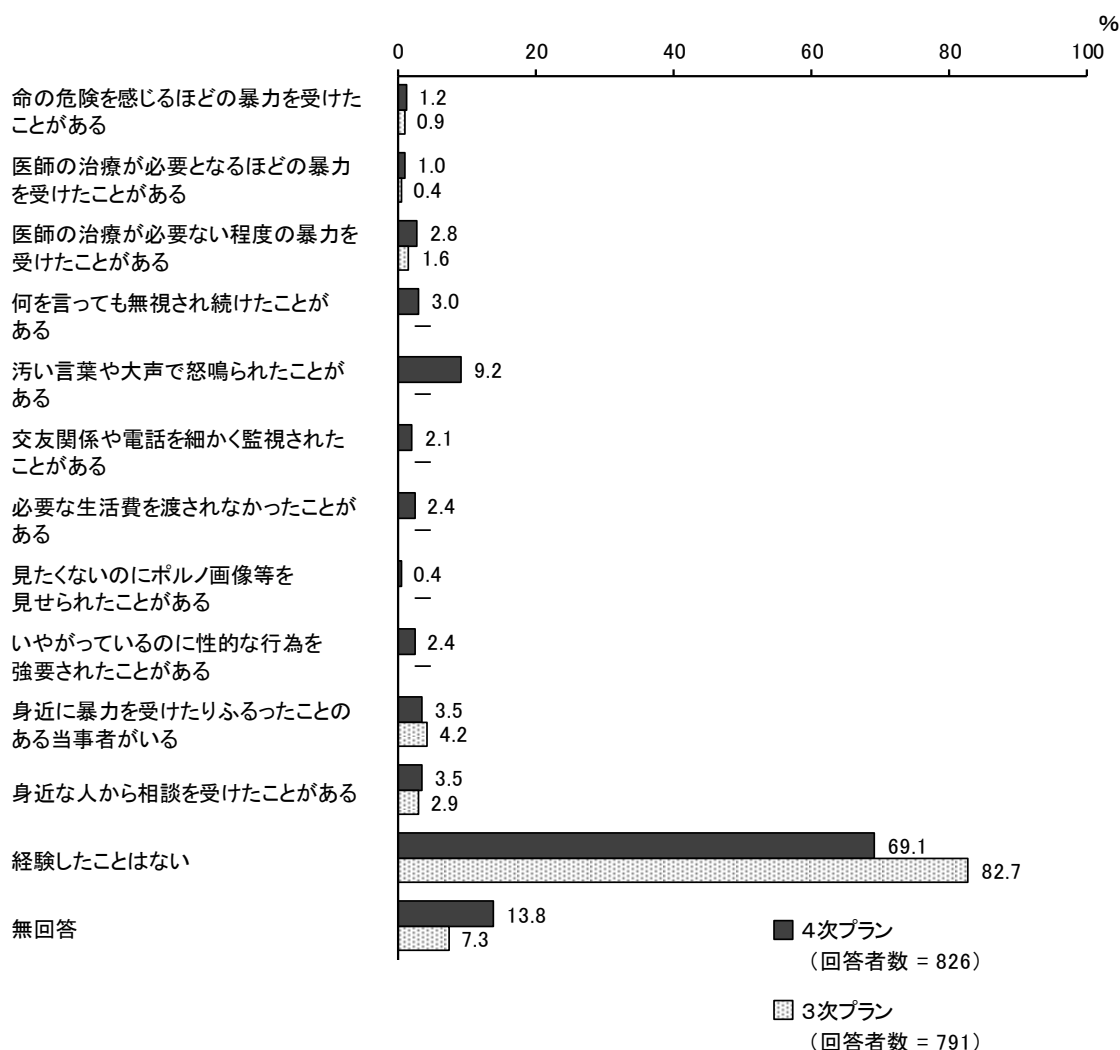
配偶者・パートナー間の暴力の経験については、「経験したことはない」の割合が 69.1%と最も高くなっています。また、「経験したことはない」と無回答を全体から引いた“暴力を経験したことがある”人の割合は 17.1%となっています。

3次プランと比較すると，“暴力を経験したことがある”人の割合が 7.1 ポイント増加しています。

性別でみると、女性で“暴力を経験したことがある”人の割合が高く、約 2 割となっています。男性でも、約 1 割の人が暴力を経験しています。

年齢別でみると、40 歳代で“暴力を経験したことがある”人の割合が高く、約 3 割となっており、30 歳代、50 歳代でも約 2 割となっています。また、40 歳代で「汚い言葉や大声で怒鳴られたことがある」の割合が高く、約 2 割となっています。

＜配偶者・パートナー間の暴力の経験（3次プラン，4次プラン）＞



＜配偶者・パートナー間の暴力の経験（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある	医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある	医師の治療が必要ない程度の暴力を受けたことがある	何を言っても無視され続けたことがある	汚い言葉や大声で怒鳴られたことがある	監視されたことがある	交友関係や電話を細かく監視されたことがある	必要な生活費を渡されなかったことがある	見たくないのにポルノ画像等を見せられたことがある	いやがっているのに性的な行為を強要されたことがある	身近に暴力を受けたりふるったことのある当事者がいる	身近な人から相談を受けたことがある	経験したことはない	無回答
性別	男性	326	0.9	－	0.3	3.4	6.4	1.2	0.6	－	－	1.5	2.1	70.9	18.4	
	女性	499	1.4	1.6	4.4	2.8	11.0	2.6	3.6	0.6	4.0	4.8	4.4	67.9	10.8	
	その他	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	100.0	－	
年齢別	10 歳代	45	－	－	2.2	2.2	4.4	－	－	－	2.2	4.4	2.2	88.9	4.4	
	20 歳代	153	0.7	0.7	2.0	1.3	5.9	3.3	2.6	0.7	1.3	1.3	2.6	78.4	8.5	
	30 歳代	132	0.8	－	0.8	2.3	9.8	3.8	1.5	－	5.3	9.1	8.3	72.0	5.3	
	40 歳代	136	4.4	3.7	7.4	6.6	17.6	1.5	6.6	0.7	5.9	5.1	5.1	58.1	12.5	
	50 歳代	155	0.6	－	3.9	3.2	8.4	1.9	2.6	0.6	1.3	1.9	1.3	65.2	16.8	
	60 歳代	122	0.8	0.8	0.8	3.3	9.0	1.6	0.8	－	－	1.6	2.5	69.7	18.0	
	70 歳以上	83	－	1.2	1.2	1.2	4.8	－	－	－	－	1.2	1.2	61.4	32.5	

(3) 暴力について打ち明けたり相談したこと

＜問20で「経験したことがある」に○，または問21で「命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある」～「身近な人から相談を受けたことがある」に○をつけた方にお聞きします。＞

問21-1 これまでに暴力について誰かにうちあけたり，相談したことはありますか。
(○はいくつでも)

暴力について打ち明けたり相談したことについては、「誰（どこ）にも相談しなかった」の割合が30.9%と最も高く，次いで「友人・知人に相談した」の割合が29.4%，「家族や親戚に相談した」の割合が19.6%となっています。

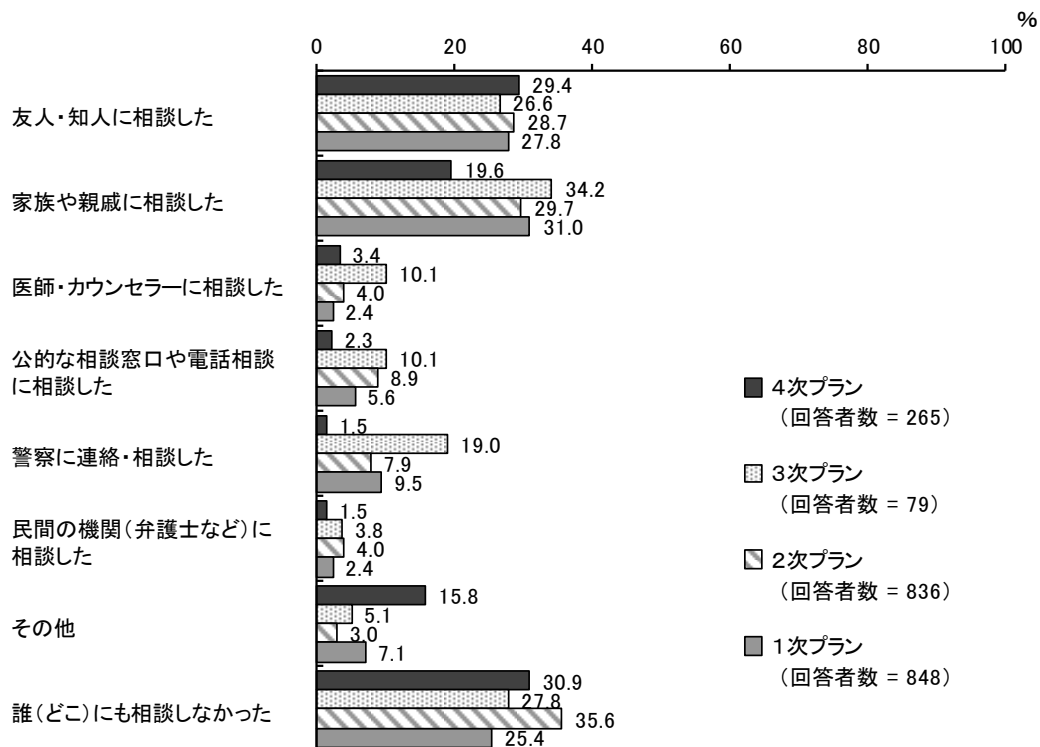
一方，「医師・カウンセラーに相談した」「公的な相談窓口や電話相談に相談した」「警察に連絡・相談した」「民間の機関（弁護士など）に相談した」は数%と少なくなっています。

3次プラン以前と比較すると，「警察に連絡・相談した」「公的な相談窓口や電話相談に相談した」「家族や親戚に相談した」の割合が減少しています。

性別でみると，男性で「誰（どこ）にも相談しなかった」の割合が高く，約4割となっています。一方，女性では「家族や親戚に相談した」「友人・知人に相談した」の割合が高く，身近な人に相談する人が多くなっています。

年齢別でみると，20歳代，60歳代，70歳代以上で「誰（どこ）にも相談しなかった」の割合が高く，約4割となっています。また，10歳代，30歳代，40歳代，50歳代で「友人・知人に相談した」の割合が高くなっています。

＜暴力について打ち明けたり相談したこと（3次プラン・4次プラン）＞



＜暴力について打ち明けたり相談したこと（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数 (件)	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口や電話 相談に相談した	民間の機関（弁護士など） に相談した	医師・カウンセラーに 相談した	家族や親戚に相談した	友人・知人に相談した	その他	誰（どこ）にも相談 しなかった	無回答
性別	男性	64	—	—	—	3.1	14.1	20.3	10.9	37.5	20.3
	女性	201	2.0	3.0	2.0	3.5	21.4	32.3	17.4	28.9	9.5
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	10	—	—	—	10.0	10.0	30.0	20.0	20.0	10.0
	20 歳代	45	—	2.2	—	4.4	26.7	20.0	8.9	40.0	11.1
	30 歳代	59	1.7	1.7	1.7	1.7	13.6	33.9	23.7	27.1	11.9
	40 歳代	56	1.8	3.6	3.6	7.1	30.4	35.7	16.1	25.0	5.4
	50 歳代	54	3.7	3.7	1.9	1.9	20.4	31.5	11.1	27.8	16.7
	60 歳代	32	—	—	—	—	9.4	28.1	15.6	40.6	12.5
	70 歳以上	9	—	—	—	—	—	—	22.2	44.4	33.3

(4) どこにも相談しなかった理由

問2 1-1で「誰（どこ）にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問2 1-2 どこにも相談しなかった理由はどのようなことですか。（○はいくつでも）

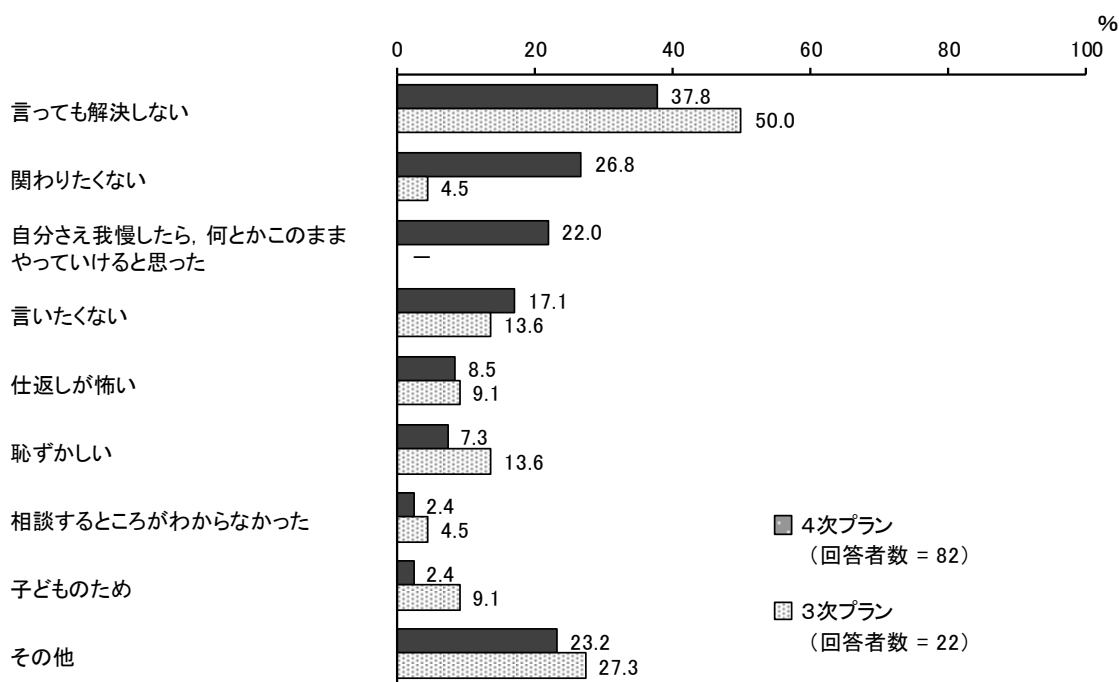
暴力を受けてもどこにも相談しなかった理由については、「言っても解決しない」の割合が37.8%と最も高く、次いで「関わりたくない」の割合が26.8%、「自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った」の割合が22.0%となっています。

3次プランと比較すると、「言っても解決しない」「恥ずかしい」「子どものため」の割合が減少している一方、「関わりたくない」の割合が22.3ポイント増加しています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「言っても解決しない」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、40歳代で「言っても解決しない」の割合が高くなっています。

<どこにも相談しなかった理由（3次プラン・4次プラン）>



※3次プランには「自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った」の選択肢はありません。

<どこにも相談しなかった理由（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数（件）	仕返しが怖い	相談するところがわからなかった	言いたくない	恥ずかしい	言っても解決しない	子どものため	関わりたくない	自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った	その他	無回答
性別	男性	24	4.2	—	12.5	4.2	29.2	—	20.8	29.2	25.0	8.3
	女性	58	10.3	3.4	19.0	8.6	41.4	3.4	29.3	19.0	22.4	6.9
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	2	—	—	50.0	—	—	—	—	—	100.0	—
	20 歳代	18	22.2	—	16.7	11.1	16.7	—	33.3	33.3	22.2	—
	30 歳代	16	6.3	—	18.8	6.3	43.8	6.3	37.5	12.5	25.0	6.3
	40 歳代	14	7.1	—	—	14.3	57.1	7.1	7.1	21.4	28.6	7.1
	50 歳代	15	6.7	6.7	20.0	—	40.0	—	26.7	13.3	26.7	13.3
	60 歳代	13	—	—	15.4	7.7	46.2	—	30.8	30.8	7.7	15.4
	70 歳以上	4	—	25.0	50.0	—	25.0	—	25.0	25.0	—	—

（５）配偶者の暴力をなくすために必要なこと

問２２ あなたは、配偶者の暴力をなくすためにどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

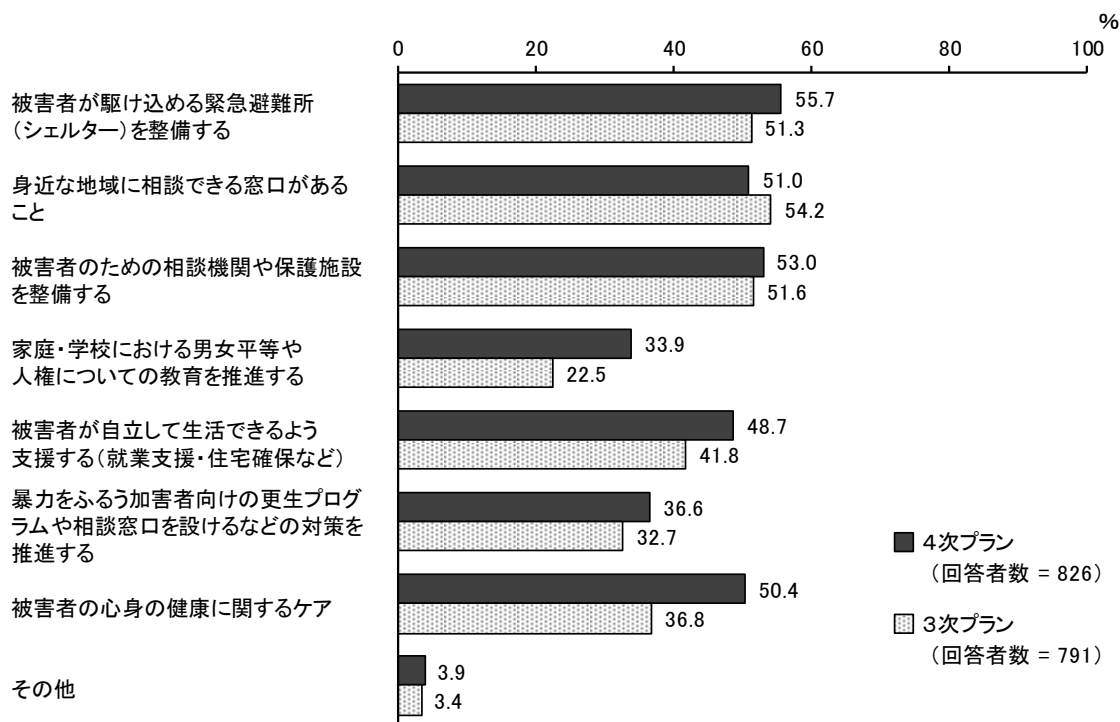
配偶者の暴力をなくすために必要なことについては、「被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）を整備する」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が 53.0%、「身近な地域に相談できる窓口があること」の割合が 51.0%となっています。

３次プランと比較すると、「被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）を整備する」「家庭・学校における男女平等や人権についての教育を推進する」「被害者が自立して生活できるよう支援する（就業支援・住宅確保など）」「暴力をふるう加害者向けの更生プログラムや相談窓口を設けるなどの対策を推進する」「被害者の心身の健康に関するケア」の割合が増加しています。

性別でみると、男性では「身近な地域に相談できる窓口があること」の割合が５割半ばと、女性より高くなっています。女性では、男性に比べ「被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）を整備する」「被害者が自立して生活できるよう支援する（就業支援・住宅確保など）」「被害者の心身の健康に関するケア」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10 歳代で「被害者の心身の健康に関するケア」「家庭・学校における男女平等や人権についての教育を推進する」の割合が高く、特に「被害者の心身の健康に関するケア」の割合が約 7 割となっています。

＜配偶者の暴力をなくすために必要なこと（３次プラン・４次プラン）＞



＜配偶者の暴力をなくするために必要なこと（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	被害者が駆け込める緊急避難所（シェルター）を整備する	身近な地域に相談できる窓口があること	被害者のための相談機関や保護施設を整備する	家庭・学校における男女平等や人権についての教育を推進する	被害者が自立して生活できるよう支援する（就業支援・住宅確保など）	暴力をふるう加害者向けの更生プログラムや相談窓口を設けるなどの対策を推進する	被害者の心身の健康に関するケア	その他	無回答
性別	男性	326	51.5	54.6	51.5	33.1	43.6	34.4	43.9	5.2	3.7
	女性	499	58.3	48.7	54.1	34.3	52.1	37.9	54.7	3.0	4.0
	その他	1	100.0	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—
年齢別	10 歳代	45	62.2	60.0	51.1	51.1	51.1	46.7	73.3	2.2	—
	20 歳代	153	53.6	53.6	55.6	34.6	50.3	36.6	56.2	2.6	3.3
	30 歳代	132	62.1	49.2	53.0	38.6	55.3	39.4	51.5	6.1	0.8
	40 歳代	136	61.8	46.3	48.5	22.1	43.4	37.5	47.8	3.7	2.9
	50 歳代	155	56.1	53.5	55.5	29.0	45.8	33.5	45.8	5.8	3.2
	60 歳代	122	58.2	54.9	58.2	36.1	49.2	36.9	51.6	1.6	4.9
	70 歳以上	83	31.3	41.0	44.6	41.0	47.0	30.1	36.1	3.6	13.3

7 多様な性についての意識

(1) 身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験

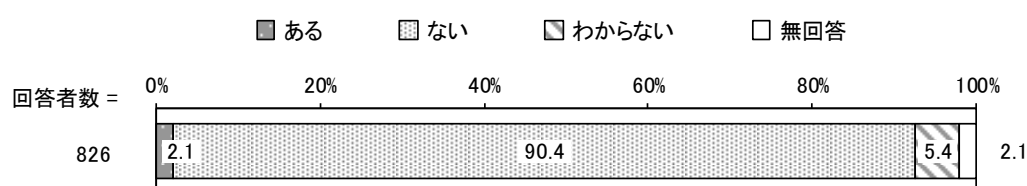
問23 あなたは、今までに自分の身体の性とこころの性の不一致や性的指向などに悩んだことがありますか。(〇は1つだけ)

身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験については、「ある」の割合が2.1%、「ない」の割合が90.4%と最も高くなっています。

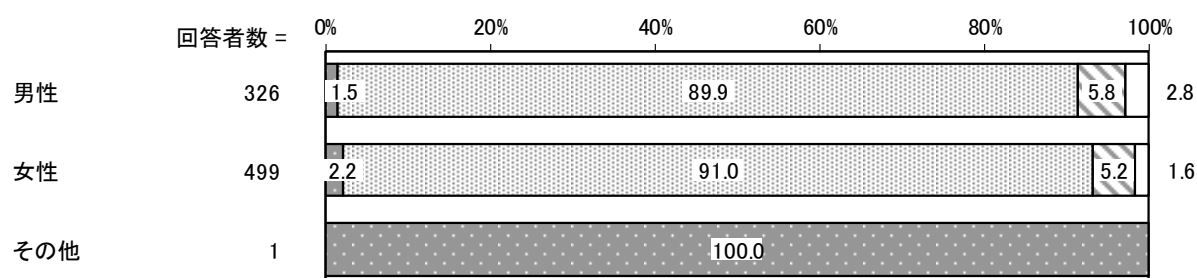
性別でみると、大きな差異はみられませんでした。

年齢別でみると、年代が低くなるにつれ「ある」の割合が高くなる傾向がみられます。

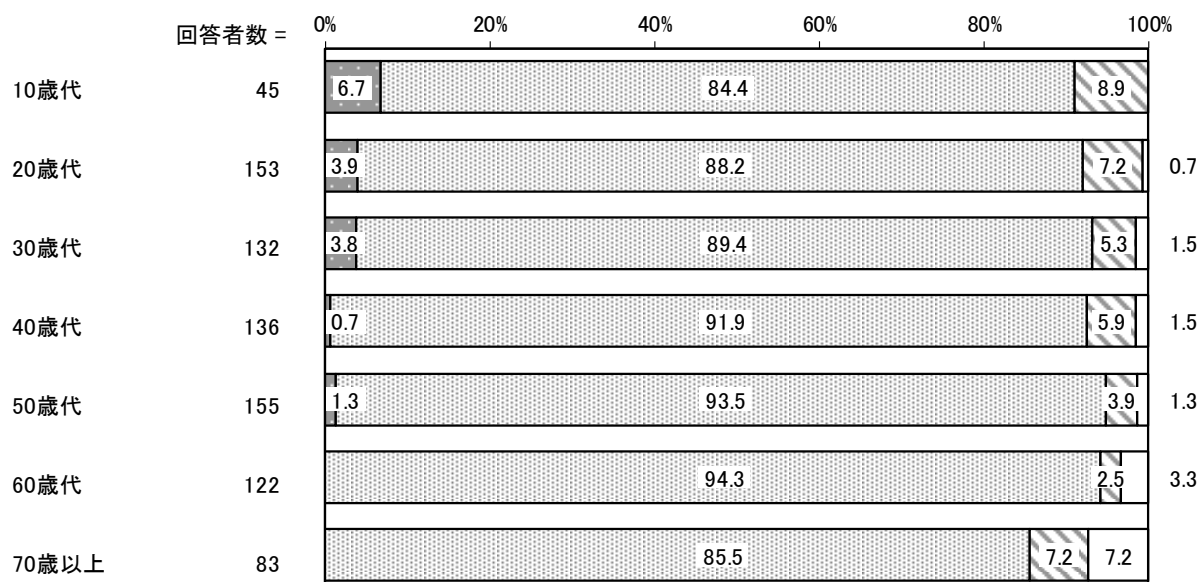
<身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験>



<身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験（性別）>



<身体の性とこころの性の不一致や性的指向に悩んだ経験（年齢別）>



（２）性的少数者にとって生活しづらい社会か

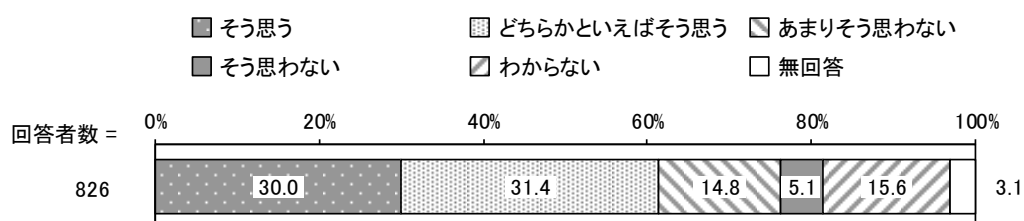
問２４ 現在、性的少数者の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（○は１つだけ）

性的少数者にとって生活しづらい社会かについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が 61.4%、「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が 19.9%となっています。

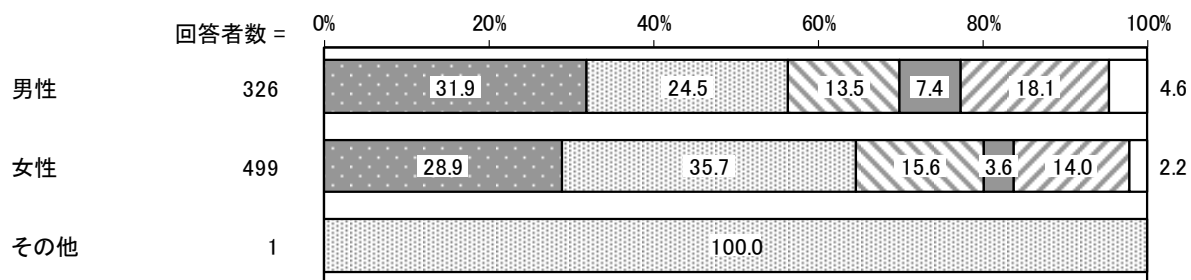
性別でみると、男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が減少する傾向にあります。

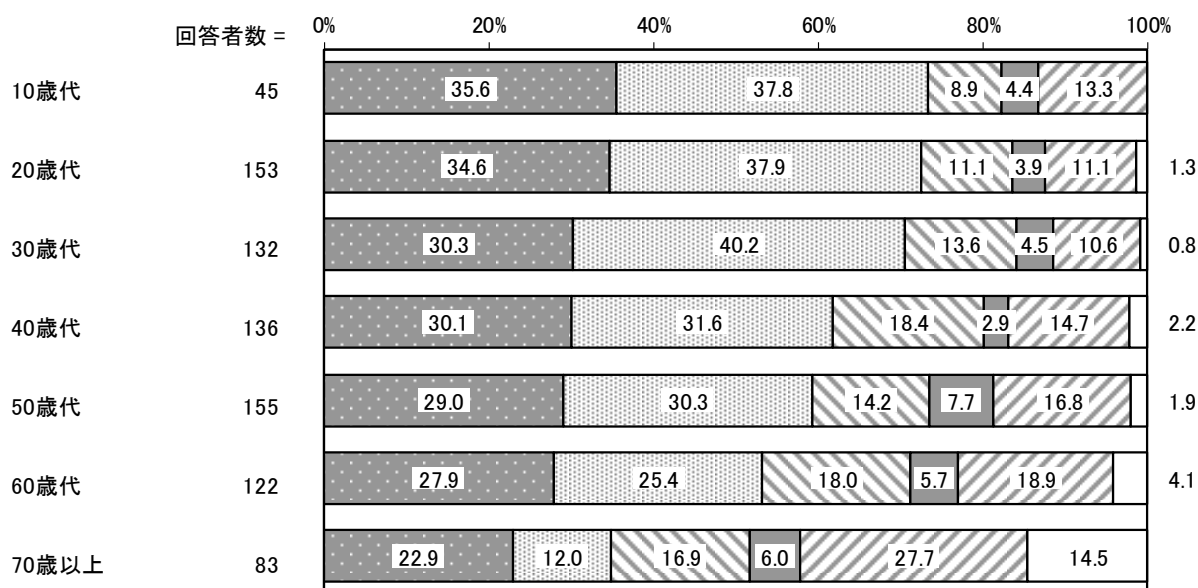
＜性的少数者にとって生活しづらい社会か＞



＜性的少数者にとって生活しづらい社会か（性別）＞



＜性的少数者にとって生活しづらい社会か（年齢別）＞



（３）性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策

問２４で「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。

問２４－１ 性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためには、どのような対策が必要だと思いますか。
（〇はいくつでも）

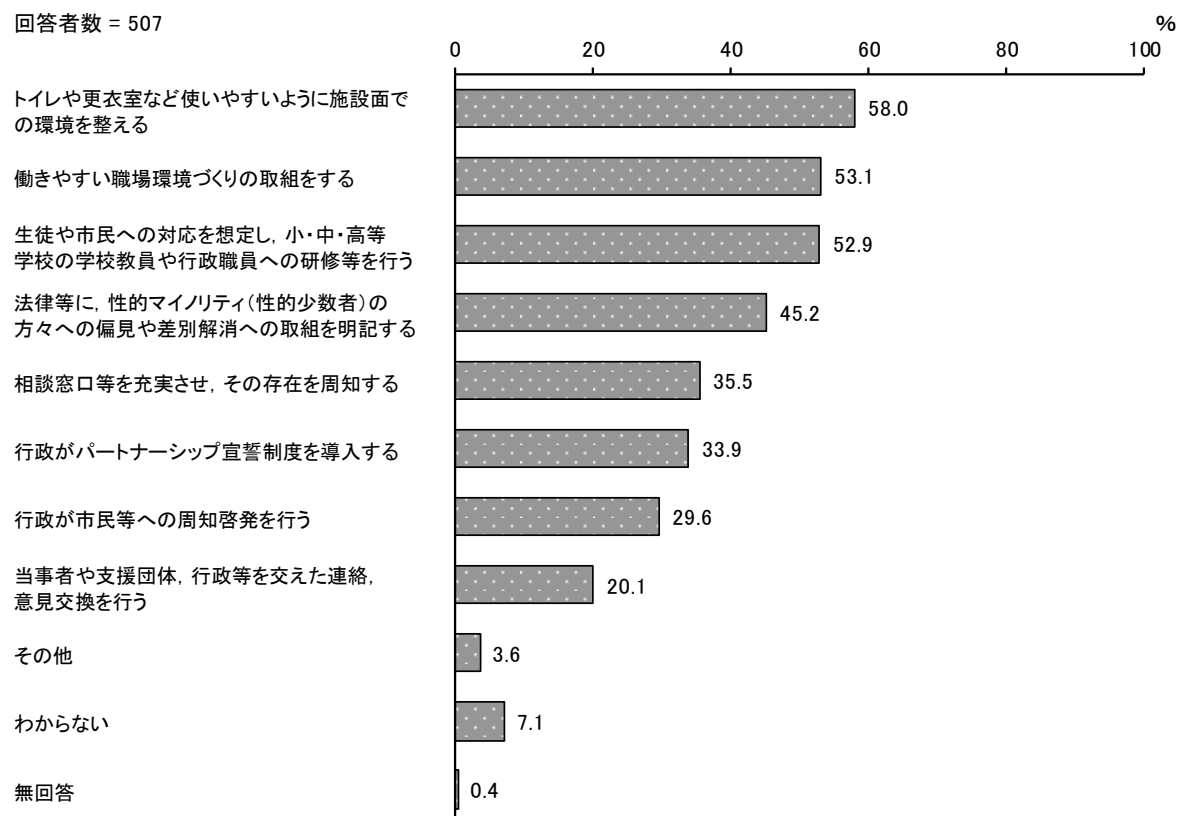
性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策については、「トイレや更衣室など使いやすいうように施設面での環境を整える」の割合が 58.0%と最も高く、次いで「働きやすい職場環境づくりの取組をする」の割合が 53.1%、「生徒や市民への対応を想定し、小・中・高等学校の学校教員や行政職員への研修等を行う」の割合が 52.9%となっています。

性別でみると、女性で「トイレや更衣室など使いやすいうように施設面での環境を整える」の割合が高く、約 6 割となっています。一方、男性では、女性に比べ「行政が市民等への周知啓発を行う」「相談窓口等を充実させ、その存在を周知する」「法律等に、性的マイノリティ（性的少数者）の方々への偏見や差別解消への取組を明記する」「当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10 歳代で「相談窓口等を充実させ、その存在を周知する」の割合が高くなっています。

<性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策>

回答者数 = 507



<性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数（件）	行政が市民等への周知啓発を行う	相談窓口等を充実させ、その存在を周知する	生徒や市民への対応を想定し、小・中・高等学校の学校教員や行政職員への研修等を行う	法律等に、性的マイノリティ（性的少数者）の方々への偏見や差別解消への取組を明記する	当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う	行政がパートナーシップ宣誓制度を導入する	働きやすい職場環境づくりの取組をする	トイレや更衣室など使いやすいように施設面での環境を整える	その他	わからない	無回答
性別	男性	184	35.3	39.1	53.8	51.1	25.5	35.9	50.0	50.0	4.3	7.6	0.5
	女性	322	26.4	33.2	52.5	41.6	17.1	32.9	55.0	62.4	3.1	6.8	0.3
	その他	1	—	100.0	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—
年齢別	10 歳代	33	21.2	57.6	63.6	57.6	27.3	33.3	60.6	54.5	3.0	3.0	—
	20 歳代	111	22.5	28.8	53.2	45.0	27.0	43.2	62.2	65.8	3.6	7.2	—
	30 歳代	93	26.9	19.4	53.8	37.6	11.8	40.9	44.1	59.1	5.4	7.5	1.1
	40 歳代	84	21.4	27.4	46.4	38.1	11.9	28.6	41.7	54.8	4.8	10.7	1.2
	50 歳代	92	34.8	46.7	46.7	43.5	20.7	23.9	52.2	50.0	3.3	7.6	—
	60 歳代	65	46.2	49.2	61.5	55.4	24.6	33.8	58.5	69.2	—	4.6	—
	70 歳以上	29	44.8	44.8	55.2	58.6	24.1	24.1	62.1	37.9	3.4	3.4	—

8 男女共同参画の実現について

(1) 政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由

問25 あなたは、政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思いますか。(○はいくつでも)

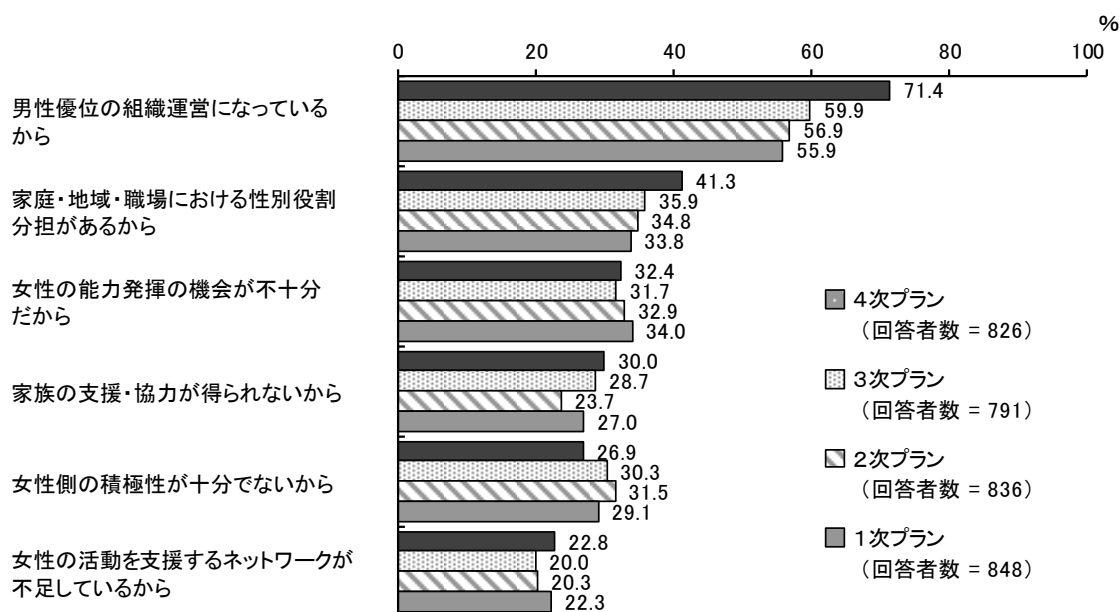
政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由については、「男性優位の組織運営になっているから」の割合が71.4%と最も高く、次いで「家庭・地域・職場における性別役割分担があるから」の割合が41.3%、「女性の能力発揮の機会が不十分だから」の割合が32.4%となっています。

3次プラン以前と比較すると、「男性優位の組織運営になっているから」の割合が増加しています。

性別でみると、男性では、女性に比べ「女性の能力発揮の機会が不十分だから」の割合が高く、3割半ばとなっています。一方、女性では「家庭・地域・職場における性別役割分担があるから」「家族の支援・協力が得られないから」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「男性優位の組織運営になっているから」の割合が高く、約9割となっています。また、30歳代で「家庭・地域・職場における性別役割分担があるから」「家族の支援・協力が得られないから」の割合が高くなっています。

<政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由（1・2・3・4次プラン）>



＜政策・方針決定の過程に女性が進出していない理由（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数 (件)	家庭・地域・職場における 性別役割分担があるから	男性優位の組織運営に なっているから	家族の支援・協力が 得られないから	女性の能力発揮の機会が 不十分だから	女性の活動を支援する ネットワークが不足して いるから	女性側の積極性が 十分でないから	その他	無回答
性別	男性	326	36.8	71.8	24.8	36.5	25.2	27.0	4.9	2.8
	女性	499	44.3	71.1	33.5	29.9	21.2	26.9	4.2	2.6
	その他	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	45	53.3	88.9	13.3	37.8	35.6	24.4	2.2	—
	20 歳代	153	41.8	74.5	24.2	32.0	23.5	22.9	5.2	2.0
	30 歳代	132	53.8	68.9	37.9	24.2	22.0	19.7	7.6	0.8
	40 歳代	136	40.4	69.1	30.9	22.1	15.4	19.9	4.4	2.2
	50 歳代	155	35.5	69.7	32.3	34.8	15.5	33.5	3.9	3.9
	60 歳代	122	37.7	72.1	35.2	39.3	29.5	31.1	4.1	2.5
	70 歳以上	83	31.3	66.3	24.1	45.8	31.3	39.8	1.2	7.2

（２）防災や災害復興について女性の視点を特に取り入れて取り組むべきこと

問２６ あなたは、今後防災や災害復興において行政や地域が、女性の視点を特に取り入れて取り組んだ方がよいと考えるのはどのようなことですか。
（〇はいくつでも）

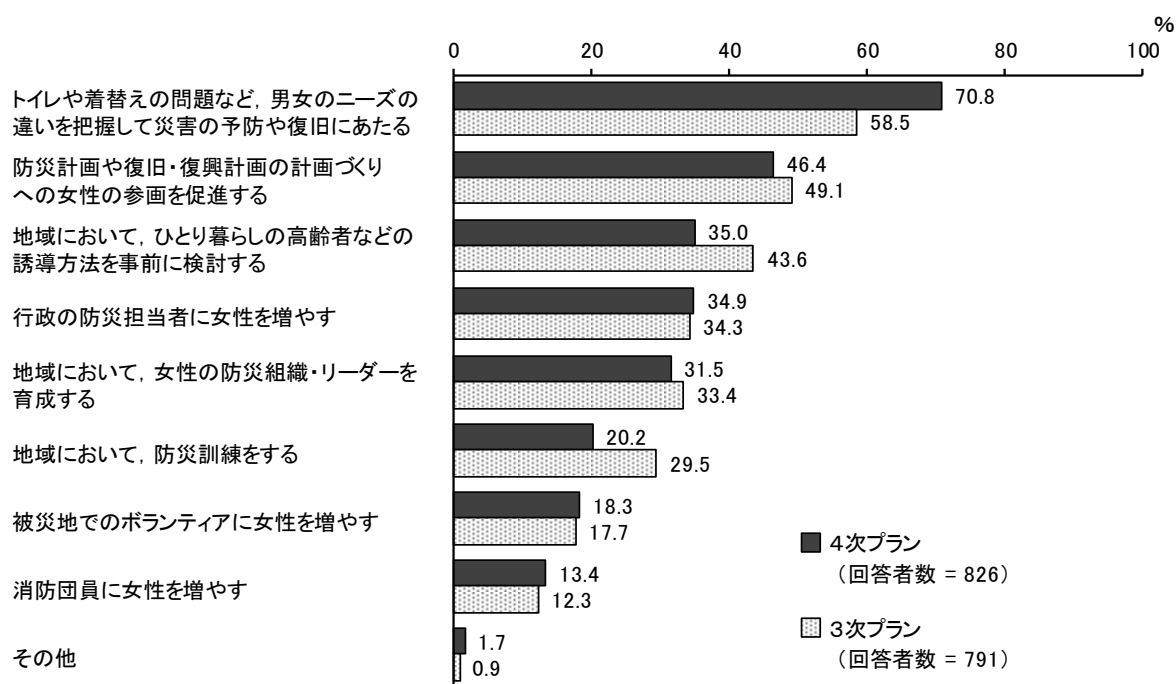
防災や災害復興について女性の視点を特に取り入れて取り組むべきことについては、「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」の割合が70.8%と最も高く、他の項目よりも大幅に高い割合となっています。次いで「防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する」の割合が46.4%、「地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する」の割合が35.0%、「行政の防災担当者に女性を増やす」の割合が34.9%となっています。

3次プランと比較すると、「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」の割合が増加し、「地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する」「地域において、防災訓練をする」の割合が減少しています。

性別でみると、男性で「防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する」「行政の防災担当者に女性を増やす」の割合が高くなっています。一方、女性で「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」「地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、すべての年代で「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」の割合が高く、特に50歳代で7割半ばとなっています。また、60歳代以上で「地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する」の割合が高く、4割半ばから約5割となっています。

＜防災や災害復興について女性の視点を特に取り入れて取り組むべきこと（３・４次プラン）＞



＜防災や災害復興について女性の視点を特に取り入れて取り組むべきこと（性別，年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数（件）	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する	行政の防災担当者に女性を増やす	消防団員に女性を増やす	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる	被災地でのボランティアに女性を増やす	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する	地域において、防災訓練をする	その他	無回答
性別	男性	326	53.1	38.7	16.3	66.0	18.1	33.4	28.2	21.8	2.8	3.1
	女性	499	42.1	32.3	11.6	73.9	18.4	30.3	39.5	19.2	1.0	2.8
	その他	1	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—
年齢別	10 歳代	45	51.1	35.6	17.8	77.8	26.7	35.6	33.3	31.1	2.2	—
	20 歳代	153	34.0	24.2	9.2	69.3	16.3	27.5	28.1	22.2	3.3	2.6
	30 歳代	132	39.4	34.8	12.1	68.9	16.7	31.1	28.0	12.9	0.8	2.3
	40 歳代	136	40.4	35.3	14.7	71.3	14.0	25.7	27.9	14.0	0.7	3.7
	50 歳代	155	51.0	35.5	16.1	75.5	16.8	29.0	38.7	18.7	2.6	0.6
	60 歳代	122	60.7	51.6	17.2	70.5	21.3	39.3	45.1	26.2	1.6	2.5
	70 歳以上	83	57.8	27.7	8.4	63.9	25.3	39.8	49.4	26.5	—	9.6

上位5位の項目は、4次プランは、3次プランと同一となっています。

1位の「トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる」は2次プラン以降増加傾向がみられ、3次プランから4次プランで12.3ポイント増加しています。

◆防災や災害復興面で、行政や地域において取り組むべきこと

(1・2・3・4次プラン、上位5位までの回答)

順位	1次プラン	2次プラン	3次プラン	4次プラン
1	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(48.6%)	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(50.0%)	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(58.5%)	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(70.8%)
2	トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる(47.1%)	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(46.5%)	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(49.1%)	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(46.4%)
3	防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する(43.2%)	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(46.4%)	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(43.6%)	地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する(35.0%)
4	地域において、防災訓練をする(33.6%)	地域において、防災訓練をする(35.9%)	行政の防災担当者に女性を増やす(34.3%)	行政の防災担当者に女性を増やす(34.9%)
5	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する(27.2%)	行政の防災担当者に女性を増やす(30.6%)	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する(33.4%)	地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する(31.5%)

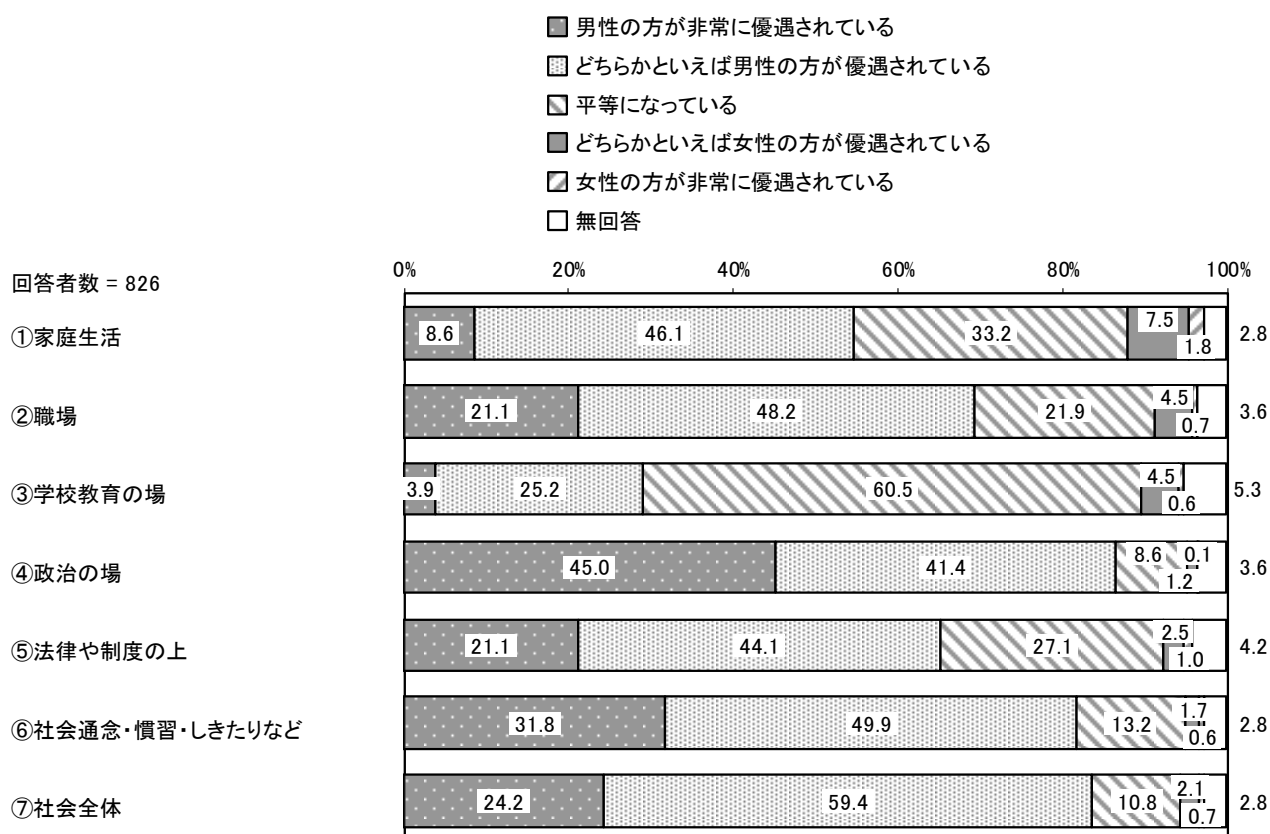
(3) 分野ごとの男女平等度

問27 あなたは、次の①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ教えてください。
(○は①～⑦それぞれ1つだけ)

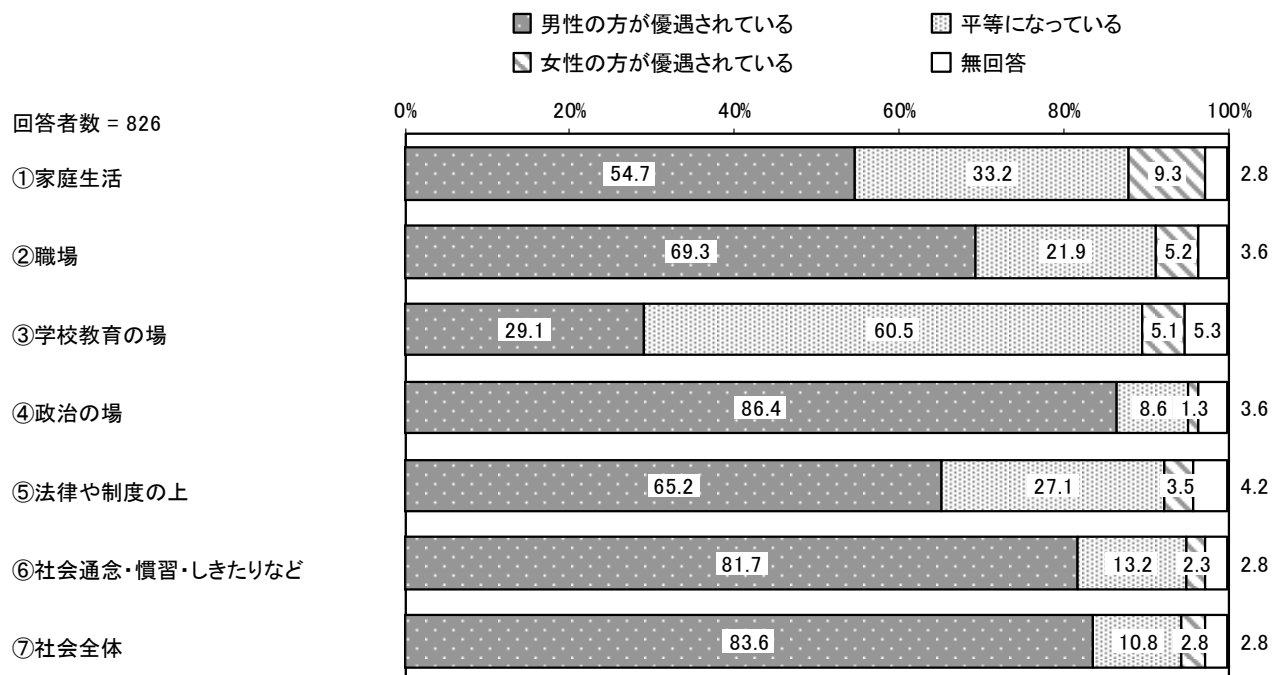
分野ごとの男女平等度については、すべての項目で「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」をあわせた“女性の方が優遇されている”の割合よりも、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が高く、特に『④政治の場』『⑥社会通念・慣習・しきたりなど』『⑦社会全体』では8割を超えています。

また、『③学校教育の場』で「平等になっている」の割合が高く、約6割となっています。

<分野ごとの男女平等度>



“男性の方が優遇されている”と“女性の方が優遇されている”で区分したグラフ



①家庭生活

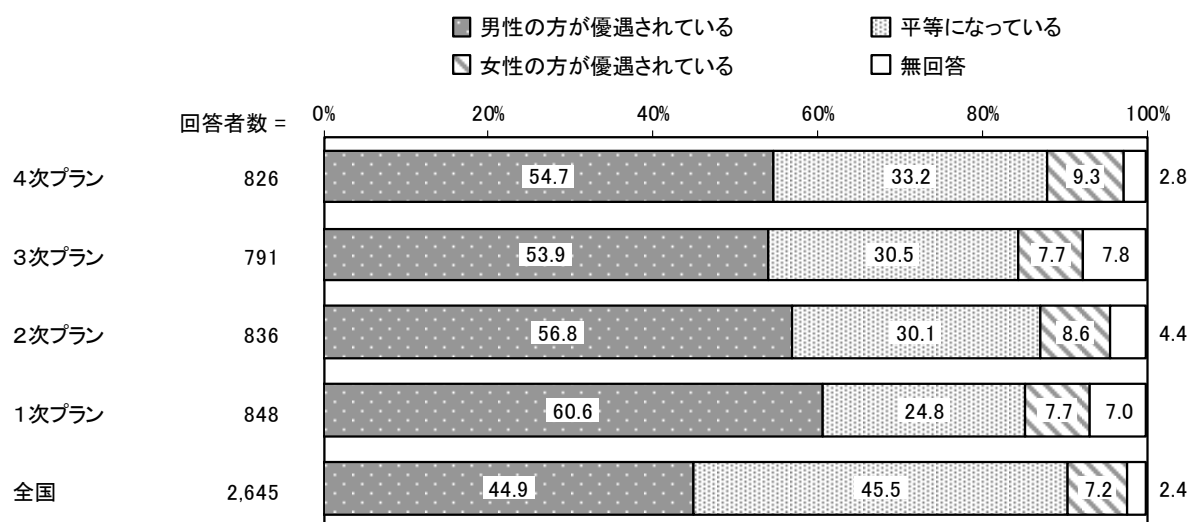
3次プラン以前と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が少しずつ減少しており、「平等である」の割合が増加する傾向がみられます。

全国と比較すると，“男性の方が優遇されている”の割合高く，“平等”の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が約6割と高く、男性よりも13.2ポイント高くなっています。一方、男性では「平等になっている」の割合が高く、約4割となっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、特に10歳代、60歳代、70歳以上で約6割となっています。

<①家庭生活（1・2・3・4次プラン）>



<①家庭生活（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回 答
性 別	男性	326	46.7	39.3	11.1	3.1
	女性	499	59.9	29.3	8.2	2.6
	その他	1	100.0	—	0.0	—
年 齢 別	10歳代	45	57.7	31.1	11.1	—
	20歳代	153	46.4	35.3	17.0	1.3
	30歳代	132	53.8	32.6	10.6	3.0
	40歳代	136	56.6	33.1	8.9	1.5
	50歳代	155	54.8	34.2	6.5	4.5
	60歳代	122	60.7	32.0	5.7	1.6
	70歳以上	83	57.8	31.3	3.6	7.2

②職場

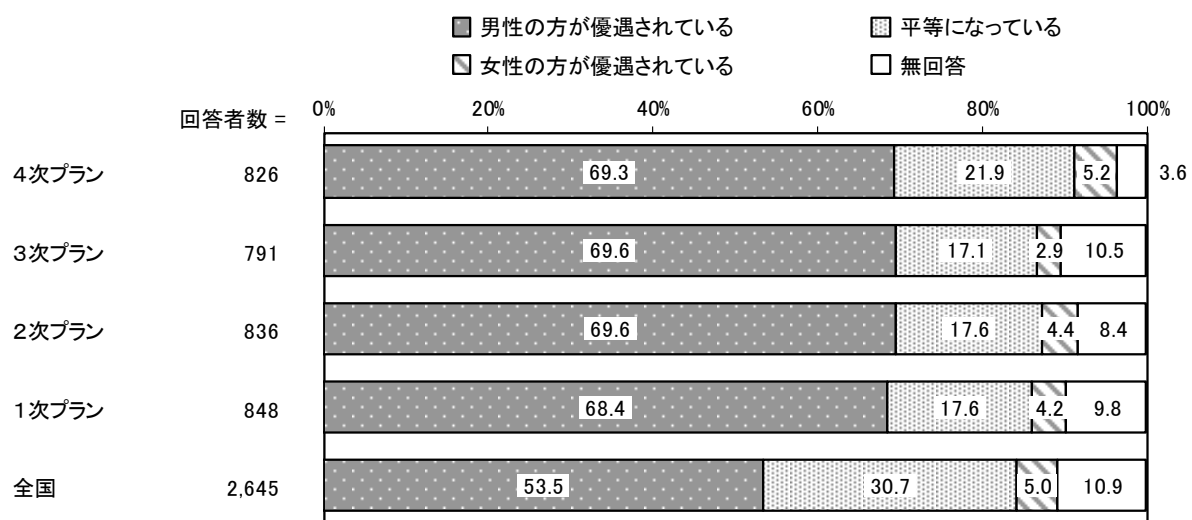
3次プラン以前と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合に大きな変化はみられません。また、3次プランから4次プランで「平等になっている」の割合が増加しています。

全国と比較すると、全国に比べ「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等である」の割合が低くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられず、男女とも「男性の方が優遇されている」の割合が約7割となっています。

年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、8割半ばとなっています。一方、50歳代で「平等になっている」の割合が高く、約3割となっています。

<②職場（1・2・3・4次プラン）>



<②職場（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回 答
性別	男性	326	67.5	22.7	5.8	4.0
	女性	499	70.5	21.4	4.6	3.4
	その他	1	0.0	—	100.0	—
年齢別	10歳代	45	84.4	13.3	2.2	—
	20歳代	153	65.4	24.8	7.8	2.0
	30歳代	132	69.7	19.7	7.6	3.0
	40歳代	136	68.4	23.5	5.1	2.9
	50歳代	155	63.3	30.3	3.2	3.2
	60歳代	122	75.4	16.4	4.1	4.1
	70歳以上	83	71.1	14.5	3.6	10.8

③学校教育の場

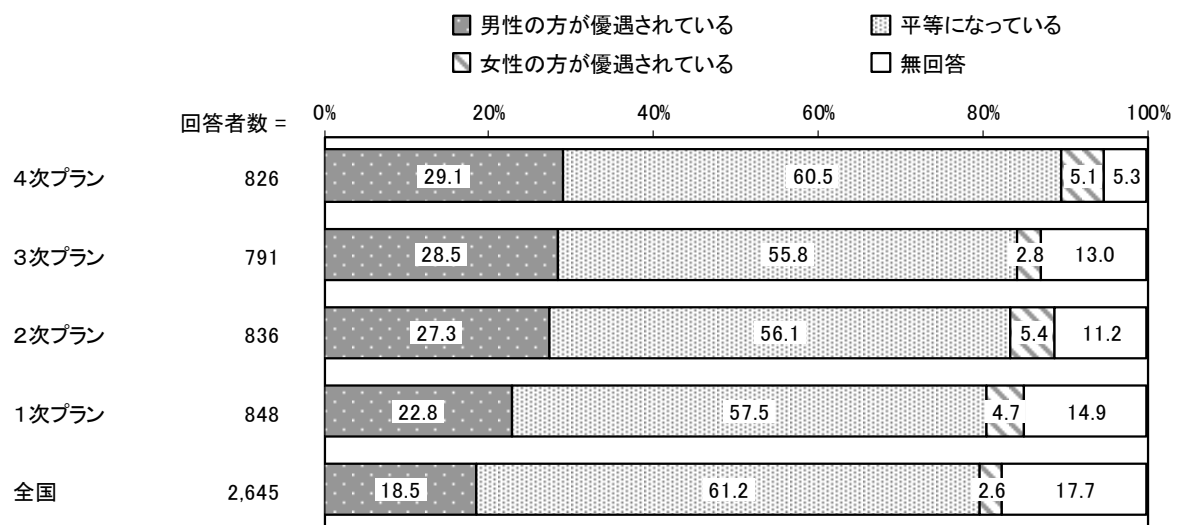
3次プラン以前と比較すると、1次プランから「男性の方が優遇されている」の割合が増加する傾向がみられます。

全国調査と比較すると、全国に比べ、「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

性別でみると、大きな差異はみられず、男女とも「平等になっている」の割合が約6割となっています。

年齢別でみると、すべての年代で「平等になっている」の割合が最も高く、特に50歳代で6割半ばとなっています。

<③学校教育の場（1・2・3・4次プラン）>



<③学校教育の場（性別,, 年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇さ れている	平等になっ ている	女性の方が 優遇さ れている	無回 答
性別	男性	326	27.0	61.3	6.7	4.9
	女性	499	30.5	59.9	4.0	5.6
	その他	1	0.0	100.0	0.0	—
年齢別	10歳代	45	33.4	62.2	4.4	—
	20歳代	153	26.8	60.8	9.1	3.3
	30歳代	132	28.7	62.1	6.9	2.3
	40歳代	136	30.9	59.6	2.9	6.6
	50歳代	155	27.8	65.2	4.5	2.6
	60歳代	122	32.8	55.7	2.5	9.0
	70歳以上	83	25.3	56.6	3.6	14.5

④政治の場

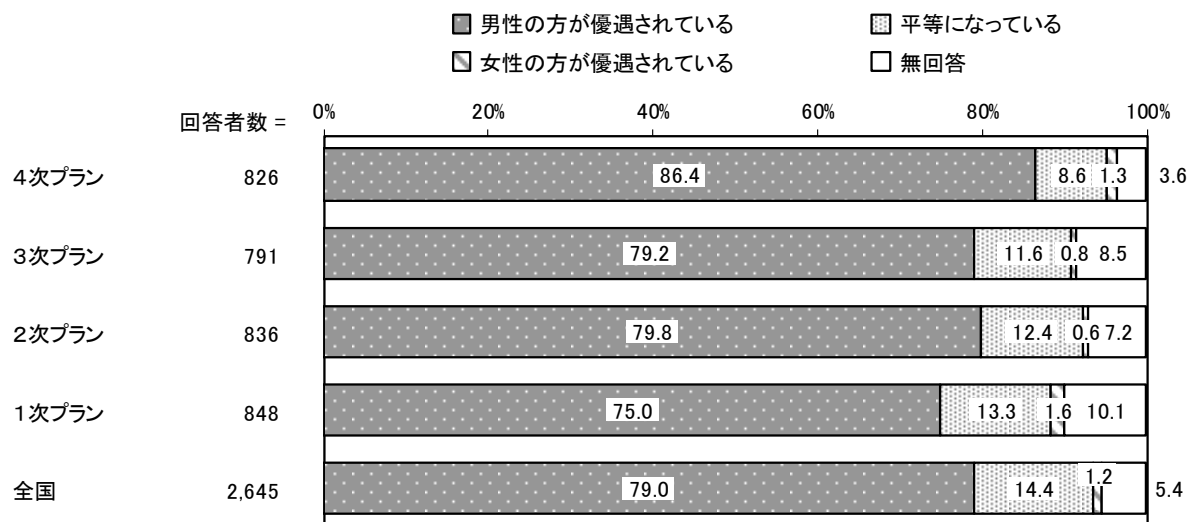
3次プラン以前と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加する傾向がみられます。

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等になっている」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、約9割となっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」の割合が最も高く、10歳代、30歳代で9割を超えています。

<④政治の場（1・2・3・4次プラン）>



<④政治の場（性別、年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回 答
性別	男性	326	83.5	11.0	2.1	3.4
	女性	499	88.4	7.0	0.8	3.8
	その他	1	100.0	—	0.0	—
年齢別	10歳代	45	93.3	6.7	0.0	—
	20歳代	153	85.0	10.5	2.0	2.6
	30歳代	132	90.9	6.1	0.8	2.3
	40歳代	136	88.3	8.1	0.7	2.9
	50歳代	155	84.5	11.0	1.3	3.2
	60歳代	122	86.9	8.2	0.8	4.1
	70歳以上	83	78.3	7.2	3.6	10.8

⑤法律や制度の上

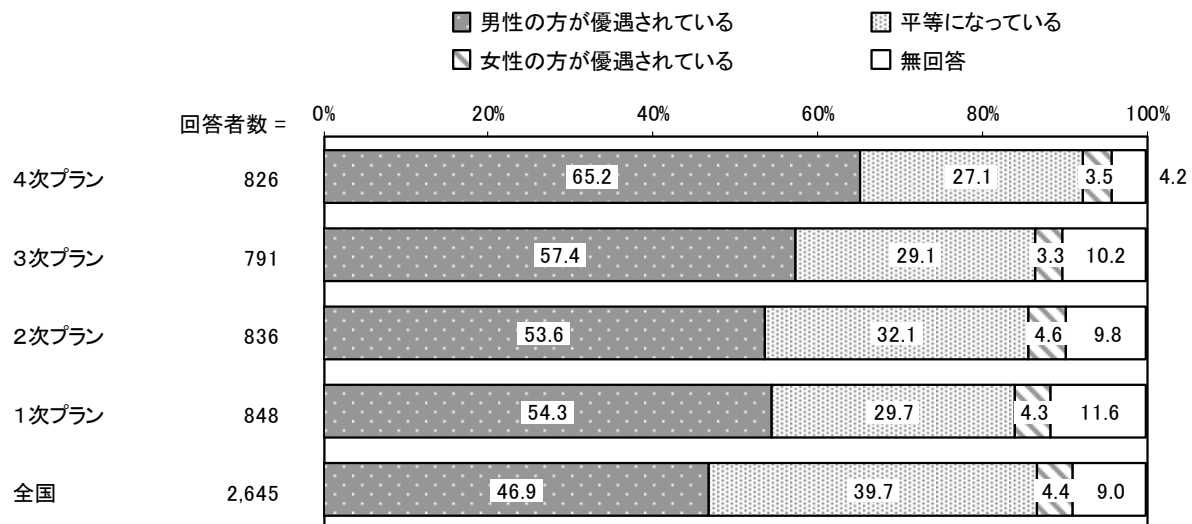
3次プラン以前と比較すると、「男性の方が非常に優遇されている」の割合が増加する傾向がみられ、1次プランから4次プランで10ポイント以上増加しています。

全国調査と比較すると、「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等になっている」の割合が低くなっています。

性別でみると、女性で「男性の方が優遇されている」の割合が約7割と、男性より14.2ポイント高くなっています。また、男性で「平等になっている」の割合が高く、3割半ばとなっています。

年齢別でみると、60歳代で「平等になっている」の割合が低く、約2割となっています。

<⑤法律や制度の上（1・2・3・4次プラン）>



<⑤法律や制度の上（性別, , 年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回答
性別	男性	326	56.5	34.4	5.8	3.4
	女性	499	70.7	22.4	2.0	4.8
	その他	1	100.0	—	0.0	—
年齢別	10歳代	45	68.9	31.1	0.0	—
	20歳代	153	57.5	32.7	7.8	2.0
	30歳代	132	69.0	25.0	3.0	3.0
	40歳代	136	67.7	23.5	5.1	3.7
	50歳代	155	67.7	27.7	0.6	3.9
	60歳代	122	72.9	19.7	2.5	4.9
	70歳以上	83	50.6	33.7	2.4	13.3

⑥社会通念・慣習・しきたりなど

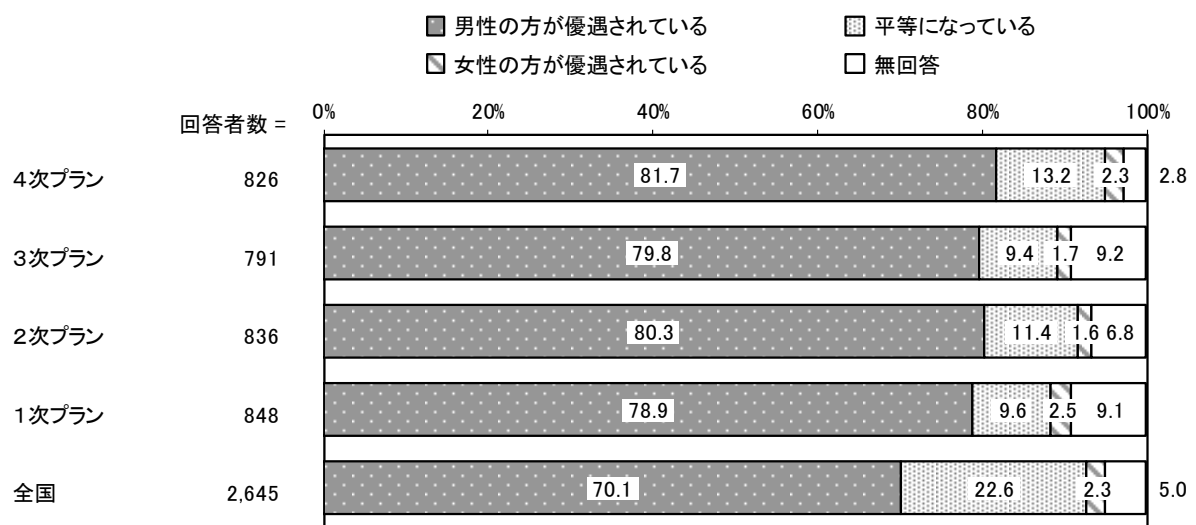
3次プラン以前と比較すると、大きな変化はみられません。

全国調査と比較すると、全国に比べ、「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等になっている」「女性の方が優遇されている」の割合が低くなっています。

性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」の割合が高く、特に女性は8割半ばと男性より高くなっています。また、男性で「平等になっている」の割合が高く、約2割となっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」の割合が最も高く、特に10歳代で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、約9割となっています。

<⑥社会通念・慣習・しきたりなど（1・2・3・4次プラン）>



<⑥社会通念・慣習・しきたりなど（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回答
性別	男性	326	76.7	17.2	3.4	2.8
	女性	499	85.0	10.6	1.6	2.8
	その他	1	100.0	—	0.0	—
年齢別	10歳代	45	88.9	11.1	0.0	—
	20歳代	153	71.2	20.9	5.3	2.6
	30歳代	132	80.3	15.9	2.3	1.5
	40歳代	136	84.5	9.6	2.2	3.7
	50歳代	155	85.8	9.7	1.9	2.6
	60歳代	122	82.8	13.1	0.8	3.3
	70歳以上	83	85.6	8.4	1.2	4.8

⑦社会全体

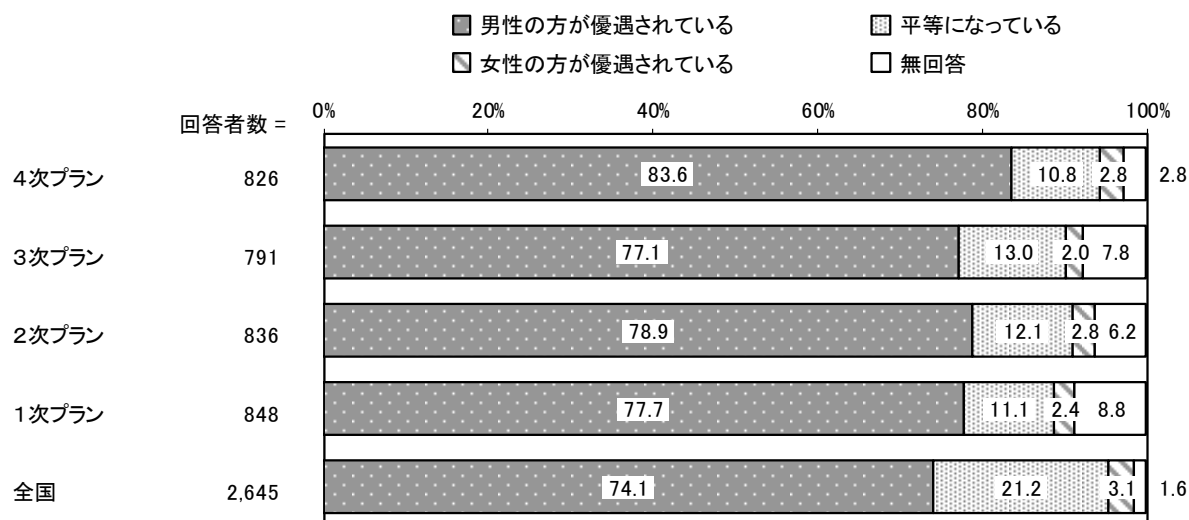
3次プラン以前と比較すると、1次プランから3次プランでは大きな変化はみられないものの、4次プランでは「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっています。

全国調査と比較すると、全国に比べ、「男性の方が優遇されている」の割合が高く、「平等になっている」の割合が低くなっています。

性別でみると、男女とも「男性の方が優遇されている」の割合が高く、特に女性は約9割となっています。

年齢別でみると、すべての年代で「男性の方が優遇されている」の割合が高く、特に60歳代で約9割となっています。

<⑦社会全体（1・2・3・4次プラン）>



<⑦社会全体（性別，年齢別）>

単位：％

区分		回答者数 (件)	男性の方が 優遇 されている	平等に なっている	女性の方が 優遇 されている	無 回 答
性別	男性	326	77.6	14.7	4.6	3.1
	女性	499	87.8	8.0	1.6	2.6
	その他	1	0.0	100.0	0.0	—
年齢別	10歳代	45	84.5	15.6	0.0	—
	20歳代	153	78.4	11.8	7.2	2.6
	30歳代	132	84.1	10.6	3.0	2.3
	40歳代	136	83.1	11.8	2.2	2.9
	50歳代	155	84.5	10.3	2.5	2.6
	60歳代	122	89.3	7.4	0.0	3.3
	70歳以上	83	83.1	10.8	1.2	4.8

(4) 男女共同参画社会実現に向け力を入れていくべきこと

問28 男女共同参画社会の実現を目指し、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

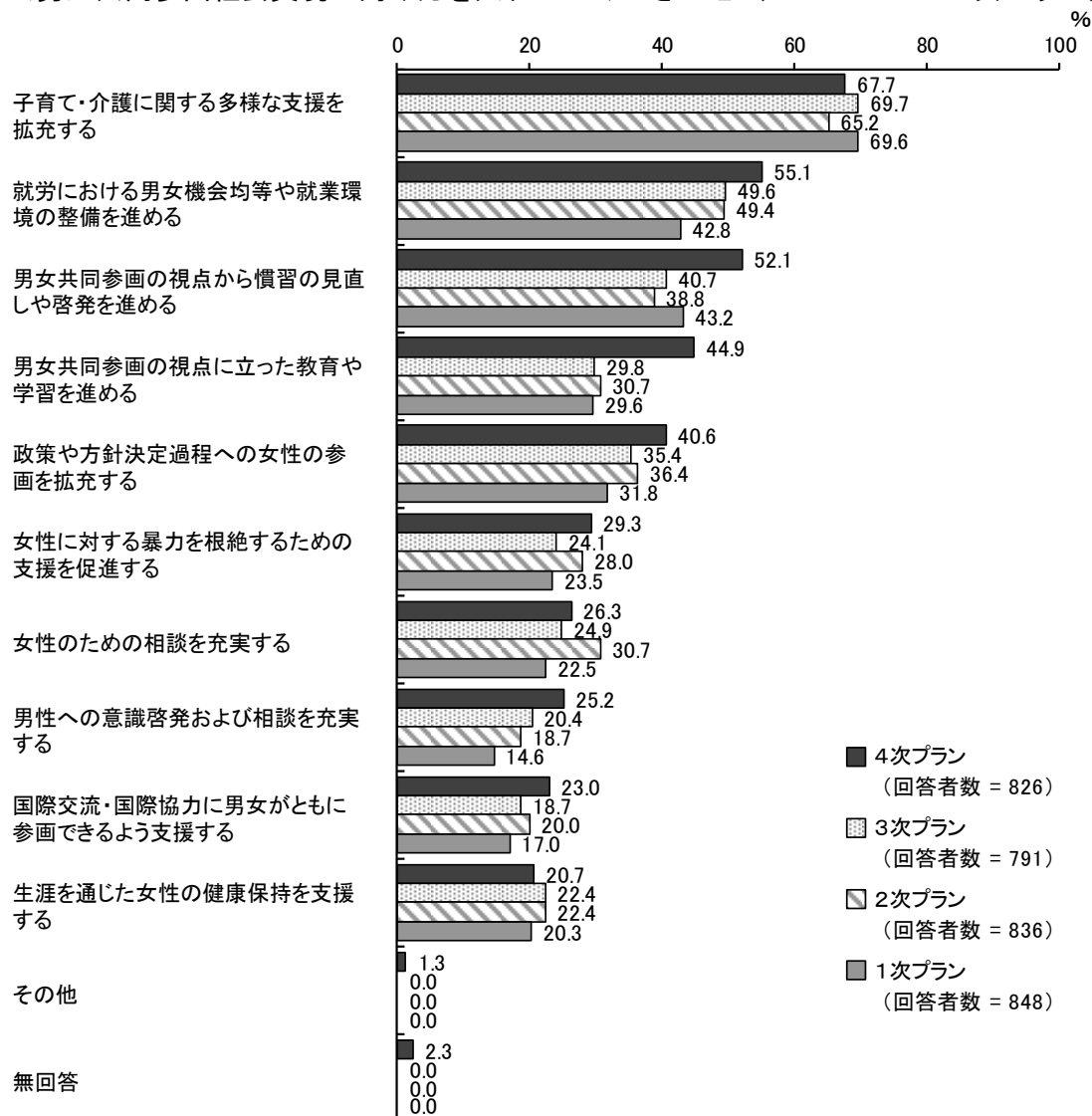
男女共同参画社会実現に向け力を入れていくべきことについては、「子育て・介護に関する多様な支援を拡充する」の割合が67.7%と最も高く、次いで「就労における男女機会均等や就業環境の整備を進める」の割合が55.1%、「男女共同参画の視点から慣習の見直しや啓発を進める」の割合が52.1%となっています。

3次プラン以前と比較すると、「男女共同参画の視点から慣習の見直しや啓発を進める」「政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する」「就労における男女機会均等や就業環境の整備を進める」「男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める」「男性への意識啓発および相談を充実する」の割合が増加しています。

性別でみると、他に比べ、男性で「政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する」「国際交流・国際協力に男女がともに参画できるよう支援する」の割合が、女性で「子育て・介護に関する多様な支援を拡充する」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他に比べ、10歳代で「女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する」「国際交流・国際協力に男女がともに参画できるよう支援する」の割合が高くなっています。

＜男女共同参画社会実現に向け力を入れていくべきこと（1・2・3・4次プラン）＞



＜男女共同参画社会実現に向け力を入れていくべきこと（性別、年齢別）＞

単位：％

区分		回答者数 (件)	男女共同参画の視点から慣習 の見直しや啓発を進める	政策や方針決定過程への女性 の参画を拡充する	就業環境の整備を進める	就労における男女機会均等や 就業環境の整備を進める	子育て・介護に関する多様な支 援を拡充する	男女共同参画の視点に立った 教育や学習を進める	女性に対する暴力を根絶する ための支援を促進する	女性のための相談を充実する	男性への意識啓発および相談 を充実する	生涯を通じた女性の健康保持 を支援する	国際交流・国際協力に男女がと もに参画できるよう支援する	その他	無回 答
性 別	男性	326	54.9	46.6	55.8	64.4	45.1	27.9	28.5	26.4	19.3	28.5	2.8	2.8	
	女性	499	50.1	36.7	54.7	69.7	44.9	30.1	24.8	24.4	21.6	19.4	0.4	2.0	
	その他	1	100.0	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—	
年 齢 別	10 歳代	45	68.9	46.7	64.4	66.7	55.6	46.7	37.8	33.3	26.7	35.6	—	—	
	20 歳代	153	49.7	35.9	58.2	71.9	45.8	35.3	32.7	26.8	25.5	21.6	0.7	2.6	
	30 歳代	132	50.8	28.0	49.2	70.5	40.9	22.0	19.7	23.5	21.2	17.4	0.8	2.3	
	40 歳代	136	41.9	36.0	47.1	62.5	35.3	22.1	19.9	19.9	15.4	18.4	2.2	1.5	
	50 歳代	155	50.3	45.8	58.1	64.5	40.0	32.3	25.8	23.2	18.1	23.2	3.2	2.6	
	60 歳代	122	56.6	49.2	54.1	76.2	52.5	34.4	35.2	33.6	23.8	28.7	0.8	1.6	
	70 歳以上	83	62.7	50.6	62.7	57.8	57.8	19.3	16.9	20.5	16.9	26.5	—	4.8	

Ⅲ 自由意見

自由意見を以下の項目に分類しました。いくつかの項目の意見を含んでいる場合がありますが、代表的な項目に分類しました。原文を尊重しましたが、一部用事用語の統一などをしました。

参考として、性別、年代を付しました。

【分類した項目】

- 男女平等，市民の意識など
- 就労や職業生活など
- 子育て支援・子育て環境など
- 男女の人権など
- 高齢化社会など
- 要援護者支援，災害時対応など
- 教育・普及啓発など
- まちづくりなど
- 計画の推進・管理，広報など
- アンケートについて
- その他

自由意見	性別	年代
【男女平等，市民の意識など】		
今の社会では男性が非常に優遇されていると思う。 この社会を変えなければ，同じ事だ。	男性	60 歳代
男性は女性を，女性は男性をお互いに「尊重し合う」ことが大切だと思う。	男性	70 歳 以上
職場，家庭共に女性の負担が多く，目の前の事柄だけで，対応が一杯になってしまい，共同参画にまで行かないと思っています。実現のためには，負担を少なくできる環境，意識がどうすれば改善されるか等，思いつかないのが現状です。	女性	60 歳代
結婚の“姓”の旧姓，配偶者姓の選択を男女区別なくできるようにするべき。別性と決めるのではなく選択できることが大事。	女性	30 歳代
最近，男性の地位が下がっている気がする。女性が優遇されている。	男性	20 歳代
雇用機会，待遇の均等化，産休育休の拡大（中小企業，非正規社員等） 政治への参画の均等化，家事の分担の均等化	男性	70 歳 以上
まずは男 6 女 4 などではなく，男 5 女 5 など人数から平等にしていくことから始まると思います。市役所を男性優位の場所にしないことから。	女性	20 歳代
女性は損しているところには声をあげるが得をしているところはなにも言わない。女性みずからが得していることも差別だと思わないと平等にはならない。	男性	50 歳代
互いの不安に思うところをあげあって，しっかり話し合いする事が大切だと思います。年齢とわず，思考・文化・しきたりのおしつけ等の考えを互いに受け入れまたは理解も必要だと思います。	女性	20 歳代
40 代以上の男性は特に男尊女卑の考えを持つ人が多いように感じる。仕事を女性がするにしても，基本的な生活は女性に負担がかかりすぎる。今の教育は，平等になっているが，40 代以上の考え方を考えるにはどうすればいいのでしょうか。結局，子どもや孫にも影響してしまう。	女性	40 歳代
男性，女性が持つ良いところをお互いが尊重し合い助け合える社会を実現できるのは，日本人のすばらしいところだと思う。女性も権利ばかり主張するようになれば，おかしい方向へ行ってしまう気がする。例えば，災害時に家庭生活で培った細やかな気配りができるのは，女性の方が優れているかもしれない。いろんな場面で活躍できる機会を増やせるよう整備する必要がある。昔からご苦労されて社会に貢献されてきたご年配の方々の知恵袋も大切になってくる気もする。	女性	50 歳代
高齢者の方が女性を軽視しているように見える。特に政治家	男性	20 歳代
きちんと平等な世界にしてください	男性	20 歳代

自由意見	性別	年代
男性の家事参加が少ない、女性が家事の時間を持つことを当たり前としているところがおかしい、今まで参加（家事の）するような心を持つ時間を作らなかった妻にも問題はあがあるが仕事、子育て、家事で妻の時間は終わっている。子どもには家事参加するように育てている。	女性	50 歳代
家庭で父親が家事をせずにそれを見て育った子どもが同じことを繰り返す。仕事が忙しくて疲れているだろうが結婚したのであれば夫婦 2 人でお互い助け合いながら生活していく習慣をつけないと男女共同参画社会なんてありえないと思う。理想を語られても何も心に響いてこないです。	女性	40 歳代
【就労や職業生活など】		
まずは行政が女性を多く（半数）雇用すべき。管理職や役員も半数以上女性を登用し、わかりやすい改革をすること。	男性	60 歳代
女性でも、バリバリ仕事をしたい人、そうでない人、いろいろいらっしゃると思いますが、バリバリ仕事をしたい方へ賃金等のアップが図れるような会社が増えれば。	男性	40 歳代
「夫が外で働き、妻は家庭を守る」という伝統は日本に限ったものではなかった。しかし現代、諸外国における女性の活躍は目覚ましい。お手本に出来る国がこれほどあるのだから、まずは真似てみてはどうか？とりあえず、政治家をハーフ&ハーフで女性を半数にして欲しい。	女性	50 歳代
いろいろなところで、働き方改革が行われて、労働時間の短縮や休暇を取りやすくなっているところが増えてきたように思います。しかし、仕事の量や内容は変わっていないので、休め、早く帰れと言われても仕事は山積み。根本的なところを改革しないと何も変わらないと思います。ここが変われば、男性も家庭に入りやすく、女性も社会に出られます。余裕を持てるような日々が理想です。そうすれば、今、回答してきたような問題は解決できるのではないのでしょうか。	女性	30 歳代
男女平等とすることも大切だと思いますが、それぞれ適性などがあると思うので個々の適性や家庭の事情などを考慮した上で働きやすい環境を整えられるようにしてほしい	女性	30 歳代
女性は結婚、出産があると仕事の第一線から退くようになります。育児を終え、再び仕事に就くのはとてもハードルが高いです。特に看護師は注射等の手技、医学の進歩、機械の進歩などについていくことがとてしんどくなる、再就職のリハビリ期間があるとか育児休業中の収入の保障など不十分なところを感じたのでそのような事柄が改善されると、もっと女性は安心して結婚や出産ができると思います。	女性	50 歳代

自由意見	性別	年代
【子育て支援・子育て環境など】		
以前朝の情報番組で宮崎県は職場に子どもを預けられるスペースが備わっている場合が多い、子どもの誕生日や授業参観日などの休暇がある、夫婦で家事分担をしている割合が多いなど、住みやすいと感じる県で取り上げられたニュースを見ました。三原市も住み続けたいと思う街になってほしいです。	女性	20 歳代
まだ、社会の仕組み上、女性が家事・育児・介護等の理由で、希望通りに就労できていない現実があると思います。男性も仕組みを整えば家事・育児・介護等担う気持ちはあると思いますので、社会通念・仕組みが整うことを期待します。	女性	30 歳代
働く女性が増えて、専業主婦は肩身が狭い。なまけていると思われる。仕事を始めると子どもの病気の時や長期休みの預け先に困る。	女性	30 歳代
【要援護者支援、災害時対応など】		
女性が差別されているかの質問・回答の誘導が多く嫌な気分になった。家庭、職場、学校などその場その場で違うはずなのに変にこだわりすぎていると思う。三原市の地域には子どもが少なくお年寄りばかりのところが増えていると思います。防災訓練をするならお年寄りにできる防災の方法を考えるべきだと思う。三原市の LINE はあまり情報なく残念だと思う。尾道市が防災アプリをつくっているのですが三原市もつくれませんか。	女性	40 歳代
【教育・普及啓発など】		
現実をしっかりと見つめて、行政がゆっくり、少しずつでいいので、学校（小学校）から始める。	男性	70 歳以上
子ども達の学校教育の現場から変えていかないと、今の大人に期待することは難しいと思う。これからの子ども達が大人になって家庭を持った時に、これからやろうとしている事の方が見えてくると思います。	女性	40 歳代
そもそも子どもの頃の環境が大人になっても影響していると思う。（小学校の出席番号が男女別だったり）男性の得意な所、女性の得意な所、ひいては個人個人の得意とする所に目を向け、その力を発揮できる社会であり、不得意な部分を補い合える社会が素敵です。	女性	30 歳代
古い習慣を正す事は難しいと思います。	女性	50 歳代
共同参画のための教育が必要と思う。マスメディアは一方方向の決めつけが多すぎる。視聴者は、見聞きだけになっている感じがします。平等であってほしい。	男性	70 歳以上

自由意見	性別	年代
学校教育において、男女の相互理解や性的少数者の理解を子どもたちに促すことがとても重要だと思う。例えば、長期の休みに家のお手伝いの宿題を出して男児が家事に関わる、職場体験で女児が男性の多い職場に行ってみるなど。性的少数者の方を学校に招いて講演会を開くことも良いと思います。	女性	20 歳代
男女平等であることは理想ですが体力といった性差の部分に目をつぶっておしすすめていくのは間違っていると思います。女性の少ない分野だからといって急に女性を指名したところで無意味なポスト職が増えるだけです。本当に女性の社会進出を進めていくのであれば意識改革に本腰を入れて子どもの頃からの教育に力を注ぐべきだと思います。	女性	30 歳代
互いを認め合い理解できるよう、意識の啓発や対話できる場をつくっていくことが大切であると思う。しかし難しい問題であると思う。	女性	60 歳代
【まちづくりなど】		
このようなアンケートを取るという事は三原市が男女不平等であると統計が出ているからですか？もしそのような統計があるならば提示してください。そして何故三原市かそのような状況になっているのか、そこから見直さなければならぬのではないのでしょうか？また高齢者の多い市です。性的マイノリティに関して理解を得るのは現実的に難しいでしょう。理解の少ない市にその方達が果たして助けを求めるのでしょうか？私ならしたくありませんし、他の市へ出ていきます。三原市は決して住み易いまちとは思えません。	女性	30 歳代
私らしく暮らせる三原へと願うばかりです。	女性	50 歳代
市を変えるうえで、名前だけの議員ではなく、もっと行動力のある若い人やここで性別に（男女とも）関係なしで三原市を変えていってほしい。やる気ある人が増え、本当に三原市が変わることを願います。	女性	40 歳代
【計画の推進・管理、広報など】		
きれい事ではなく、地に足のついた着実な取り組みが必要と思われる。	男性	70 歳以上
旧習など、科学的根拠に基づかない男女差別は当然見直されるべきですが、体つきの違いなど、性差の乗り越えられない壁を無視した「男女平等」はどうかと感じています。メリハリのある男女共同参画社会が構築されていくことを希望しています。	男性	40 歳代
男性だけでの問題解決能力・時間と女性だけでの問題解決能力・時間、男女合わせた問題解決時間を検証してから、しっかり取り組んでほしい。問題解決課題は同じ課題で時間がどのくらいかかったかも検証してほしい。それにおいて男女共同参画社会の実現にむけて取り組んでほしい。	女性	40 歳代

自由意見	性別	年代
男女共同参画社会の実現はこれほど難しい事はないと思います。これからの若い人達は一人一人が自分の行動や考えを強くもって立ち向かって行って欲しいと思います。	女性	70 歳以上
男女共同参画についてのみではなく、全体に言えることですが、資源などの情報を私たちは知らないことが多い。制度など、知り得る啓発（気軽に！！←重要です。何かに参加しないとわからないなどはむずかしいです。）をお願いしたいです。	女性	40 歳代
男女共同参画社会とは具体的にどのような社会なのかを明確にしないと実現化の方策が出せない。	男性	70 歳以上
男女の参加，理解，後押し	男性	60 歳代
当院の事務長は男尊女卑を高らかにうたっています。現在の 40 代後半から 60 代が現役では変わらないと思います。次の世代の意識を新しいものにする方がよろしいかと思います。女性も楽をするのに言い訳に使えるので変えようとしていない人が多いそうです。しかしながら行政の取り組みには期待しています。	女性	40 歳代
【アンケートについて】		
そもそも男女平等とは何かを考え直した方がいいのではないのでしょうか。失礼ですが、この質問項目を作ったのはどなたでしょうか。女性でしょうか、男性でしょうか。大変気になるところです。質問が男性目線のように感じます。本当に改善する気があるのでしょうか。	男性	20 歳代
記述が難しく理解するのに時間がかかる。誰もが、理解しやすく興味が持てるような内容がいいと思う。せっかくのアンケートがもったいない。無作為で行うアンケートであるのであれば、配慮した方がいいのでは？	女性	40 歳代
人権推進課の人達の資料になるだけで、なにかの活動に役立つものではないと思われま。余談ですが、このアンケートの片づけは、残業のネタになりそうですね。やっていくらでなく、居ていくらでしよ。市役所への市民の見方の意識改革の方が先じゃあないですか。三原に期待するものはありません。	男性	50 歳代
今回このようなアンケートを三原市が行われることに対して、大変期待感をもちます。ただし、行政がやってくれるという他力本願な気持ちでは、何年たっても社会は変わらないとも思います。社会を変えるのは、私たちだと思います。	女性	50 歳代
問 14（例）⑦子どもができて、女性は働き続け、男性が育児（休暇）をする←男女共の視点に立った質問、回答をするべき。このアンケートが調査で終わることなく、今後の生活に活かされることを願っています。三原市民になって数年ですが、これまでこのような調査すらなかったことは疑問に感じます。	男性	40 歳代
アンケート内容に回答にむずかしい所がある（自分にあまりかかわっていない場面には）。介護がある人は子育てから手が離れているし、子育て中の方は、まだ介護にたずさわってないと思う。	女性	50 歳代

自由意見	性別	年代
【その他】		
知識や見識が未熟者で申し訳ございません。	男性	20 歳代
いつも市のためにご苦労様です。 集計よろしくお願いします。	女性	20 歳代
どんな人も、どんな事でも、相談しやすい窓口があることを誰もが知っていたら良いなと願います。私も、市の窓口を利用し立ち直った経験があるので感謝しています。	女性	40 歳代
風俗や売春が国籍問わず行われている現実の社会で、体を売る女性に対する罰則など、根本的な経済支援の充実（ベーシックインカム）を確立していかなければならない。	男性	40 歳代
社会の慣習、しきたり等、根にある部分から変える事が必要では！	男性	60 歳代
まずは、この件に関する法律を制定することが大切だと思います。また、新型コロナウイルスの日本や三原市の対策は過剰だと思います。海外や他の市区町村のように、自粛を強く求められないようにすることや、マスクの着用を押し付けられないようにしてほしいです。	男性	20 歳代
みんなの心が豊かだと、何の問題も少なくなると思う。	男性	20 歳代
そもそも男女共同参画社会、この言葉自体があまり好きでないのです。現在 72 歳となり昔人間と言われても、男は外で一生懸命働き、帰ると妻が「お帰りなさい」と優しく言葉をかけ、温かい食事をさっと出す。家庭円満・夫婦愛和の最高の秘訣です。女性がどんどん社会進出を、その度、家庭がおろそかに。夫婦別姓反対、離婚大反対。そもそも、我慢するとか、美德とかの言葉は何処へ・・・離婚物語を堂々と民間ならあきらめも、NHK が当然のように映すドラマ、大変なげかわしく思っています。女性進出の陰に、失われる物も多いかと。勝手に離婚して、子どもが一番の被害者です。もっと子どもに愛を！	女性	70 歳以上
市役所の人数多すぎ給料減らせ大問題	男性	60 歳代
保障を手厚くしてほしい。	女性	20 歳代

IV 調査票

私らしく暮らせるみはらへ市民意識調査

市民のみなさまには日頃から、市政の推進に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、男女が互いに人権を尊重しつつ、性別にとらわれることなく、それぞれの個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいるところです。

そこで、市では「男女共同参画プラン（第4次）」の策定にあたり、市民のみなさまの男女共同参画社会に対するお考えやご意見などをお聞かせいただくため「市民意識調査」を実施します。

この調査は、令和3年5月31日現在、市内にお住まいの満18歳以上の方から、男女各1,000人を無作為に抽出させていただき、無記名で回答をお願いするものです。

なお、ご回答いただいた調査内容は、今後の男女共同参画施策を推進していくための資料として利用するもので、他の目的に利用されることはありません。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年6月

三原市長 岡田吉弘

ご回答にあたってのお願い

- 1 この調査は個人を対象としていますので、あなたご自身の判断で記入してください。
- 2 お答えは、設問ごとに、（1つに○）（○はいくつでも）など、それぞれ指定していますのでご注意ください。「その他」にあてはまる場合には、（ ）内に具体的な内容を記入してください。
- 3 インターネットもしくはこの調査票を、令和3年7月9日（金）までに回答してください。インターネットで回答された場合、この調査票は必要ありません。

インターネットでの回答方法

- ・スマートフォン、タブレット、パソコンで下記へアクセスするか、右記QRコードを読み取って回答してください。

<https://logoform.jp/f/SODyq>



郵便での回答方法

- ・回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

（問い合わせ先）三原市生活環境部人権推進課 Tel：0848-67-6044 向井・大森まで

あなたご自身のことについてお聞きします

※問1～問6は問7以降の設問と組み合わせて傾向などを分析する上で重要な項目となるため、回答をお願いするものです。

問1 あなたの性別（1つに○）（自認する性をお書きください。）

- ① 男性 ② 女性 ③ （ ）

※身体の性と心の性が一致しない方などに配慮した書き方にしています。

問2 あなたの年齢（1つに○） ※令和3年5月31日現在でお答えください。

- ① 10歳代 ② 20歳代 ③ 30歳代 ④ 40歳代
⑤ 50歳代 ⑥ 60歳代 ⑦ 70歳以上

問3 あなたのお住まいの地域（1つに○）

- ① 本郷町地域 ② 久井町地域 ③ 大和町地域 ④ その他地域

問4 あなたは結婚していますか。（1つに○）

- ① 結婚している（未入籍を含む） ② 結婚していた ③ 結婚していない

問5 あなたの家族構成はどれですか。（1つに○）

- ① ひとり暮らし ② 夫婦のみ
③ 2世代世帯（親と未婚の子ども） ④ 2世代世帯（親と子ども夫婦）
⑤ 3世代世帯（親と子どもと孫） ⑥ その他（ ）

＜問4で、「①結婚している」と回答した方にお聞きします。＞

問6 回答者本人とその配偶者（未入籍・パートナーなど）の就労形態についてお答えください。
（各1つに○）

問6-1 【 本人が 】

- ① 正規従業員
② パートタイム・アルバイト
③ 無職・就学中
④ 自営業
⑤ その他（ ）

問6-2 【 配偶者が 】

- ① 正規従業員
② パートタイム・アルバイト
③ 無職・就学中
④ 自営業
⑤ その他（ ）

家庭における男女共同参画についてお聞きします

問7 結婚，家庭，離婚に関する次のような意見についてどのように思いますか。

(○は①～③それぞれ1つだけ)

	賛 成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反 対	わから ない
① 結婚は個人の自由であるから，結婚しなくてもどちらでもよい	1	2	3	4	5
② 結婚しても必ずしも子どもを，もうける必要はない	1	2	3	4	5
③ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5

問8 あなたは，「夫は外で働き，妻は家庭を守るべきである」という考え方についてどのようにお考えですか。(1つに○)

① 賛成	② どちらかといえば賛成	③ どちらかといえば反対
④ 反対	⑤ その他 (	)

<問4で，「①結婚している」と回答した方のうち，お子さんのいらっしゃる方にお聞きします。>

問9 あなたのご家庭では，次のような子どもの世話は，主にどなたがしていますか。

(○は①～⑦それぞれ1つだけ)

	夫が中心	妻が中心	夫と妻が 同程度	祖父母が 中心	家族	その他
① 育児（乳児・幼児）	1	2	3	4	5	6
② 学校の成績（勉強）	1	2	3	4	5	6
③ 進学・進路の相談	1	2	3	4	5	6
④ 学校行事への出席	1	2	3	4	5	6
⑤ 生活態度のしつけ	1	2	3	4	5	6
⑥ 子どもとの遊び相手	1	2	3	4	5	6
⑦ 生き方の相談をうける（いじめの悩み等）	1	2	3	4	5	6

問10 次のことからについて、主に誰が担当するのが「理想」だと思いますか。

(○は①～⑤それぞれ1つだけ)

【理 想】	夫が中心	妻が中心	夫と妻が 同程度	祖父母が 中心	家族	その他
① 家事全般	1	2	3	4	5	6
② 家計のやりくり	1	2	3	4	5	6
③ 子どもの教育方針	1	2	3	4	5	6
④ 高齢者や病人の介護	1	2	3	4	5	6
⑤ 町内会・自治会の活動	1	2	3	4	5	6

＜問5で、「① ひとり暮らし」と回答した方以外にお聞きします。＞

問11 次のことからについて、現実にはどなたが分担していますか。

(○は①～⑤それぞれ1つだけ)

【現 実】	夫が中心	妻が中心	夫と妻が 同程度	祖父母が 中心	家族	その他
① 家事全般	1	2	3	4	5	6
② 家計のやりくり	1	2	3	4	5	6
③ 子どもの教育方針	1	2	3	4	5	6
④ 高齢者や病人の介護	1	2	3	4	5	6
⑤ 町内会・自治会の活動	1	2	3	4	5	6

問12 新型コロナウイルス感染症について、現在どのような不安がありますか。（3つに○）

- ① 自分や家族、知人などの感染
- ② 自分の精神状態が不安定
- ③ 収入の減少
- ④ 自分又は子どもの勉強の遅れ
- ⑤ 家族の不和や DV，児童虐待など
- ⑥ 家事や育児・介護などの増加
- ⑦ ストレスの増加
- ⑧ その他（

仕事についてお聞きします

問13 あなたの就労状況は次のどれですか。(1つに○)

- ① 最初の仕事を続けている
- ② これまでに働いたことがない
- ③ 仕事をやめたり、中断したり、転職したことがある

➡ 問13-1へ

<問13で「②」または「③」と回答した方にお聞きします。>

問13-1 それはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- ① 結婚のため
- ② 出産・育児(出産休暇・育児休暇を除く)のため
- ③ 親や病気の家族の世話をするため
- ④ 配偶者の転職・転勤のため
- ⑤ 家族の理解・協力が得にくいから
- ⑥ 自分の健康や体力的問題のため
- ⑦ 長期勤務しにくい職場の雰囲気のため
- ⑧ 労働条件に対して不満があったから
- ⑨ 仕事の内容が合わなかったから
- ⑩ 会社側の都合のため
- ⑪ 大学に行ったり、資格を取ったりするため
- ⑫ 家業につくため
- ⑬ 高齢になったから
- ⑭ よりよい条件の仕事があったから
- ⑮ その他()

問14 あなたは、一般的に女性が働くことについてどのようにお考えですか。(1つに○)

- ① 女性は働かない方がよい
- ② 結婚するまでは、働く方がよい
- ③ 子どもができるまでは、働く方がよい
- ④ 子どもができて、ずっと働き続ける方がよい
- ⑤ 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい
- ⑥ その他()

問15 あなたは、現在の社会は女性が働きやすい状況にあると思いますか。(1つに○)

- ① たいへん働きやすい状況にあると思う
- ② ある程度働きやすい状況にあると思う
- ③ あまり働きやすい状況にあるとは思わない
- ④ 働きやすい状況にあるとは思わない

問16 あなたは、女性が出産後離職せずに同じ職場で働き続けにくいのは、家庭、社会、職場において何が足りないからだと思いますか。（3つに○）

- ① 保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備
- ② 介護支援サービスの充実
- ③ 家事・育児サービスの充実
- ④ 男性の家事参加への理解・意識改革
- ⑤ 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- ⑥ 働き続けることへの女性自身の意識改革
- ⑦ 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- ⑧ 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- ⑨ 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入
- ⑩ 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- ⑪ その他（ ）

男女平等に関する教育についてお聞きします

問17 男女平等を推進していくために、将来を担う子どもたちが、どのようなことを学べばよいと思いますか。（3つに○）

- ① 様々な考え方を持つ人がいることに気づき、互いを認め合う力を養うこと
- ② 男女相互について理解し、人間関係を築きながら、共に協力し尊重し合うこと
- ③ 一人一人の社会的・職業的自立に向け、自分の人生をデザインしようとする力を身につけること
- ④ 男女が協力して家族の一員としての役割を果たせるようになること
- ⑤ 性別の違いで役割を決めつけるような見方・考え方を持たないようにすること
- ⑥ 発達段階に応じ、適切な性に関する理解ができるようになること
- ⑦ あらゆる暴力防止に向けた意識形成ができるようになること

社会生活における男女共同参画についてお聞きします

問18 あなたは今までに、地域活動や地域行事に参加したことがありますか。(1つに○)

① 参加したことがある

➡ 問18-1へ

② 参加したことはない

➡ 問18-2へ

＜問18で「①」と回答した方にお聞きします。＞

問18-1 それは、どんな地域活動や地域行事ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ① 自治会・町内会の活動 | ② 盆踊りやお祭りなどの催し |
| ③ 防犯や交通安全のための活動 | ④ 防災活動 |
| ⑤ 廃品回収 | |
| ⑥ 運動会・スポーツ大会・レクリエーション活動 | |
| ⑦ 道路や公園の清掃などの環境美化活動 | |
| ⑧ 子ども会やスポーツチームなどの指導 | |
| ⑨ 高齢者や障害者へのボランティア活動 | |
| ⑩ 消費者・人権・平和・環境保全などの市民活動 | |
| ⑪ 行政の各種委員会のような活動 | |
| ⑫ 政治活動 | |
| ⑬ 趣味の講習会やサークル活動 | |
| ⑭ 教養を高めるための講演会や講座 | |
| ⑮ 地域の歴史や伝統芸能の保存 | |
| ⑯ その他（ | ） |

＜問18で「②」と回答した方にお聞きします。＞

問18-2 これまで、地域活動に参加したことがない理由は何ですか。(3つに○)

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| ① 一緒に参加する仲間がいない | ② 近くに適当な施設がない |
| ③ 自分の参加したい活動がない | ④ 地域で行っている活動の詳しい情報が得られない |
| ⑤ 時間帯が合わない | ⑥ 参加するきっかけがつかめない |
| ⑦ 仕事が忙しい | ⑧ 子どもの世話がある |
| ⑨ 子どもを安心して預けられるところがない | |
| ⑩ 家族の協力が得られない | |
| ⑪ 高齢者や病人の世話がある | |
| ⑫ 健康に自信がない | |
| ⑬ 人間関係がわずらわしい | |
| ⑭ その他（ | ） |

問19 今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つに○）

- ① 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす
- ② 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくす
- ③ 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる
- ④ 年配者や周りの人が、夫婦の役割分担についての当事者の考え方を尊重する
- ⑤ 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関わることについて、社会的評価を高める
- ⑥ 労働時間短縮や休暇制度を普及し、仕事以外の時間を多く持てるようにする
- ⑦ 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心が高めるように、啓発や情報提供に努める
- ⑧ 男性の家事、子育て、介護などに関わる技能を高める講習会などを開催する
- ⑨ 子育て、介護、地域活動などに関わる男性の仲間（ネットワーク）づくりを進める
- ⑩ 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
- ⑪ その他（ ）

男女の人権に対する問題についてお聞きします

問20 次の項目のうち職場において、あなたがセクシュアル・ハラスメントだと思う・経験したことがあることはどれですか。（○はいくつでも）

	セクハラだと思う	経験したことがある➡問21-1へ
① 地位や権限を利用して、性的な関係を迫る		
② さわる、抱きつくなど肉体的接触をする		
③ 性的冗談や質問、冷やかしの言葉をかける		
④ ポルノ画像、性的ジェスチャーなどを見せる		
⑤ 「異性関係が派手だ」などと性的な噂を流す		
⑥ じろじろ見たり、容姿のことを話題にする		
⑦ 宴席で、お酌やデュエット、ダンスを強要する		
⑧ 目につきやすいところにポルノ画像などを掲示する		
⑨ 結婚予定や出産予定をたびたび聞く		
⑩ その他（ ）		

※相談窓口 性被害ワンストップセンターひろしま：082-298-7878 24時間365日対応

問21 最近、配偶者・パートナー間での暴力が問題となっていますが、身近で経験したことがありますか。（〇はいくつでも）

- ① 命の危険を感じるほどの暴力を受けたことがある
- ② 医師の治療が必要となるほどの暴力を受けたことがある
- ③ 医師の治療が必要ない程度の暴力を受けたことがある
- ④ 何を言っても無視され続けたことがある
- ⑤ 汚い言葉や大声で怒鳴られたことがある
- ⑥ 交友関係や電話を細かく監視されたことがある
- ⑦ 必要な生活費を渡されなかったことがある
- ⑧ 見たくないのにポルノ画像等を見せられたことがある
- ⑨ いやがっているのに性的な行為を強要されたことがある
- ⑩ 身近に暴力を受けたりふるったことのある当事者がいる
- ⑪ 身近な人から相談を受けたことがある
- ⑫ 経験したことはない

⇒ 問 21-1^A

＜問20で「経験したことがある」に○，または問21で「①」～「⑪」に○をつけた方にお聞きします。＞

問21-1 これまでに暴力について誰かにうちあけたり、相談したことはありますか。
(○はいいくつでも)

- ① 警察に連絡・相談した
② 公的な相談窓口や電話相談に相談した
③ 民間の機関（弁護士など）に相談した
④ 医師・カウンセラーに相談した
⑤ 家族や親戚に相談した
⑥ 友人・知人に相談した
⑦ その他（
⑧ 誰（どこ）にも相談しなかった → 問22-2へ

➡ $22-2^{\wedge}$

※相談窓口 DV相談プラス：0120-279-889 24時間電話対応・10か国語対応
DV相談ナビ：#8008 最寄りの配偶者暴力支援センターに接続します

＜問21-1で「⑧」と回答した方にお聞きします。＞

問21-2 どこにも相談しなかった理由はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- ① 仕返しが怖い ② 相談するところがわからなかった
③ 言いたくない ④ 恥ずかしい
⑤ 言っても解決しない ⑥ 子どものため
⑦ 関わりたくない ⑧ 自分さえ我慢したら、何とかこのままやっていけると思った
⑨ その他（ ）

＜問24で「①そう思う」または「②どちらかといえばそう思う」と回答した方にお聞きします。＞

問24-1 性的少数者の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生きやすくなるためには、どのような対策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- ① 行政が市民等への周知啓発を行う
- ② 相談窓口等を充実させ、その存在を周知する
- ③ 生徒や市民への対応を想定し、小・中・高等学校の学校教員や行政職員への研修等を行う
- ④ 法律等に、性的マイノリティ(性的少数者)の方々への偏見や差別解消への取組を明記する
- ⑤ 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
- ⑥ 行政がパートナーシップ宣誓制度※を導入する
- ⑦ 働きやすい職場環境づくりの取組をする
- ⑧ トイレや更衣室など使いやすいように施設面での環境を整える
- ⑨ その他（具体的に： ）
- ⑩ わからない

※パートナーシップ宣誓制度とは、お互いを人生のパートナーとして日常生活において相互に協力し合うことを約束した一方または双方が性的マイノリティである二人が、市長に対してパートナーであることを宣誓した宣誓書を提出し、市は宣誓書受領書・受領カードを交付するものです。

男女共同参画の実現についてお聞きします

問25 あなたは、政策・方針決定の過程に女性があまり進出していない理由は何だと思いますか。（〇はいくつでも）

- ① 家庭・地域・職場における性別役割分担があるから
- ② 男性優位の組織運営になっているから
- ③ 家族の支援・協力が得られないから
- ④ 女性の能力発揮の機会が不十分だから
- ⑤ 女性の活動を支援するネットワークが不足しているから
- ⑥ 女性側の積極性が十分でないから
- ⑦ その他（ ）

問26 あなたは、今後防災や災害復興において行政や地域が、女性の視点を特に取り入れて取り組んだ方がよいと考えるのはどのようなことですか。（〇はいくつでも）

- ① 防災計画や復旧・復興計画の計画づくりへの女性の参画を促進する
- ② 行政の防災担当者に女性を増やす
- ③ 消防団員に女性を増やす
- ④ トイレや着替えの問題など、男女のニーズの違いを把握して災害の予防や復旧にあたる
- ⑤ 被災地でのボランティアに女性を増やす
- ⑥ 地域において、女性の防災組織・リーダーを育成する
- ⑦ 地域において、ひとり暮らしの高齢者などの誘導方法を事前に検討する
- ⑧ 地域において、防災訓練をする
- ⑨ その他（ ）

問27 あなたは、次の①～⑦の分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。あなたの気持ちに最も近いものをそれぞれ答えてください。（○は①～⑦それぞれ1つだけ）

	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかとい えば男性 の方が優遇 されている	平等に なっている	どちらかとい えば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 非常に優遇 されている
① 家庭生活	1	2	3	4	5
② 職場	1	2	3	4	5
③ 学校教育の場	1	2	3	4	5
④ 政治の場	1	2	3	4	5
⑤ 法律や制度の上	1	2	3	4	5
⑥ 社会通念・慣習・しきたりなど	1	2	3	4	5
⑦ 社会全体	1	2	3	4	5

問28 男女共同参画社会の実現を目指し、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

- ① 男女共同参画の視点から慣習の見直しや啓発を進める
- ② 政策や方針決定過程への女性の参画を拡充する
- ③ 就労における男女機会均等や就業環境の整備を進める
- ④ 子育て・介護に関する多様な支援を拡充する
- ⑤ 男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める
- ⑥ 女性に対する暴力を根絶するための支援を促進する
- ⑦ 女性のための相談を充実する
- ⑧ 男性への意識啓発および相談を充実する
- ⑨ 生涯を通じた女性の健康保持を支援する
- ⑩ 国際交流・国際協力に男女がともに参画できるよう支援する
- ⑪ その他（ ）

その他、男女共同参画社会の実現について、ご意見等があればご記入ください。

--

調査は以上で終わります。ご協力ありがとうございました。